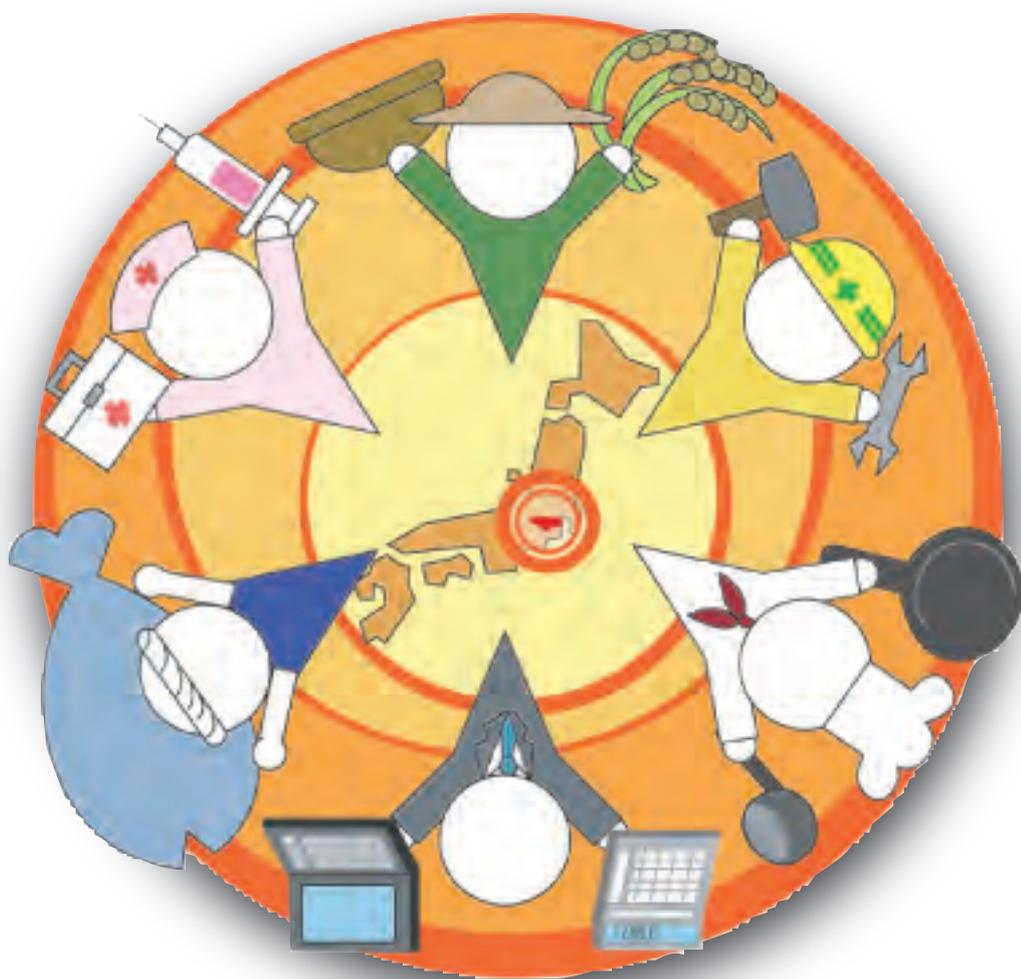


# 東京の産業教育

特集 特色ある産業教育を目指して  
—各校・各学科の取組—



平成28年度 第54号  
東京都産業教育振興会

# 東京の産業教育 第54号 目次

## 巻頭のことば

「新たな専門高校を目指して」

東京都産業教育振興会副会長 高石 公一・・・1  
(東京都立葛飾商業高等学校長)

## 特集 特色ある産業教育を目指して—各校・各学科の取組—

- 1 都立専門高校の改革  
～都立専門高校に関する「都立高校改革推進計画・新実施計画」について～  
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 久保 静生・・・2
- 2 地域資源を活かした産業教育の推進  
～伊豆大島におけるツバキを活用した教育実践～  
東京都立大島高等学校長 浅見 浩一郎・・・4
- 3 ものづくり産業の人材育成と、アクティブラーニングに関する校内推進事業について  
東京都立六郷工科高等学校主幹教諭 佐々木 輝・・・6
- 4 五商の特色ある教育実践  
東京都立第五商業高等学校長 佐藤 俊一・・・8
- 5 特色ある産業教育を目指して～服飾科、食物科における取組～  
東京都立農業高等学校長 齋藤 義弘・・・10
- 6 地域との連携による防災への取組  
東京都立晴海総合高等学校主幹教諭 中村 留美・・・12
- 7 心豊かな技術者を目指して  
大森学園高等学校教頭 安達 毅・・・14
- 8 未来を切り拓く力～成功体験を積み重ねて自分を育む～  
村田女子高等学校教頭補佐 泉谷 尚俊・・・16
- 9 中学校技術・家庭科 技術分野の取組「養蜂の学習」  
葛飾区立葛美中学校長 志村 昌孝・・・18
- 10 ファッション分野における産学連携教育の取り組み  
二葉ファッションアカデミー校長 吉野 たけし・・・20
- 11 都立産業技術高専電気電子工学コースにおけるデザイン思考教育  
東京都立産業技術高等専門学校ものづくり工学科  
電気電子工学コース教授 小林 弘幸・・・22

## 東京の産業界

- 1 当金庫の「金融リテラシー」への取組  
亀有信用金庫理事長 矢澤 孝太郎・・・24

2	ライフサイクルコントラクターとして 国光施設工業株式会社代表取締役社長 坂西章	26
---	--	----

## 情報スクエア

1	平成28年度高校生夕張キャンプ第I期に参加して 東京都立忍岡高等学校長 岡島まどか	28
2	平成28年度「教員海外産業教育事情研修」報告 ードイツのデュアルシステムの調査研究ー 東京都立園芸高等学校長 徳田安伸	30
3	第14回創造ものづくりフェア in TOKYO 東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長 台東区立駒形中学校長 瀬川真也	32
4	平成27年度「キャリア教育優良学校」文部科学大臣表彰を受賞して 昭和第一学園高等学校キャリア相談室長 柳田正美	34
5	第26回全国産業教育フェア石川大会・第58回全国産業教育振興大会（石川大会）	36

## 報 告

1	平成28年度 総会・講演会報告	39
2	平成28年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰	48
3	平成28年度 東京都産業教育振興会後援事業	49
4	平成28年度 産学懇談会（第1回）	50
5	平成28年度 産学懇談会（第2回）	52
6	平成28年度 第27回東京都産業教育振興会作文コンクール	
	(1) 入選者一覧	54
	(2) 最優秀作文	56
	(3) 応募校一覧・応募数の推移・分野別応募数・応募男女比等	59

## 本会の概要

1	平成28年度 事業経過報告（平成29年2月20日現在）	63
2	平成27年度 決算	65
3	平成28年度 予算	66
4	平成28年度 役員、委員一覧	67
5	本会会則	69
6	平成28年度 会員名簿	71
7	入会案内・編集後記	88

広告目次	89
------	----

## 巻頭のことば

### 「新たな専門高校を目指して」

東京都産業教育振興会副会長

(東京都立葛飾商業高等学校) 高石 公一



東京都産業教育振興会の会員皆様におかれましては、日頃から専門高校の教育活動にご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

専門高校は、これまで農業・工業・商業・家庭・福祉・産業などの専門的知識・技能の習得と、職業人として必要な勤労観・職業観を身に付けさせ、多くの有為な人材を産業界に送りだし、日本経済を支えてきました。

しかし今、グローバル化の急速な進展やコンピュータの進化により人工知能が生み出され、これまで人間が行ってきた作業・業務を人工知能が行うことが可能となり、近い将来、現在人が行っている作業の50%近くは代替可能であるという報告まであります。したがって、将来、専門高校生が日本の経済社会を中心として活躍しなければいけない時代には、労働環境や産業構造が大きく変化することになり、20年、30年先の社会で活躍するための資質を

養っていく必要があり、専門高校の果たすべき役割が重要になります。

そこで、東京都教育委員会では、都立専門高校改編基本構想検討委員会を設置し、今後の専門高校の在り方に関して検討し、昨年、今後の専門高校の在り方や、各学科の学習内容の改善に係る方向性が示され、都立高校改革推進計画・新実施計画が策定されました。

その中の専門高校の改善については、工業高校については、デュアルシステム科の拡充、エンカレッジスクールの追加指定、学科改編の推進。商業高校については、学校の改編や学科改編を実施し、規模の適正化。そして、新たに家庭・福祉高校の設置が公表されました。今後は、各専門高校が、都立高校改革推進計画・新実施計画に基づいて、企業や生徒等のニーズに応じた学科の改編や、具体的に教育内容と指導体制の見直し・改善を図って、実学を重視した魅力ある専門高校づくりを推進していくこととなります。

これからの専門高校では、生徒に「答えのない課題に取り組む力」を育成する必要があります。変化の激しい社会では、昨日の正解が今日は通用しない。また、今日の正解が明日の正解にならないことがあります。つまり、その場の状況におけるベストの答えを常に探さなければならないのです。ですから、常に課題に対し、より良い答えを探す意欲や熱意、行動力や実行力を身に付けさせなければなりません。そのためには、生徒に様々な経験・体験を数多くさせることです。具体的には、学校の外へ出て、現場実習や企業等と連携した商品開発、実店舗経営等、生徒が主体的に取り組める教育活動を積極的に実施していく必要があります。このような教育活動を実施するためには、東京都産業教育振興会の会員をはじめ産業界の方々との連携が重要です。これまで以上に専門高校で学ぶ子供達のために、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

**特 集**

**特色ある産業教育を目指して—各校・各学科の取組—**



**都立専門高校の改革**

～都立専門高校に関する「都立高校改革推進計画・新実施計画」について～

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 久保 静生

**1 はじめに**

都立専門高校は、専門教育の学びを通して生徒一人一人の興味・関心を高め、実社会で活躍するための有用な力を伸ばし、生徒の希望する進路の実現につなげている。また、地域産業を支える人材を育成することで、東京の産業ひいては日本の産業の発展を支えていく上で、重要な役割を果たしている。

一方、都立専門高校においては、普通科高校と比較して、中途退学率が高く、積極的に志望する生徒の割合が少ないなどの課題が明らかとなっている。このような背景を踏まえ、ものづくり人材の育成など、社会の変化と期待に応える人材の育成を推進し、生徒の能力の伸長と進路実現を図るため、専門高校の教育内容と体制を見直すことで魅力ある専門高校づくりを進め、専門教育を改善していく必要がある。

**2 「都立高校改革推進計画・新実施計画」について**

東京都教育委員会では、時代の変化による新たな課題にも対応した、都民の期待に応えられる都立高校の実現に向けて、平成28年2月に「都立高校改革推進計画・新実施計画」を策定した。

これまで、都立高校改革における都立専門高校の改善については、「都立専門高校改編基本構想検討委員会」（平成25年12月）や「都立専門高校改編基本計画検討委員会」（平成26年8月）等の報告書において、都立専門高校の課題及び、改善の方向性等が示された。これらを踏まえた都立

専門高校に関する「都立高校改革推進計画・新実施計画」は、以下の通りである。

**(1) 次代を担う社会的に自立した人間の育成**

～社会的・職業的自立意識の醸成～

ア 専門教育の充実

**(7) 技術・技能の習得に向けた取組の改善**

平成27年度から全ての専門高校で取り組んでいる「都立専門高校技能スタンダード」（都立専門高校の生徒の専門性の向上を図るため、専門高校において生徒が身に付けるべき、専門分野に関する主な技術・技能の具体的な内容を定めたもの）について、これまでの取組の成果を検証し、産業界が求める技術・技能など、生徒の専門性向上に資する改善を図る。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
全校での実施状況の検証	改善の検討	各校の教育課程への反映

**(イ) アグリマイスター顕彰制度を活用した農業教育の推進**

農業科の高校において、農業に関する技術・技能の習得の成果を顕彰する「アグリマイスター顕彰制度」（資格取得や検定試験合格など、農業に関する知識・技術を習得し、専門性を高めた生徒にアグリマイスターの称号を授与する制度）を導入するなど、生徒の専門性の向上を図る。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
顕彰制度の導入	➡	

(ウ) ものづくりへの興味・関心を高める工業教育の充実

工業高校において、ものづくり人材を育成していくため、ものづくりの面白さや魅力を学び、ものづくりへの興味・関心を高めていくような学校設定科目を開発し、導入を推進する。

また、全ての工業高校でインターンシップをより一層推進し、企業等と連携した実践的な教育活動を充実させる。

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
新科目の開発	教育課程の検討・具体化	順次実施
インターンシップの充実		

(エ) ビジネスを実地に学ぶ商業教育への改革

商業高校において、実社会でのビジネスに直結した授業の充実を図るため、1 学年で東京や地域のビジネスについて調査・研究する科目「東京のビジネス（仮称）」、2 学年で企業や地域と連携した市場調査や商品企画を行う科目「ビジネスアイデア（仮称）」を学校設定科目として開発する。

また、商業高校が企業や地域との連携を深め、ビジネスを実地に学ぶ機会を拡充していくため、商業高校や企業、大学、専門学校、関係機関などが共同して教育活動を支援する組織を設立する。これらの改革に併せて、全日制課程の商業科、情報処理科、総合ビジネス科のビジネス（仮称）科への改編等について検討していく。

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
新科目の開発	試行校による実践	新科目の開講
支援組織の設立準備	支援組織の設立	

(2) 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進 ～都立専門高校等の改善～

ア 都立専門高校等の改善・充実

(7) デュアルシステム科の拡充

地域企業の求める人材の育成につながり、産業界から評価されている「東京版デュアルシステム」を更に推進していくため、都立六郷工科高等学校と同様のデュアルシステム科を都立葛西工業高等

学校と都立多摩工業高等学校に設置する。

(イ) エンカレッジスクールの追加指定

ものづくりに興味・関心のある生徒の進路実現を支援し、ものづくり産業を担う人材を輩出するため、都立練馬工業高等学校での取組の成果を踏まえ、都立中野工業高等学校をエンカレッジスクールに指定する。

(ウ) 工業高校における学科改編の推進

工業高校において、中学生やその保護者、産業界のニーズを踏まえ、分かりやすい学科名称にするなど学科改編を検討していく。

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
学科改編検討		改編計画の策定

(エ) 商業高校の適正規模・適正配置

商業高校（普通科・商業科併置校を含む。）において、志望倍率の低迷、不本意入学者の存在、学習する専門分野と生徒の進路希望との相違が生じていることなどを踏まえ、学校の改編や学科改編を実施し、規模の適正化を図る。その際、都立五日市高等学校では、学校や地域にある資源等を生かした特色化の推進を検討していく。

イ 保育や介護分野などを学ぶ学校の整備

共働き世帯の増加や超高齢社会の到来により、保育人材や介護人材の育成などの喫緊の課題に対応した専門教育を展開する必要があるため、保育や介護分野などを学ぶ学校を整備する。

(7) 家庭・福祉高校の設置

入学者選抜の応募倍率が高い調理師を養成できる家庭科や、不足が見込まれる保育人材を育成する家庭科、超高齢社会に対応した介護人材を育成する福祉科を併せもった高校を新たに設置する。

3 おわりに

東京都教育委員会は、新実施計画を着実に推進し、より良い都立専門高校の実現に向けた改革を進めていく。また、産業界との連携を更に深め、都立専門高校の充実・発展に努めていく。



## 地域資源を活かした産業教育の推進

～伊豆大島におけるツバキを活用した教育実践～

東京都立大島高等学校長 浅見 浩一郎

### 1 はじめに

本校は創立73年を迎え、普通科2学級・併合科（農林科・家政科）1学級の各学年3学級、生徒数は全校142名、小規模ながら地域に根差した学校である。校内には伊豆大島の象徴であるツバキ、その園芸品種を蒐集した椿園があり、2016年2月に「国際優秀つばき園」に認定された。本校農林科のツバキを活用した教育実践と、活動を通じた生徒の変容の様子を報告させていただく。

### 2 ツバキを活用した特色ある教育実践

#### (1) 椿油づくり

伊豆大島にはヤブツバキ約300万本が自生し、古くから椿油が作られてきた。椿油は化粧品にも食用にもなる大変優れた特産物で、戦前の伊豆大島は椿油と三原山の観光で全国的に有名であった。しかし、高度経済成長期以後、過疎化・高齢化と共に伊豆大島の地場産業は衰退している。そ



全国農業高校収穫祭



椿油・島高ラー油

ここでツバキという地域資源で地域の産業を掘り起すことを目的に、本校では椿油づくりに取り組みはじめた。秋に全校生徒に呼びかけて、生徒昇降口に椿ポストを設置してツバキの種実を集め、農林科の授業で選別・調整を行い、地域の事業者と連携してオリジナル

販売を行っているがたいへん好評であり、昨年度の全国農業高校収穫祭では、スキンケア用椿油と椿油入りラー油「島高ラー油」を販売し、「お客さま賞」を受賞することができた。



生徒による椿園ガイド

#### (2) 椿学

生徒が学んだことを発表する場として、「椿学」と名付け、さし木教室や椿園ガイドなどを実施している。わかりやすく教えるために創意工夫するという学びの場になっているだけでなく、地域の方とツバキの魅力を共有できる場になっている。2016年の夏には、「伊豆大島椿セミナー」と名付け、伊豆大島ジオパークおよび東邦大学と連携してツバキの研究発表会を行い、島内外から80名を超す参加者があるなか、本校生徒も発表を行った。また、伊豆大島夏まつりでは、椿園ブースにてツバキを学ぶことができる展示やゲームなどを実施し、ツバキを通じて幅広い世代の多くの方々と交流することができるようになってきた。他県の高校からも本校の見学を希望する声があり、2016年の夏休みは3校50名近くをお迎えした。

#### (3) 国際優秀つばき園認定

島内にある都立大島公園椿園、民間の椿花ガーデン、本校椿園の3園同時申請の形で取り組み、

大島における産官学連携として注目された。国際ツバキ協会が認定する国際優秀つばき園は全世界に約50か所あるが、本校は教育機関としては世界初の認定になった。日々の管理に加えて、造園的な四つ目垣制作、情報処理分野ホームページ制作、QRコード付樹名板作成などの準備を整えた。認定には厳しい基準を満たすのと同時に、海外の理事の現地審査が必要であるため、長期にわたり準備を進め、2015年10月、英国の理事に生徒全員で英語での案内・説明を行った。翌2月には中国雲南省大理で行われた国際ツバキ大会に本校代表生徒が世界15か国約300名の参加者を前に英語でプレゼンテーションを行い、認定を得ることができた。



「国際優秀つばき園」認定（大理）

### 3 教育実践を通じた生徒の変容

(1)～(3)の活動を発表し、イオンエコワングランプリで審査員特別賞、日本森林学会高校生ポスター発表で最優秀賞を受賞することができた。この受賞に加えて、全国農業高校収穫祭で伊豆大島特産品が高評価を得たこと、日々地道に管理していた椿園が国際優秀つばき園に認定されたことは生徒にとってたいへんな驚きであったようだ。地域資源の魅力は、外部の評価を得てから気付くことが多い。現在の伊豆大島のツバキはまさにその典型であり、地域の間人がその魅力に気付くことができれば、大きな自信と大きな推進力になる。

「椿油づくり」では、受賞後には生徒が今までに増して自発的に取り組むようになり、島外での販売実習の希望者も大幅に増加した。

「椿学」では、国際優秀つばき園認定を境に島外も含め参加者が多くなり、様々な方に注目され

ることで生徒に自覚が生まれた。自分たちが管理している椿園、自分たちが学んでいるツバキの魅力を多くの人たちに伝えられるよう、主体的に準備に取り組み、誇りと自信をもってプレゼンテーションやイベント運営ができるようになってきた。

「国際優秀つばき園認定」の取組では、生徒は外部専門家を含めた様々な方々との交流・連携や指導・助言を受けて大きく成長した。身近な植物であるツバキが世界中で愛好され、歴史や文学などと深く関連していることに気付き、今回、国際的な認定を受けたことは、生徒の大きな成功体験となった。農林科の生徒であることに誇りを感じる生徒が多くなったことは喜ばしい限りである。

### 4 まとめ

ツバキを活用した実践を通じて、生徒は栽培技術のみならず、プレゼンテーション能力、語学力、歴史・文化の知識、外部との連携・交流によるコミュニケーション能力など様々な力を身に付けることができている。本校の活動が大島の地域住民や関係機関等から評価され、生徒が自分たちの住む伊豆大島の魅力に気付き、日々の教育活動に自信を持ちさらに意欲的に活動するようになったことはたいへんな大きな成果である。また、農林科の新入生数の増加という嬉しい結果も得ることができた。ツバキは大島の誇る地域資源であり、地域資源はその地域の産業や人々の生活に密着している。本校の教育目標である「郷土を敬愛し、世界を視野にした勤労を貴ぶ人材の育成」のもとに、地域資源を活用して生徒を伸ばすことで、学校の活性化と地域再生を促進し、未来創造につながると信じて、今後も産業教育に取り組んでいく。



伊豆大島「椿まつり」



## ものづくり産業の人材育成と、アクティブラーニングに関する校内推進事業について

東京都立六郷工科高等学校主幹教諭 佐々木 輝

### 1 はじめに

二年前に本校に赴任した佐々木哲校長は、低迷する日本のものづくり産業の課題を解決するために、今までにない発想で技術や製品を生み出す、イノベーション人材を産み出すことが急務であると考えていた。そこで平成27年度より、工業高校である本校のカリキュラム改革に着手した。その目的は、アクティブラーニングの手法を活用した授業を実施できる教員を育成し、その授業によってイノベーション人材を産み出すことである。以下にその取組について紹介する。

### 2 大田区の工場や、ものづくり産業の課題

東京都立六郷工科高等学校のある「ものづくりの街」大田区には約3500の工場が集積する。大田区の工場数はピーク時である1983年から比べると6割も減っていたことが区の推計で分かった。そのような中、本校の提携企業の社長が語った言葉が大変示唆に富んでいる。「大田の工場は、与えられた設計図から徹底して正確につくるのがうまい。しかし、今はそれ以上の付加価値を求められる時代。多くの工場が苦しみながら次の一手を模索している」。

日本のものづくり産業における人材を育成してきた工業教育において、このことは、看過できない問題である。なぜなら、一流の技術者・技能者を育成するために行ってきた従来の工業教育のカリキュラムでは、立ち行かなくなってしまった現状があるからである。

工業教育が育成してきた、一流の技術者・技能者は、残念なことに大手企業等の顧客からの注文

を正確に遂行する、優れた下請け人材であった。これからの時代に求められる技術者や技能者とは、例えば、企画力・創造力といったクリエイティブな能力、協働的でリーダーシップを発揮できる能力、組織のリーダーを支える優れた参謀としての能力等、個人でも組織の中でも「付加価値」や「次の一手」を生み出すことのできる能力が必要である。そのような技術者や技能者を育てることの出来る教員を意図的、計画的に育ててゆかなければならない。

### 3 アクティブラーニングの手法を活用した授業を実施できる教員の育成

本校は、日本のものづくり産業の発展のために従来の工業教育のカリキュラムに、アクティブラーニング（以下、ALと略す。）の手法を活用した指導内容や指導法を加えることで、「付加価値」や「次の一手」を生み出すことのできる技術者や技能者を育てたいと考えている。ALの手法は、主体的・対話的で深い学びという視点からの学習指導方法である。本校は、教員が生徒に知識や技術、技能をただ一方的に伝達するという、従来の工業教育が行ってきた授業方法を改める。ALの手法を活用した授業を教員が実施することで、以下のような効果が生まれる。授業中に教員が生徒に与えた適切な課題を、生徒たちが主体的にPDCAサイクルに沿った方法で解決する。その際、生徒は他の生徒達や教員、時には地域の方や保護者等の協力を得ながら、課題を解決する。その課題解決の過程において、生徒は最初の考えに比べ、より高度で深化した考えや気づきを得る。繰り返

しになるが、以上のような授業を本校の全教員が実施していくことで、「付加価値」や「次の一手」を生み出すことのできる、ものづくり人材を育てる、というのが本校の取組である。

#### 4 本校の AL 校内推進の取組

##### (1) 取組事例 AL に関する校内研修会の実施

- 1) 平成 27 年 12 月 大学教授による AL 型の授業の実践研修会
- 2) 平成 28 年 3 月 大学教授による「知識構成型ジグソー法」AL 型授業実践研修会
- 3) 平成 28 年 6 月 大学教授による「コーチング」を基にした AL 型授業実践研修会など、計 6 件の校内研修会を実施した。

##### (2) 取組事例 AL 推進に関する先進校視察

- 1) 平成 27 年 11 月 大田区立安方中学校「学ぶ意欲を高めるキャリア教育」公開授業・学校視察
- 2) 平成 27 年 12 月 鳥取県教育委員会「AL 県内推進」センター視察
- 3) 平成 28 年 3 月 福岡工業大学「AL 実践事例研究会」学校視察
- 4) 平成 28 年 9 月 名古屋工業高等学校「資格取得に関する校内推進の取組」学校視察など、計 11 件の先進校視察を実施した。

##### (3) 取組事例 全教員による AL の手法を活用した授業の実施

- 1) すべての座学の授業を AL 型授業にする授業公開の実施（平成 28 年 6 月、11 月に実施）
- 2) 自己申告面接時に全教員が年間 2 回以上の AL 型授業実施状況を報告
- 3) 校内 AL 推進 PT や校内 AL 推進中央会議、校内授業改善 PT 等、組織の編成
- 4) 全教員が執筆する AL 授業の取組に関する研究紀要制作（平成 29 年 2 月予定）

#### 5 2 年間の取組の成果と課題

まずは成果についてだが、平成 27 年 5 月に本校教員に実施したアンケートにて、「AL の授業を

理解している」と回答した教員は 43%であったが、平成 28 年 5 月に実施したアンケートの同項目の数値が 89%に上昇した。また、平成 27 年 10 月に本校教員に実施したアンケートにて、「AL の授業を実施している」と回答した教員は 54%であったが、平成 28 年 12 月に実施したアンケートの同項目の数値が 89%に上昇している。よって、校内研修等によって本校教員の AL 型授業の理解度、実施率に関する推進は成果をあげていると言える。

次に課題についてだが、平成 27 年 10 月から平成 28 年 6 月までに実施した校内研修後のアンケート結果の数値の分析をすると、「本研修は自分の抱えていた課題等の解決に結びつくと思う」の数値と「本研修は自分にとって新たな課題を見つけることのできる研修であった」の数値が大きく変化していない。共に「当てはまらない」と回答した教員が 15%、「当てはまる」と回答した教員が 50%程度いる。この数値は毎回変化していない。各教員の AL 型授業に対する課題への認識にバラつきがあることが原因と考えられる。

#### 6 おわりに

従前から実施されてきた、工業高校での一斉授業は、必要不可欠な基礎知識や理論を学ぶために必要な指導方法であり、これを否定するものではない。AL の手法は、主体的・対話的で深い学び、という視点からの新たな学習指導方法である。実は、生徒を表面的に活動させることが AL 型授業の実践と考える教員もまだまだ多い。AL の手法を活用した授業を学校全体で行うことで、日本のものづくり産業を発展させる人材を産み出す、という理論と実践がまだまだ浸透していないのが本校の現状である。そこで、AL 推進 3 年目となる来年度は、「AL の深化」をテーマに、AL の型や単なる実践を重視するのではなく、各科、各教科において、生徒の育成したい力の明確化や授業内での課題設定の工夫や改善等に焦点を当てた取組を推進していく。



## 五商の特色ある教育実践

東京都立第五商業高等学校長 佐藤 俊一

### 1 はじめに

本校は、全日制課程75年、定時制課程67年の歴史と伝統のある学校である。教育目標の「知性と感性に富む創造力豊かな人間を育てる」「明朗にしてたくましい心豊かな人間を育てる」「平和を愛し、国際社会に貢献できる人間を育てる」のもと、「国立に五商あり 人づくり夢づくりのまなびや」を合言葉に、国立という地域と連携し、地域に根ざした教育を目指している。生徒の進路希望は、大学進学が増加傾向で、対応した教育活動が求められている。また、本校では、進路指導部や商業科、地域連携推進プロジェクトチーム等が中心になって学校全体で地域連携を推進している。

### 2 全日制課程の地域の企業や大学との連携授業

#### (1) 第1学年の東京都設定科目「人間と社会（ライフデザイン・社会体験活動）」

国際ロータリーと連携したインターンシップの事前学習として、毎年5月に、首都大学東京の准教授から、「業界研究、企業研究に向けて」のテーマで研究に必要な9つの分析視点を講義していただいている。生徒が受入先企業の理解を深めること、企業研究の手法など商業の専門性を高め、将来の進路選択に生かす進路学習を行うことがねらいで、生徒からは「企業について新たな視点をもつことができた」「インターンシップが楽しみなになった」などの意見があった。

#### (2) 第2学年の教科商業の特設授業

(1)と同様のねらいで、毎年9月に、JR南武線谷保駅北商店街の活性化を担っているNPO法人「くにたち富士見台人間関係キーステーション

(以下、KFとする)」の企画により、マーケティングをテーマに、一橋大学の教授による講演とグループワーク、発表などを実施している。

また、今年度は、日本政策金融公庫の実施している「創造力、無限大∞ 高校生ビジネスプラン」に、チームを編成し、すべての2年生が参加する。昨年と今年、本校では、この「高校生ビジネスプランのベスト100」に選出された。



【グループワークの様子】



【生徒の発表の様子】

#### (3) 第2学年の教科商業の学校設定科目「ビジネスデザイン」

毎年、KFのヤホレンジャー（商店街のマスコットで一橋大学の学生3名が、赤・青・黄色の着ぐるみを着て活動している）による商店街活性化のための取組の授業を実施している。生徒たちは、地域のまちづくりについて、背景や成果、苦労とやりがいなど、実践的に深く学ぶことが出来る。また、同商店街の店主さんへ生徒が取材をして、各商店のポスター制作をしている。完成後は、例年10月に、富士見台フェスティバルのビジネスポスターコンテストに参加する。昨年は、国立市の社会を明るくする運動の強調月間において、同ポスターを展示していただいた。このような取組も、商店街をはじめ、東京都中小企業振興公社や、(株)スイベルアンドノット、一橋大学、国立市、保護司等の地域の皆様の御支援によるものと感謝している。



【授業の様子】



【ポスターコンクールの様子】

#### (4) 第3学年の教科商業の科目「課題研究（起業家チャレンジ）」

毎年、富士見台商店街の御協力により、「五商ショップ」という販売実習をさせていただいている。今年は、6月に、KFに協力して「～くにたち野菜と地域グルメ～ とれたてマルシェ」の運営補助に参加した。

### 3 全教員対象の授業の研究開発と、商業科教員対象の校内研修

#### (1) アクティブ・ラーニングの研究開発と、生徒の学びの手引きの作成

地域と連携した授業をはじめ、本校の授業力の向上のため、例年取り組んできた「年間授業計画」の冊子作成に替え、平成27年度から取り組んでいる各教科のアクティブ・ラーニング（AL）の研究開発の取組を今年度、冊子にまとめる。

作成に当たっては、平成29年度に作成を構想している生徒の学習支援に役立てる「学びの羅針盤（仮称）」の作成につながるよう、意図的、計画的に作成する。

期待できる効果は、進路指導及び進路学習については「進路ノート」があるように、学習指導、主体的な学びや、健康、生活面については「学びの羅針盤（仮称）」を一人ひとりの生徒に授け、支援していくことである。

併せて、本校の学習面、進路面、生活面の指導体制等のマニュアルとしても活用する。

#### (2) 地域の専門学校の大原学園との連携

大原学園と連携し、8月に、商業科教員対象の高度資格取得指導のための簿記講座と情報処理講座を実施した。

本校生徒の商業の専門性を高め、高度資格取得を推進するためには、指導する教員の指導力の更なる向上が必要である。

特に、就職及び進学の際の推薦基準の一つとなる日本商工会議所主催簿記検定試験や、経済産業省、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の情報処理技術者試験を獲得させるための校内研修を実施して教員が授業等に活かすことにより、生徒が商業の専門の学習を深めるとともに、検定・資格試験合格につなげることによって、生徒の進路希望のより高いレベルでの実現に役立てる。

### 4 東京都教育委員会の教育施策等の活用

#### (1) 都民対象の公開講座

地域をはじめ、都民の生涯学習のニーズに応えるとともに、開かれた学校の実現を目指して、都立学校の教育機能を開放し、講座として学習機会を提供することをねらいとして、11月の日商簿記3級合格を目指し、8月から10月まで10回実施している。運営補助として、簿記部生徒が積極的にかかわっている。

#### (2) 次世代リーダー育成道場の研修

研修生に合格し、東京都の代表として、約1年間オーストラリアへ留学するなどの研修を行い、昨年3月に卒業した卒業生が、今年カナダのブリティッシュコロンビア州立大学のサイモンフレーザー大学のビジネス（経営・マーケティング）専攻で進学した。

### 5 むすびに

その他にも、地域の消防署と連携した第2学年生徒全員の普通救命講習、定時制課程の地域連携授業を行っている。

今後も本校は、地域の教育力をお借りして、生徒の専門性を高め、教育内容の充実化を図り、社会で役立つ実践的な人材を育成することにより、進路希望の高いレベルでの実現を図っていく。



## 特色ある産業教育を目指して

～服飾科、食物科における取組～

東京都立農業高等学校長 齋藤 義弘

### 1 はじめに

本校は明治42年、東京府北多摩郡立農業学校として創立、大正12年に東京府に移管され、東京府立府中農蚕学校と改称された。昭和23年、東京都立新制農業高等学校として農業と家庭の各科を設置、昭和25年、東京都立農業高等学校となり、現在は全日制課程に家庭科の服飾科、食物科の2学科、農業科の都市園芸科、緑地計画科、食品科学科の3学科、定時制課程に普通科、食品化学科の2学科を設置する専門高校である。

なお、食物科は、厚生労働大臣指定の調理師養成施設として国家資格「調理師免許」を取得できる都立高校唯一の学科である。

開校当時から常に社会の変化に対応した先進的な取り組みを行い、農業及び家庭に関する専門教育を積極的に推進してきた。また、社会に有意な人材の輩出を目指す教育理念を受け継ぎ、5つの「目指す学校像」を掲げている。

第一は、専門性の基礎・基本と普通教育を通じた確かな学力を身につけることのできる学校。第二は、生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。第三は、明るく、たくましく、思いやりがあり、社会の変化に主体的に対応できる人材を育成する学校。第四は、地域産業の発展に貢献できる人材を育成する学校。第五は、調理師養成施設として、国家資格取得を支援する学校。

生徒は、農業及び家庭に関する専門教育を通じて、一人一人の将来の夢の実現、社会に役立つ人間になることを目指して学校生活を送っている。

### 2 服飾科の教育目標、教育課程及び取組

#### (1) 服飾科の教育目標

ファッションデザイン、被服製作、服飾手芸な

どの学習を通して服飾に関する知識・技術を習得させる。あわせて感性や創造性を豊かに表現できる、バランスのとれた人間を育成する。

#### (2) 服飾科の教育課程（平成28年度入学生）

科目	1年	2年	3年
生活産業基礎	2		
生活産業情報		2	
課題研究			4
服飾手芸		2	
服飾文化		2	
ファッションデザイン	2	2	2
ファッション造形基礎	4		
ファッション造形		4	4

（表中の数値は単位数）

#### (3) 服飾科の主な取組

##### ①ファッションショー

11月上旬に実施している農高祭（文化祭）で、3年生が3年間の集大成として、自作衣装によるファッションショーを実施している。2年生は希望者が出演している。

また、平成27年度から日本ホビーショー（主催：日本ホビー協会、会場：東京ビッグサイト）に出演し日頃の学習成果を校外で発表している。



第40回2016日本ホビーショー

##### ②各種コンテストへの参加

第16回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会（主催：ファッション甲子園実行委員会）に参加した。全国42都道府県141校1,953チーム3,109点のデザイン画の応募があり、一次審査で35点を選出されたが、本校生徒の作品も選出され最終審査会に臨んだ。

### 3 食物科の教育目標、教育課程及び取組

#### (1) 食物科の教育目標

安全で豊かな食生活を送るため、調理、栄養、食品衛生などの学習を通して、適切な食品を選択できる能力と実践的な調理技術を習得させる。さらに食生活の充実に貢献できる調理師を養成する。

#### (2) 食物科の教育課程（平成28年度入学生）

科目	1年	2年	3年
生活産業基礎	2		
生活産業情報			2
課題研究			3
調理	3	6	5
栄養	1	2	
食品	2		
食品衛生		2	2
公衆衛生	1	1	2
食文化		1	
総合調理実習		3	

（表中の数値は単位数）

#### (3) 食物科の主な取組

##### ① 高校生レストラン「たまごの木」の運営

2年生、3年生は、各年3回「集団給食」（大量調理）を実施し、生徒、保護者等に食事を提供している。集団給食では、生徒が献立作成、栄養価計算、原価計算を行い、1回につき約100食の調理を行っている。また、農高祭でもレストランを



高校生レストラン「たまごの木」の運営

運営し一般来校者に、食事を提供している。

##### ② 各種コンテストへの参加

生徒は、専門学校や企業等の主催の各種コンテストに積極的に参加し、日頃の学習成果を発表している。一例として、平成28年第8回世田谷スイーツ & ブレッドコンテスト（主催：日本菓子専門学校）洋菓子部門で、金賞を受賞した。

### 4 家庭科（服飾科、食物科）の取組

全国高等学校家庭科技術検定〔食物調理〕〔被服製作〕（主催：全国高等学校家庭科教育振興会）等を受検させ、資格取得を推進している。

また、公立中学校の家庭科教員を対象に、「実習の技術指導、本校家庭科教育の理解」等を目的に、夏季休業中、「家庭科技術研修会」を3回開催した。

### 5 結びに

#### ～楽しい高校生活、服飾科・食物科で学んで～

次の文章は、私が中学生対象の本校の学校説明会等で、必ず話す内容である。「普通科高校、総合学科高校、専門高校それぞれに良さがある。専門高校の良さは、自分の興味・関心のある分野を学習できることである。また、学校外で日頃の学習の成果を発表する機会がたくさんある。その発表に対して『頑張っている。』と評価される。高い評価を得ると、生徒はさらに『頑張ろう。』と意欲が高まり、自分の学びに誇りを感じ、自信を持つ。高校生活が楽しくなる。」

服飾科の生徒は、被服、ファッションに興味・関心を持って、本校に入学してくる。被服製作に関する知識と技術を習得し、ファッション製品を創造的に製作する能力と態度を伸ばしている。

食物科の生徒は、「調理師免許」取得という明確な目標を持って本校に入学してくる。様式別調理、大量調理、食品衛生及び公衆衛生に関する知識と技術を確実に習得している。

生徒は、服飾、食物を専門的に学ぶことにより、楽しい高校生活を送っていると推察する。高校入学にあたり都立農業高校を選んだ生徒のために、さらに充実した教育活動を実践していきたい。



## 地域との連携による防災への取組

東京都立晴海総合高等学校主幹教諭 中村 留美

### 1 はじめに

本校は、東京の公立高校で最初に作られた総合学科高校であり、昨年度創立20周年を迎えた。海の玄関口である晴海に位置する本校では、東日本大震災後、東京都全域の広い範囲から通学してくる生徒の安全・安心を考え、防災班の編成を行っている。また、宿泊を伴う防災訓練も始まり、防災への意識が高まった晴海生が防災活動支援隊として自主的に研究活動を始めた。地域との連携を中心に活動した一部を報告する。

### 2 地域の施設訪問による学び

#### (1) 「そなエリア」の「東京直下72hTOUR」

災害時において、国や自治体の支援体制が整うまでは自力で生き残らなければならないが、その目安は3日間、72時間と言われている。東京都臨海広域防災公園の中にある「そなエリア」では、マグニチュード7.3、最大震度7の首都直下地震の発生から避難までを体験できる。ここでの体験は、「自助」に必要な力を付けられていないことを認識させられ、何とかしなければならないと感じた晴海生が主体的に様々な活動を始めるきっかけになった。

#### (2) 臨港消防署でのインタビューと池袋防災館

学校の防災訓練でもお世話になっている臨港消防署で自分達に何ができるのか、何を期待されているのかお話を伺った。細い路地に古い木造家屋がたくさん並ぶ月島地区では火災の危険、開発が進み高層ビルが立ち並ぶ晴海では津波の危険が考えられ、通学で通る月島地区には高齢者の方が多いこともあり、晴海生がとても期待されていることを再認識した。また、誰でも扱うことのできる可搬消防ポンプ(D級ポンプ)やスタンドパイ

プを見せていただき、扱えるようになりたいと晴海生の強い希望で講習会を実施することとなった。さらに、地図上に道路や河川、防災関連施設、危険情報等を書き込み、防災マップを作成して防災力や危険性を確認できる図上訓練を行っていた池袋防災館を訪問した。伺った当時は学校を対象としておらず、残念ながら学ぶことができなかったが、晴海生の熱意が伝わったことで、現在は学校単位でも受け入れてもらえるようになった。

### 3 主体的な活動により深まる学び

#### (1) STAND UP SUMMIT

東日本大震災の復興支援イベントとして実施されている「STAND UP SUMMIT」では、海外や東北の学生と復興へのセッションやディスカッションを行っている。晴海生は、海外の学生と英語でセッションし、盛りだくさんになりがちである情報を必要なものに限定することの大切さを学び、英語でのパンフレットを協力して作成した。

#### (2) 可搬消防ポンプ(D級ポンプ)講習会

臨港消防署のご協力をいただき、可搬消防ポンプ(D級ポンプ)とスタンドパイプの使い方を学んだ。エンジンの起動にひと苦勞する女子もおり、継続的な学びが必要と考え毎年行っているが、講習会参加生徒は年々増加している。



### (3) 非常食実習

非常時には、ライフラインが止まってしまうことも考えられる。そこで、水や道具をなるべく使わず、乾物や缶詰、瓶詰を活用した非常時における食事の実験・実習を行っている。保存期間が長い防災用食品ではなく、身近な食品を活用する方法である。調理方法は、調理する食品をポリ袋に入れ、お湯につけておくだけの湯煎調理で、楽しみながらメニュー開発に取り組んでいる。



## 4 知識や技術の活用によって広がる学び

### (1) 非常食講習会

学校周辺の晴海・月島地区の小学生を対象に、非常食講習会を実施している。低学年の児童も頼りになり、率先していろいろな仕事を行ってくれる。栄養を考えて、冷蔵保存しなくてもよい牛乳を使って乾物をもどす作業では、普段やったことのない調理法に目をキラキラさせて食品の観察をしていた。「共助」という言葉を知らなくても、助け合って食事を作り、毎年楽しい会食になっている。



### (2) パンフレット作成

情報は必要最低限にまとめることが重要であることを学び、たくさんある防災に関する情報を晴海生が整理し、非常時に備えるための準備用パンフレットと、非常時の行動をまとめた行動編パンフレットを作成した。9月の防災の日では、防災班の顔合わせが行われるため、晴海生全員と教職員に配布し、読み合わせを行っている。

### (3) 防災マップの作成

本校では、地域清掃に出かける「クリーン作戦」の中で、地域を知るために防災関連器具や施設を地図に記入して帰り、全員で防災マップの作成を行っている。地域の方からも情報を活用したいという声が挙がっており、提供できるよう準備を行っている。

## 5 地域のニーズに応じて

地域の子ども達との交流が深まるに連れて、月島児童館、晴海児童館などの地域施設の様々な行事にボランティアとして参加する生徒が増えている。ブースの企画から運営まですべてを任せられることもあり、晴海生が地域で頼りにされる機会が多くなった。また、様々な行事で顔見知りになった地域の方々には街で声をかけてくださったり、新たな要望も寄せられるなど、活躍の場は増えている。晴海生が出かけていくだけでなく、近隣の方が学校に来ていただける機会も増え、相互交流が深まり、晴海総合高校への理解も深まっている。

## 6 おわりに

主体的に学ぶ楽しさや成就感を知る卒業生から、自宅周辺の防災活動に参加している報告も受けている。将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深め、地域社会の一員として人とつながり、自分の学びを活用し、地域社会のリーダーとして力を発揮していってくれるよう、今後も地域との連携を深める教育活動に努めていきたいと考える。



## 心豊かな技術者を目指して

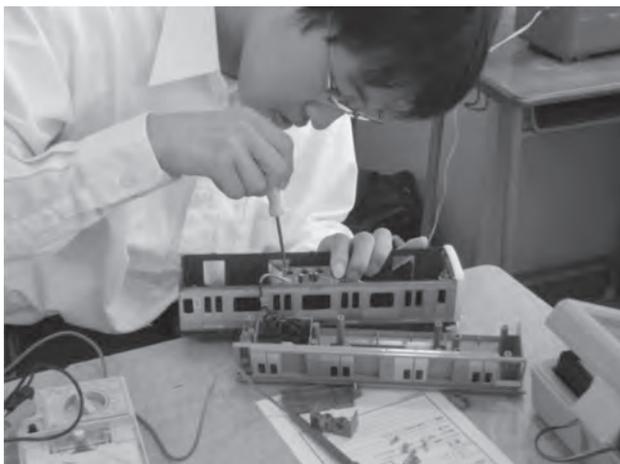
大森学園高等学校教頭 安達 毅

### 1 はじめに

今回は、『心豊かな技術者の育成を目指して』というスローガンのもと、本校が平成9年より取り組んでいるボランティア活動を紹介します。それぞれの活動は、日頃学んでいる『工業』で社会に貢献できる事はないかといった模索から始まりました。活動を通して生徒たちは授業では体験できない多くの事を学んでいる。活動することで学校外の大人と接し、その多くの方々から技術や取り組みに対して「凄いね～」と称賛していただく事により「自分に自信を持つ」ということにも繋がっている。活動を通して得た学びに視点を置いて紹介したい。

### 2 おもちゃの病院

壊れたおもちゃを無料で修理する「おもちゃの病院」を学校で開院している。おもちゃは工業製品の代表格であり技術の結晶でもある。構造を調べる事、問題を解決する事等、学習の要素が非常に多い。



基本的に子供たちの目の前で修理することを目標としており、生徒たちは子供たちからの賞賛の眼差しを感じながら活動している。その場で修理できない物は預かり（入院）、後日放課後修理して連絡する。特殊な部品は3Dプリンターを利用

する場合もある。実際に必要となる部品を作る事は質の高い学びとなる。修理して使うという「物を大切にする気持ち」が芽生えただけでなく、それを幼い子ども達に伝えようとしている生徒もいる。対象年齢を過ぎてしまったものは一般の家庭ではどのような処理のされ方をされているのかという疑問を持つ。捨てるに捨てられず物置に放置されたり、知り合いにプレゼントされたり、バザーに出されたりと様々であろうが、ゴミとして捨てるとなると、構造は複雑で不燃ゴミとして処理されるしかない現状に気付き、環境問題に思いを馳せる生徒もいる。

おもちゃ修理を通じて、おもちゃを持ってきた子供たちから同伴して来られたお父さんお母さんや祖父母といった、幅広い年齢層の人達と交流する機会が増えた。生徒たちにとってハンダ付けやテスターによる計測は基本中の基本技術だが、一般の方々、特にお母さん方の目には、手際よく作業する生徒の姿は頼もしく映る。そのことを告げられる生徒たちは工業高校生であるという自分に少しだけ自信を持つ。

### 3 車いすのメンテナンス

近隣の特別養護老人ホームで使用されている約100台の車いすのメンテナンスを行っている。生徒たちは定期的に施設に出向き整備が必要な車いすの清掃・修理を行う。実際に行う作業としては、前輪の車軸に絡みついた髪の毛やゴミの除去、後輪タイヤの空気圧チェック、パンク修理、注油、シートに付着した食べこぼしの清掃と多岐にわたる。生徒たちは担当した車いすの汚れが落ち新品同様になる事に充実感を覚え、清掃具や工具に改良を加えるといった創意工夫も見られるようになる。

そんな彼らが活動をしばらく続けて述べる感想は「こんなにも車いすを使っている人がいるとは思わなかった」である。つまり、今まで自分の身



近にもいたはずの車いすの方々に生徒たちは全く気付いておらず、活動を始めて「あそこにも、ここにも」車いすで移動している人を見つけるのである。ただ、はじめ生徒たちの目にとまるのは「どういった構造の車いすか」である。アルミか鉄か、後輪はどうやって止まっているか。フットレストは、介助者の取手は可動かなど、車いす自体に視線がいく。それがやがて車いすを使っている人に関心が寄せられるようになる。整備をしながらその車いすを使っている人の人生を想像する。その車いすに乗らざるを得なくなってしまった瞬間に思いを馳せる。きっと悲しかったろうな・・・そんな思いを持ちつつ、安全に快適に乗ってもらえる様に心をこめて整備するようになっていく。

#### 4 空飛ぶ車いす

毎年日本では大量の車いすが廃棄処分されている。使っていたおじいちゃんが亡くなって、誰も使わなくなった車いす。障害のある子供が成長して、サイズが合わなくなった車いす。施設やレンタル業者の都合で、まだ使用できるけれども新品と交換された車いす。残念ながらそのまだ使える中古の車いすをわざわざ欲しがらる日本人はいない。こういった事情でなんと日本全国で毎年3万台から5万台の車いすが廃棄されていく。1台5万円として15億円から25億円を産業廃棄物として毎年処分している国。それが日本である。一方東南アジアの国々では車いすが不足している。なんとかこの廃棄される車いすを欲しいと願っている人の下に届けられないだろうか。

こうして「空飛ぶ車いす」活動は始まった。

活動の原点は『MOTTAINAI』精神である。生徒たちは廃棄される車いすを引き取り、現地事情に合わせてノーパンクタイヤに交換し錆や汚れを

落とし整備する。そして東南アジアへ旅行する人に「その人の手荷物として」飛行機に乗せてもらう。つまり整備された車いすは無料で空輸することができる。この活動を支援しているのは公益財団法人日本社会福祉弘済会。全国50の工業高校でこの活動に参加している。

本校は一台一台を地道に海外に運ぶ普段の活動に加え、年1回、多くのみなさんに体験していただける様に『合同修理会』を開催している。『ぞうきん1枚でできる国際貢献』と銘打ったこの機会には一般生徒は勿論のこと、PTAや同窓会、地域住民のみなさんも参加し総勢で200名を超えることもある。

東日本大震災の折には東南アジアに送る予定で整備してあった車いすを急遽被災地に届け、避難所で使用して頂いた。平成23年の12月からは毎年被災地を訪問し、車いすを届け、現地で使用されている車いすを整備する活動も行った。

大森学園を巣立って第二の人生を送っている車いすは被災地102台を含めると873台を数えるに至る。(H28年8月末)

#### 5 まとめ



2014年版子ども・若者白書(内閣府)によると日本の若者(16~19歳)の自己肯定感は他国に比べ著しく低い。また、2013年度・内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に対する調査報告書」によると日本の学生の自己肯定感には自己有用感が深く関係していることがわかった。

つまり、役に立っている実感をいかにして持たせるかがとても重要になる。今回ご紹介したいこれらの活動も生徒たちは『ありがとう』の笑顔に出会う。工業を学ぶ学生だからこそ経験できるこの感動を、一人でも多くの生徒が在校中に味わい、自信をつけて社会に巣立ってもらいたいと考えている。



## 未来を切り拓く力

～成功体験を積み重ねて自分を育む～

村田女子高等学校教頭補佐 泉谷 尚俊

### 1 はじめに

本学園は、明治42年(1909年)、創立者村田謙造が「近代的経営の根幹は経理事務の充実であり、『経理の道』は国民的常識としてあまねく普及されなければならない」という信念のもとに、千代田区一ツ橋に創立した「銀行会社事務員養成所」から始まる。

また、昭和6年(1931年)、新時代の女子に必要な経済知識と経理上の技術とを修得させ、家庭や職場に修養と手腕と実行力を持つ練達有為の婦人を養成する女子職業教育のため、「村田女子経理学校」を創立した。これが本校の始まりである。

昭和26年(1951年)、村田女子商業高等学校と改称。平成11年(1999年)、文京区小石川の地に60年の別れを告げ、現在の文京区本駒込に新校舎完成により移転、新たな教育がスタートした。平成13年(2001年)に普通科設置、校名を変更し村田女子高等学校となった。

村田謙造は、「有算者勝」(算あるは勝る)を座右の銘とした。「算とは、計理・経理・計画であり、緻密な計画や信念をもって事に当たれば、必ず目的を達成することができる」これは今という時代においても真理を教えている。

本校は、このような学園創始の精神を承継し、「夢を叶えて社会で輝く女性を目指す」キャリアデザイン教育を行っている。

### 2 現在の進路状況

全国の高等学校(商業科)の平成27年3月卒業生の進路状況は大学・短大25.7%、専門学校28.3%、就職40%、その他5.9%となっている。

本校における商業科に在籍する生徒の進路状況は大学・短大55%、専門学校19%、就職21%、その他5%である。大学進学では、商業科の特徴を生かし、実績を重ねてきている。就職、進学という枠をこえて、生徒たちは希望する進路を選択し、実現できる商業科へと変貌を遂げている。

### 3 本校の学科・コース

本校は、2学科5コースを設置している。

普通科 advanced (特進)  $\alpha \cdot \beta$  コースは、一般受験での大学合格を目指している。歯学・薬学・看護など理系の進学者が増加傾向にある。

普通科 standard コースは、二つの特色がある。一つ目は、1年生では、秘書検定と情報系の検定を課外において講習を受講し検定を受験する。二つ目は1年次の1学期にアカウンティングI(簿記)を、全員が履修するカリキュラムになっている。2学期からは選択制にしているが殆どの生徒がアカウンティングIIを選択し、簿記検定3級を取得している。2年次からは、文科系・理科系・経済系の3コースを設置し、経済系では普通科目に加え英語や財務会計・原価計算を履修し、会計専門職を目指し商学部・経営学部・経済学部へ大学進学する生徒が増えている。

商業科 advanced コースは、英語や商業関連知識の習得や会計分野を学び、資格取得し大学受験に有用なものとなっている。必要な検定試験の取得率は高く、生徒の90%以上は5種目以上の検定を取得している。また、公認会計士や税理士として活躍している卒業生も輩出している。

商業科 standard コースは、会計コースは簿記

会計を中心に、総合コースは簿記や情報などのビジネス系資格取得のため、より実践的な知識や技能の習得を目指している。

本校では、生徒一人ひとりの個性を大切にし、それぞれの希望に合わせたコース選択ができるようにしている。何を目標にし、どう生きるかを発見すると、生徒は生き生きと輝き始める。本校では3年間で内に秘めている可能性を引き出し、伸ばしている。

#### 4 キャリアデザイン教育

進路指導は、キャリアデザインから始まる。高校卒業後の進路だけではなく、なりたい夢を探せるようにコミュニケーション能力、学力、そして将来の設計力が身に付く環境を整えることに力を入れている。つまり「生き方を考えること」それが本校のキャリアデザインである。本校では具体的に次のように取り組んでいる。

一つ目は、授業、課外活動そして仲間とのつながりが充実しているほど、生き方を考えるチャンスが増える。そこで、学校行事や委員会活動、部活動など日常の生活を通して、自分のやりたいことや、自分の個性が生きる場面はどんな時かを知り、集団の中で自分を生かすことを学ばせ、人間関係形成能力や意思決定能力を養い、自己理解を深めていくことでより良い生活環境づくりをする。

二つ目は、「女性のキャリア」について学ぶことに力を入れ、社会で活躍する女性講師を招き、ご講演していただいている。生徒は自分の将来を職業や進路と結びつけて考え、「自分もあんなふうに生き生きと人生を送りたい」と思うようになる。その後に大学情報や職業に関する適性など具体的な情報を提供する。こうした段階を踏むことで生徒は、「よりよい条件を求める」だけではなく、「この分野なら自分の力が発揮できるかも」と考えられるようになる。

三つ目は、受験や就職に向けての徹底的な支援である。進路決定まで教員が全力で生徒に向き合

う。主要教科の学習支援はもちろんのこと、「村田といえば資格」と言われるように、英語検定や漢字検定、簿記検定や秘書検定、情報処理系の検定などの受験に、学校を挙げて取り組んでいる。このような環境のもと生徒は「自分で未来を切り拓く力」を身に付けることができる。

四つ目は、和のこころプログラム。慌しい現代だからこそ、日本人のルーツである和の心を再発見しようと、「和の心プログラム」を実施している。お茶のお点前といけばなを体験し、家庭科の授業では浴衣を作る。日本の昔からある文化に触れれば、必ず自分の中に眠っている和の心を発見することができる。茶道も華道も、静かに茶道具や花と向き合うが、それは自分と向き合う行為でもある。忙しい学校生活の中で、自分を見つめ直す貴重な時間となる。茶道や華道を通して、いかに生きるべきかを生徒は学んでいる。

#### 5 PDCA サイクルへの取り組み

生徒一人ひとりが学習習慣を身に付けるため、学習チェックシートを作成している。各自の生活サイクルに合わせて、自ら Plan（計画）を立て、Do（実行）し、その結果を学習チェックシートに記入して Check（評価）し、そして、Action（改善）する。目標を決め、計画を立て実行していく。この繰り返しにより、生活習慣や学習状況を自分自身が知ることになる。その結果、学習時間の伸び、成績が向上する生徒が増えている。

#### 6 おわりに

本校2代目校長村田照子の「あせらずに あきらめないで 一步ずつ」という合言葉があります。「どんな時でも、常に冷静に、あきらめることなく少しずつでも前に進んでいこう」ということです。その教えを忘れずに、村田学園の歴史と伝統を守りつつ、日々刻々と変化していく時代に即した環境を整え、教育に取り組んでいきたいと思っております。



## 中学校技術・家庭科 技術分野の取組「養蜂の学習」

葛飾区立葛美中学校長 志村 昌孝

### 1 中学校技術・家庭科技術分野の学習

現行の学習指導要領では、ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料、加工、エネルギー、生物、情報に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、技術と社会・環境とのかかわりについて理解を深め、よりよい社会を築くために技術を適切に評価・活用する能力と態度の育成を重視することとしている

また、技術分野の内容は、現代社会で活用されている多様な技術の観点から、①材料と加工に関する技術、②エネルギーの変換に関する技術、③生物育成に関する技術、④情報活用に関する技術の4つで構成され、すべての生徒に履修させることになっている。

そして、技術分野の学習では、実践的・体験的な学習活動を通して、材料を加工したり、エネルギーを合理的に利用したり、生物を育成したりするという生産・活用や、コンピュータを使った情報活用にかかわる基礎的・基本的な知識及び技術の習得を図ることを必要としている。

さらに、生活上の技術的な課題に対して、様々な制約条件の中で解決策を検討したり、その結果を評価したりする活動の中で、技術と社会や環境とのかかわりについての理解を深め、技術を合理的にしかも適切に評価し活用する能力と実践的な態度を育成することが重要となっている。

### 2 「生物育成に関する技術」の学習

この学習の内容は、①生物の生育環境と育成技術、②生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育の2項目で構成されている。

都内の多くの中学校では、草花や野菜などの作物の栽培を取り上げており、飼育に関する技術を学ぶ機会は比較的少ない状況である。

東京都中学校技術・家庭科研究会研究部では、現在、「養蜂」について実践的な研究を進めている。

農作物の花粉交配やミツバチ産品を収穫したりするための技術である「養蜂」の実践について、ここに紹介する。

### 3 実際の指導（全体4時間）

#### (1)「養蜂の年間作業の流れ」「養蜂の安全な作業・技術」（1時限目）

「養蜂の歴史」と「蜜蜂飼育の概要」を説明し、グループごとに安全な作業と服装について考えを深める。



防護服を着用して生徒に説明する教師

## &lt; 学習展開 &gt;

- ① ビデオ学習で養蜂の歴史を知る。
- ② 2月から4月までの養蜂計画表について理解する。
- ③ 蜜蜂の習性を理解し、安全に作業するための服装について確認する。
- ④ 防護服を着用後、疑似蜂で安全性を点検し、試行錯誤を繰り返しながら着用方法を考える。
- ⑤ 正しい防護服の着用について理解する。

## (2) 「管理作業（採蜜）」（2 時限目）

前時で学習した「身を守れる服装」を確認し、「採蜜の作業方法」を知り、実際に採蜜の作業を行う。

## &lt; 学習展開 &gt;

- ① 採蜜の作業方法を知る。
- ② 採蜜作業のポイントについて確認する。
- ③ 巣枠を取り出す。
- ④ 遠心分離器で採蜜し検食する。
- ⑤ 採蜜作業を行って大切だと感じた3つのポイントをグループごとに考え、発表する。



採蜜作業の様子

## (3) 「美味しい蜂蜜の条件」(3 時限目)

どのような蜂蜜が美味しいのか、異なる花の蜂蜜を試食し、味の違いについて考える。花ごとに適期に採蜜すると、花の風味があって甘く味わいのあることを理解し、食味に関して考えを深める。

## &lt; 学習展開 &gt;

- ① 美味しい蜂蜜について確認する。
- ② 8種類の蜂蜜を試食し、どれが「単花蜜」「百花蜜」「味が加工された蜜」なのか考える。
- ③ 試食して感じたことを発表し、蜂蜜の食味について考える。



蜂蜜を試食しグループ活動する生徒

## (4) 「養蜂と環境・社会・生活とのかかわり」

## (4 時限目)

「養蜂と環境・社会・生活とのかかわり」を考え、ダイヤモンドランキングを作成する。

## &lt; 学習展開 &gt;

- ① 「養蜂と環境・社会・生活とのつながり」について確認する。
- ② 「養蜂と環境・社会・生活とのつながり」の10項目でダイヤモンドランキングを完成させ、その理由を考える。
- ③ グループで「養蜂と環境・社会・生活とのつながり」で特に大切だと思う3項目を考えてまとめる。
- ④ 各グループで考えたことを発表する。

今後も、上記のように様々な技術に関する学習を通して、社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度の育成を図っていきたい。



## ファッション分野における産学連携教育の取り組み

二葉ファッションアカデミー校長 吉野 たけし

### 1 はじめに

本校は、1937年に開校。森英恵先生をはじめとする多くのファッションスペシャリストを、東京・吉祥寺から産業界へ輩出してまいりました。

「涵養の精神と職業人としての自立」という建学の精神のもと、服飾全般について高度な専門的学術を教授練磨し、衣生活の改善向上に真に役立つ技能者を育成して社会に貢献すると共に、生徒の一般教養を高め、その品性を陶冶することを目的とし、その実現に取り組んでいます。

時代の中で産業界が求めるフレキシブルな教育環境を常に整備、平成24年度より経済社会のグローバル化や、知識・技術の高度化、雇用の流動化に対応した人材を育成するため、従来の専門課程昼間部学科を統合し「ファッション総合学科」を新設。時代のニーズに合わせた学科構成とすると共に、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う「職業実践専門課程」として申請、平成26年3月31日付けをもって認定を受けました。これにより、企業等と連携した実習及び組織的な教員研修を強化することで教育の質の向上を図り、平成27年度には文部科学省委託事業「ファッション分野における職業実践専門課程の質保障の評価を推進する事業」に参画、第三者評価を受審しました。

又、姉妹校として二葉栄養専門学校、二葉製菓学校を設置、衣食の分野において法人全体で地域に根ざした職業教育を実践しています。

### 2 服飾専門学校の現状

学校基本統計によると、全国で専門課程を設置している専修学校は約2800校あり、約59万人の

学生が学んでいますが、このうち服飾・家政分野の生徒数は1万5千人弱（全体の2.5%）となっています。この数字は昭和61年の生徒数と比較すると、3分の1以下となっています。

又、平成28年2月19日現在の職業実践専門課程の認定状況をみると、2540の認定学科のうち、服飾・家政分野においては94学科と大変低い数字となっています。

### 3 アパレル業界の現状

日本のアパレル産業規模は、2001年以降、10兆円前後と比較的大きな規模で推移していますが、国内供給に占める国内生産の比率は急激に減少しており、現在では約3%といわれています。これは100枚ある洋服のうち、純国産品は3枚だけということになります。

この10数年の間にアパレル産業は、消費スタイルの変化、経済のグローバル化、SPAという新しいビジネスモデルの進展、そしてファストファッションの台頭など大きな環境の変化に翻弄されてきた中で、改めて脆弱化したサプライチェーンの立て直し、そして世界に通用するメイドインジャパンのファッションの発信が強く求められています。

### 4 本校の特色ある教育

本校では、目標とする育成人材像を「グローバルな視点をもった、マネジメント能力のあるファッションスペシャリスト」としています。このような生徒を育成するべく、次のような産学連携の取り組みをおこなっています。

#### (1) 八王子ファッション協議会との連携

東京・八王子地区を中心とした、繊維関連企業（撚糸・捺染・織物・ニット・整理加工・縫製・アパレル・販売等）約70社からなる協議会と連携、オリジナル素材の開発、デザイン提案、展示会及びファッションショーの開催等、年間を通じて教員・学生ともに川上（製造）から川下（販売）まで多岐に渡って連携を行っています。

## (2) オリジナルブランド&ショップ運営

学生オリジナルブランドを立ち上げ、吉祥寺駅前校舎1階ショップ（二葉ファッションマルシェ）で販売を行っています。教育課程編成委員会での意見により「商品企画」という科目を開設。マーケットリサーチや企画・デザイン、製造における知識や技術をトータルに学び、従来はコマ割りだったものを、一気通貫の授業として展開しています。また、売り上げについても成績評価の一部とすることで、CS（カスタマーサティスファクション）についての意識付けを行っています。



校舎1階にある、常設ショップ

## (3) 東京コレクションへの参加

パリコレクションと並ぶ、世界5大コレクションのひとつ、「東京コレクション（Fashion Week TOKYO）」に、専門学校として唯一参加をしています。

学生ブランドとは別に、オリジナルブランド「ハハ」を展開し商標登録を取得。JFWコミッティの審査を受け、渋谷ヒカリエホールにて開催されるファッションショーに、2014A/Wコレクションより3シーズン続けて参加をしています。

「ハハ」ブランドの運営については、生徒・教員、卒業生、地元繊維関連企業等で構成されている「東京・多摩ファッションネットワーク」が担い、地域ブランドとして位置付けています。



Mercedes-Benz Fashion Week TOKYO  
haha 2016-17A/W Collection

## 5 これからの産学連携教育に求められること

本校では、インターンシップをはじめとする企業連携について10数年前から取り組んでいましたが、職業実践専門課程認定を機に、それらを学内において体系立てたものとなりました。

そして大事なことは、専門学校側が企業及び産業界に対して、「提案する力を持つ」ということだと考えています。それにはまず教員が産業界の現状を知り、何が問題で、その問題を解決する為には、どのような能力が必要なのか、ということをしかりと把握することが肝要です。

生徒が、企業研修にただ参加し、「新しい設備を見ました」、「現場を見学しました」、だけではいつまでもたっても専門学校は企業にとってお客様扱いです。そこで一歩踏み込んで、「このようなデザインはいかがでしょうか」、「ディスプレイをこのように変更した方が、お客様の目を引き付けますよ」と、自らの考えを述べ仕事を創造出来る生徒を育成することを目標としています。



## 都立産業技術高専電気電子工学コースにおける デザイン思考教育

東京都立産業技術高等専門学校  
ものづくり工学科電気電子工学コース教授 小林 弘幸

### 1 デザイン思考 (Design Thinking) 教育について

我が国の産業界は、大量生産方式を支えた中堅技術者から、付加価値の高い製品を企画・開発できる高度な専門性を有する実践的技術者を期待している。これは本校のアドミッションポリシーでもある。さらに最近では、国の施策でも従来のような分野別の重点化から、課題解決・課題達成を中心とした科学技術イノベーション政策への方向性が大きく変えられている。例えば、本校が受審に向けて動いている JABEE（日本技術者教育認定機構）では、エンジニアリングデザイン教育が実施されていることが求められている。

一方で、世界中の多くの大学・大学院においてデザイン思考 (Design Thinking) 授業が行われるようになってきた。デザイン思考の要素には「人間中心」がある。デザイン思考では、ユーザが求めている潜在ニーズを見つけ出し、プロトタイプを通じてフィードバックをもらい、これらを何回も素早く反復することでユーザが本当に求めているものを作り出す。デザイン思考教育で先駆的な Stanford 大学の d.school では、デザイン思考を以下の5つのステップで行うことを提唱している。

1. 共感 (Empathize)
2. 問題定義 (Define)
3. 創造 (Ideate)
4. プロトタイプ (Prototype)
5. テスト (Test)

最初の共感のステップにおいて利用者の観察やインタビューを通じて、課題を十分に理解するところから始まる。そして、それをチームで共有し利用者が気づいていないかもしれない課題を見つけ出す。その後、アイデア出しを行い、実際にア

イデアがうまく行くかどうかを確認するためのプロトタイプを作成する。このプロトタイプを実際にユーザに使ってもらうことで新たな課題を発見する。これを繰り返すことで人間中心な製品開発が実現可能となる。

### 2 本コースにおけるデザイン思考教育

高専全体では JABEE のエンジニアリングデザイン対応に向けて、大学相当の4・5年、専攻科1・2年でのエンジニアリングデザイン教育を推進している。電気電子工学コースでは、もっと低学年のうちからこのような教育が必要だと考え、平成27年度からデザイン思考教育を本科2年の実験実習に取り入れた。具体的には、これまでの実験テーマを半期分潰し、デザイン思考とスタディ・スキルズを埋め込んだ。デザイン思考には6週を割り当てており、以下のような形で実施した。

- 1 週目 (全体プロセス) : 「財布をリデザインする」という題目で5つのステップを実施した。
- 2 週目 (チームワーク) : チームで仕事をするために必要なことなどを体験的に学習した。
- 3 週目 (共感と問題定義) : インタビューのやり方。インサイト (洞察) の見つけ方を講義・演習した。
- 4 週目 (創造) : さまざまなアイデア出しの手法を講義・演習した。
- 5 週目 (設計1) : これまでの演習を踏まえて、「キャンパスをリデザインする」という題目で設計を行った。
- 6 週目 (設計2) : 設計1の反省を踏まえ、「通勤・

通学をリデザインする」という題目で設計を行った。ここで設計した内容は、その後のスタディ・スキルズの中のプレゼンテーションテーマとした。

専門的な知識がない本科2年での実施ということで、プロトタイプはあくまで簡単なモック程度のダーティプロトタイプではある。逆に作ることにこだわる必要がない分、設計2のような壮大なテーマを与えることもできた。

### 3 授業で目指すもの、従来の授業との違い

電気電子工学コースではこれまで、ジグソー学習法やエクストリームプログラミング（ペアやチームによるプログラミング）のように座学でも積極的にチーム作業を実施してきた。これは、以前からチームでの協同作業が深い学びに対して、効果的であると考えているからである。

デザイン思考ではインタビューやアイデア出しなどの作業により、他人の意見をより傾聴し、その上で自分の意見を主張することが求められる。さらに教員が用意したルールの上を走るだけの授業とは違い、自らが課題を発見し、それを解決する能力が求められる。

一方、指導する教員に対してもこれまでの授業とは求められるものが大きく変わってくる。教員は知識の泉ではなく、道を示すためのリソースポイントとなる必要がある。すなわち、「教える」のではなく、ファシリテータとして「作業を促す」ことが重要となる。

また、単にワークをやっただけではレクリエーションになってしまい、学生の記憶に留まることはない。そこで毎回の実験の最後に「振り返り」の時間をかなり長く用意している。この振り返りでは、個人的に当日の作業を記録するだけでなく、その内容をチームで共有することも行っている。振り返りを共有することで、気づいていなかったことを他人から指摘されることもあり、より深い学びに繋がるようである。教員はこの振り返りシートを確認し、次回の授業の開始時に学生にフィードバックを行っている。

### 4 授業アンケートの結果

授業の影響度を見るために授業の前後で学生に自己評価のアンケートを実施した。以下では平成27年度の結果を示す。

まず、デザイン思考の5つのステップに関する評価では、43名のクラスのうち、総合的に能力が向上していた学生が31名、変わらなかった学生が2名であった。残り10名は総合点では下回ったものの、個々の項目では伸びている項目も存在した。最も向上したステップは「アイデア出し」であり、向上していなかったステップはなかった。

詳細な評価については、「リーダーシップ」「まとめ」「積極的な行動」の項目に比べて、「傾聴」「協力」の項目の評価が高かった。5つのステップの結果同様に「アイデア発展」「アイデア出し」「伝達」といった項目は授業前に比べて能力が向上したと意識しているようである。

### 5 今後の展開

昨年度この実験を受けた学生は現在3年生になっている。そこで、今年度後期の実験実習でもデザイン思考授業を実施する予定である。2年の実験では1週ごとに一つの題目を実施してきたが、ここでは複数週を使って一つの課題に取り組む計画である。また、ここでの題目は実際に企業からいただき、企業に対して成果をプレゼンテーションする予定である。

この授業を展開するにあたり、昨年度末に学生有志によるプロトタイプ授業を3日間で実施した。このプロトタイプ授業では、二つの企業からテーマをいただき、最終日には企業の担当者を招いて成果発表会を実施した。リアルクライアントからフィードバックをいただけたことで、学生の達成度が向上していることを肌で感じる事ができた。

今後はこの流れを継続し、上級学年のエンジニアリングデザイン教育に繋げることが重要だと考える。

## 東京の産業界



### 当金庫の「金融リテラシー」への取組

亀有信用金庫理事長 矢澤 孝太郎

#### 1 地域と信用金庫

信用金庫は相互扶助の精神に基づいて設立された協同組織金融機関であり、鎌倉時代の「無尽講」や室町時代の「頼母子講」、幕末の二宮尊徳の教えで作られた「報徳社」などと同様に困っている人をお互いに助け合うという精神を起源としています。

当金庫は第一次世界大戦後の反動不況の中、地元経済の発展を願い、地域の住人の手によって産業組合法に基づく「有限責任亀青村信用購買組合」として大正9年12月13日に設立されました。昭和27年2月14日に信用金庫法に基づき現在の「亀有信用金庫」に改組、堅実経営を旨に地域社会の繁栄に奉仕することを経営理念に掲げ、今日まで90余年の長きに亘り地域とともに歩んでまいりました。

#### 2 信用金庫の使命と役割

信用金庫の業務内容は多くの点において銀行と変わりません。しかしながら銀行とは異なる組織形態をとっており、期待される役割に違いがあります。主な特性として以下3点が挙げられます。

##### (1) 協同組織

会員の出資による相互扶助を理念とし、営利を直接の目的としない非営利法人であり、会員は出資口数に関係なく一人一票の議決権を持ち、平等に経営に参画できる仕組みとなっています。

##### (2) 地域金融

信用金庫の会員資格は定められた営業地区内に居住や事業所を有する方や勤労に従事する方など

に限定され、地域で資金を必要とする方に限って融資を行い、事業や生活の繁栄のお手伝いをする役割を担っています。

##### (3) 中小企業専門金融

信用金庫の預金取引については対象の制限等は特にありませんが、融資取引については一部の例外を除き原則として会員に限られています。また会員となれる中小企業者の範囲が定められており具体的には「常時使用する従業員の数が300人以下か、または法人にあっては資本金の額または出資金の総額が9億円以下」に限定されています。預金の制限がないことにより多くの資金を中小企業に提供出来る一方で融資が大口先に偏重しないように企業規模の制限が掛っております。

この様に信用金庫は銀行と同様の業務を行っておりますが、いくつかの相違があります。法律上も銀行法第1条には「～国民経済の健全な発展に資することを目的とする。」とありますが信用金庫法第1条では「～国民大衆のために金融の円滑化を図り、その貯蓄の増強に資するため～」と謳っており、経済と言う「行為」と大衆と言う「人」と違いがあることから信用金庫はより「人」を基準とした経営が期待される金融機関であります。

#### 3 金融リテラシー

私たちが社会生活を営む上で、お金とは密接な関係にあります。お金は生活を豊かにもしますが、使い方を誤ると生活を破壊することにもなります。

昨今「金融リテラシー」と称して金融教育の重要性が改めて謳われております。金融リテラシーとは、金融に関する情報等を理解し判断出来る能力のことを言いますが、お金に関する知識の習得にマイナスのイメージを持たれることもある上に何か金融と言うと近寄りたくない雰囲気も感じるのではないのでしょうか。しかしながらお金との付き合いは一生続くもので、生活・家計管理には欠かせません。

昨今は規制緩和により保険や投資信託などで元本割れの可能性があるリスク性商品が多く提供されておりますが、今後もより複雑な仕組みの商品が生まれてくるものと思われまます。自分の収入やライフスタイルに合わせたリスクを適正に取れば有益な商品であります。予期せぬ損失もあるかも知れませんが、借入をする時も、固定金利や変動金利、またその複合や、基準金利の違いなど様々な相違があります。

特に最近のマイナス金利の状況に於いては預金金利が限りなくゼロに近づき、少しでも利息が高いものに目が奪われがちです。借入も金利が低く、目先の返済額負担の低さから多額の借入をするなど、後々のトラブルが増える可能性があります。

金融知識を身に付けることで賢くお金を運用し、そして生活を豊かにすることが必要です。

#### 4 当金庫の取組み

当金庫で働く役職員は就職前から金融知識が豊富であった訳でも、特に優れた分野の知識を持っていた訳でもありません。しかしながら金融機関はお客様の大切な財産であるお金を取り扱う事業者であることから金融に関する法務・財務・税務は勿論のこと、金利や為替など市場に係わる知識なども研修や外部検定試験などを活用しながら日々高める努力を続けております。

より複雑化、多様化する金融商品をお客様に判り易く、正確に説明出来るように、またお客様の事業内容を理解し経営課題の解決のお手伝い出来るように、更に人材育成に努めてまいりたいと思っております。

最近では振り込み詐欺など高齢者を狙った犯罪も多発しており、窓口では犯罪抑止の観点から預金支払いの際やATMコーナーでの携帯電話利用などで積極的に声かけをさせていただいております。お客様を不愉快な気分にさせてしまう場合もあるかと思いますが、危険な可能性が少しでもあるのであればお伝えすべきと判断しております。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

#### 5 最後に

当金庫では金融リテラシーという視点での貢献をすべく各種の講演会や勉強会などを開催しているほか、最近では外部の力を借り他の信用金庫と連携して地域の小学生に信用金庫という金融機関で働く意味や社会における金融の役割を教えるプログラムを実施しております。そのプログラムの中で、「そもそもお金とは何か」を伝えることからして難しく、預金や融資、ましてや信用金庫となるとどのように理解してもらおうか非常に悩ましいものがあり、金融教育の難しさを感じております。

しかしながら、地域の子供たちにお金の便利さと怖さ、また金融にこだわることなく働くことの楽しさや達成感を伝えることも信用金庫の役割であると考えております。今後も地域貢献の一環として金融リテラシーの面からも地域にお役にたてるよう努めてまいりたいと思っております。



【信用金庫お仕事探検隊プロジェクト】



## ライフサイクルコントラクターとして

国光施設工業株式会社代表取締役社長 坂西 章

### 1 会社の概要

当社は1924年（大正13年）に電気工事の草分けとしてスタートし、その後に計装工事や通信工事及び空調工事と事業領域を広げ、今年11月で創業93周年を迎える設備の総合エンジニアリング会社です。

主に、羽田空港をはじめ成田国際空港や関西国際空港等のターミナルビル・滑走路・整備場等の空港関連設備や、自動車・化学・食品・医薬品・バイオ・半導体関連のプラントや、病院・事務所ビル等の豊富な施工実績があります。また、新設はもとよりメンテナンス・改修工事に対応すべく建設を担当した社員を中心に万全なアフターフォロー体制を敷き、顧客目線でサポートしています。

一方、環境問題や原発停止の影響により、再生可能エネルギー発電の導入推進が期待される昨今、当社ではいち早く太陽光発電システムの事業化を進め、現在約40ヶ所での施工実績があります。顧客にとって最適な事業計画をシステムの提案から設計・施工・メンテナンスまでトータルにサポートしています。さらに、自社所有のカーポー

ト型メガ太陽光発電所や大規模植物工場の運営も行っています。

このように、当社は六年前に就任した四代目社長のもと、顧客の施設や設備を、計画・建設段階から運営・保守段階そして改修段階までのトータルにわたりサポートする、ライフサイクルコントラクターを目指しています。

### 2 経営理念

長年蓄積した技術とノウハウを結集し、設計・施工・メンテナンスの各段階において、ベストパートナーとして永続して顧客や社会に貢献できることを第一に経営しています。具体的には、様々な工事分野（電気・計装・空調・衛生・再生可能エネルギー（太陽光・風力）・内装・構造物・施設運営）において、顧客の各種業種（空港・工場・事務所・病院・学校・エネルギー関連）のニーズに対応すべく、営業拠点を全国（関東・九州・東海・関西・東北・沖縄・北陸）に展開し、フォロー体制を構築しています。



### 3 特色

- (1) 電気設備や計装設備を核に、機械設備（空調・衛生）・通信・内装・鋼構造物の工事をワンストップで対応することで、パフォーマンスが高いサービスを提供可能です。
- (2) 北は千歳市から南は那覇市まで、全国 25 ヶ所の営業所や作業所等の拠点をかまえ、迅速なサービスが可能です。
- (3) 空港関連施設については、滑走路照明・格納庫等の空港整備施設や空港ターミナルビルのラウンジ・カウンター・店舗、エネルギー供給施設等、60年にわたり豊富な実績を有しています。
- (4) 太陽光発電設備は、約 40 システム /40MW の実績を有し、計画・設計・施工から運転メンテナンスまでサポートしています。
- (5) 省エネ・省 CO2・省コスト、あるいは BCP（事業継続計画）対応等の各種ソリューションサービスを、技術に精通したエキスパートが顧客ニーズに合わせて提供します。
- (6) 豊富な施工実績及びメンテナンス経験を基に、ライフサイクル計画やコスト削減計画等を顧客目線で提案します。
- (7) さまざまな形態の発電設備や蓄電設備、あるいは植物工場等、新しい技術や分野にも常に挑戦しています。

### 4 人材育成

当社には、電気や計装・通信を中心に、建築・空調・衛生・環境・エネルギー等の幅広い分野で、資格や経験を有した人材が揃っています。

企業の源は人であり、その人の力を如何に高めていくか、特に若手のレベルアップと経営への参画意識の向上が重要課題となっております。

そこで当社では、組織のフラット性を高め、若手に責任を持たせ経営に積極的に参画させることを目的に、昨年（2015年）よりユニットリーダー制を敷き、若手の積極登用を図っています。

また、技術士の資格を保有している社員講師を中心に社内講座を設け、資格取得に向けた勉強会等の実施や、幅広い技術知識を習得する機会を設け、各層のレベルアップに向けた取り組みを推進しています。

### 5 青年へのメッセージ

目標をたて、将来の自分のあるべき姿を描き、今出来ることに最大限取り組むことにより、自然に自分が進むべき方向性が見えてくると思います。

若いあなたがたは、途方もない力を持っているはずです。恐れず、前を見て、様々な事に積極的に挑戦してください。社会の荒波を乗り越えられる力を持つことを、あなたがたに期待しています。



## 情報スクエア



### 平成28年度高校生夕張キャンプ第I期に参加して

東京都立忍岡高等学校長 岡島 まどか

#### 1 はじめに

今年で5回目となる高校生夕張キャンプ第I期は、次世代を担う都立専門高校生たちが、有為な人材としての自覚を高め、農業・商業・工業・家庭等の産業や社会的な意義・役割について理解し、社会の発展を図る創造的な資質・能力と実践力を身に付けて、我が国や地域の活性化に寄与することを目的して実施されている。さらに、これまでに取り組んできた都立専門高校生の活動は、夕張市にける自治体間連携モデル事業として、確実に定着を見せている。

今年度は、夕張市から「交流人口の増加」「夕張メロンの機能性に着目したPR」「ふるさと納税プラン」という事前課題が与えられ、6月18日に11校14チームが参加して選抜大会が開かれた。

審査の結果、都立六郷工科高等学校、都立工芸高等学校、都立千早高等学校、都立忍岡高等学校、都立芝商業高等学校の5チームが選抜され、7月25日から7月29日の3泊4日団長（岡島）、都立高校生23名、引率教員5名、指導部高等学校教育指導課長を含む事務局員6名で夕張市を訪問した。

#### 2 高校生夕張キャンプ第I期の概要

##### (1) 高校生夕張キャンプ第I期の行程について

〔7月25日（月）〕

羽田空港—新千歳空港—夕張高等学校（開会セレモニー、夕張高校生との交流会）—宿舎（ひまわりの宿：元夕張北高等学校）—夕張高校生との夕食交流会—宿舎

〔7月26日（火）〕

宿舎—夕張メロン栽培農家での農作業体験—



夕張高校生徒との夕食交流会

JA夕張市・選果場見学—宿舎（昼食）—JA夕張市（夕張メロンに関する講習）—夕張ツムラ（CSR活動についての講義と工場見学）—宿舎

〔7月27日（水）〕

宿舎—各校による現地調査活動—宿舎着

〔7月28日（木）〕

宿舎—閉会式—ホテルシューパーロ（メロンジャム作り）—幸せの黄色いハンカチ広場—道の駅夕張メロード—新千歳空港—羽田空港



メロン農家での農作業体験

## (2) 高校生夕張キャンプにおける活動状況

〔第1日目〕参加者全員で定刻に羽田を出発、千歳空港からバスで夕張高等学校に向かった。夕張高等学校では、生徒（約90名）から黄色いハンカチを振っての温かい出迎えを受けた。到着後、鈴木直道夕張市長、大島由晋高校生夕張キャンプ実行委員長列席のもと高校生夕張キャンプ開会セレモニーと参加校5校による第I期選抜大会でのプレゼンテーションを披露した。夕張高校生との交流会では、「地域の活性化のために高校生ができること」をテーマとしたグループディスカッションを行った。会場を旧夕張小学校に移して行われた夕食交流会では、バーベキューを楽しみながら、夕張高校生と都立高校生が意見交換等を行う交流活動を通じて親交を深め合った。

〔第2日目〕午前中は、夕張メロン栽培農家の協力による農作業等の体験を行った。朝収穫したばかりのメロンを洗浄・選別し、箱詰め作業を体験した後、ビニールハウス等を見学し、栽培の過程やメロン農家の現状を学ぶことができた。その後、JA夕張市（農協）に移動し、選果場を見学した。午後は、JA夕張市による夕張メロンの特性や栽培方法、収穫から販売に関する講習とメロンドーム隣の夕張メロン栽培ハウスでの実地研修を行った。その後、夕張ツムラを訪問し、企業のCSR活動についての講義と工場見学を行った。

〔第3日目〕平成28年度高校生夕張キャンプ第I期選抜大会で各校が提案した夕張に関する商品開発等に取り組むための調査研究を深めるため、夕張市内各所での現地調査を行った。



「花の街プロジェクト」現地調査活動

〔第4日目〕宿舎にて高校生夕張キャンプ第I期の閉会式を行った後、ゆうばり自然体験塾によ

る夕張メロンジャム作り体験を行った。その後、幸せの黄色いハンカチ広場、道の駅夕張メロードを視察した。新千歳空港を出発し、羽田空港到着後、学校ごとに解散した。



夕張ツムラ訪問

## 3 まとめ

4日間の高校生夕張キャンプでの滞在中の様子は、地元の北海道新聞、読売新聞、朝日新聞に取り上げられた。第I期における夕張メロン等農産物の流通体験と現地交流活動並びに夕張メロン農家での農業体験と夕張に関する商品開発等に取り組むための調査研究という目的は、生徒の積極的な姿勢と夕張市の方々の温かい支援によって、十分な成果を上げることができた。

財政再生団体である夕張市において、都立専門高校生が、その知識と技能を生かして、地方自治体の再生に資する企画提案を行い、実地での体験や講演を通じて調査研究活動を通して現地の高校生や地域の人々との交流を図れたことは、これからの学習の成果を高めるだけでなく、創造的な資質・能力と実践力を育成し、我が国の地方創生における重要な原動力となると感じた。今後は、現地での調査研究での課題を解決するための事後学習を行い、骨太な企画提案内容を完成させ、夕張市の中で実際に貢献できる形として残せるものへと発展させていきたい。

都立専門高校生のために、このような貴重な体験の場を提供いただき、日ごろの学びを深め、成長のチャンスを下さった夕張市関係者のみなさまに心から感謝申し上げます。また、選抜大会に参加した全ての生徒たちにこれからの活躍と産業界を担う人材となることを期待する。



—農業職業学校にて—

## 平成28年度「教員海外産業教育事情研修」報告

—ドイツのデュアルシステムの調査研究—

東京都立園芸高等学校長 徳田 安伸

### 1 はじめに

平成28年11月13日から19日までの7日間、(公財)産業教育振興中央会主催の平成28年度「教員海外産業教育事情研修」としてドイツ連邦共和国を訪問した。この研修は全国の農工商家庭水産の専門教科教員が海外研修を通して産業教育の充実に寄与することを目的としたもので、全国から11名が参加した。そこで、我々は「誇り高き職人を育成する教育システム」をドイツ連邦共和国で学ぶことを第一義とした。去年はドイツ北部の経済都市であるハンブルグ市を中心に行ったが、本年は南部の商工業都市であるバイエルン州ミュンヘン市を訪問先とした。

バイエルン州はサッカーFCバイエルン・ミュンヘンの本拠地として有名で、元々バイエルン王国として栄えた歴史ある独立国であった。州都ミュンヘン市は人口135万人、国内人口第3位の都市で、電気大手のシーメンス社や高級車のBMWの拠点があるドイツ南部経済の中心地である。我が国とは札幌市の姉妹都市として友好関係が深い。

### 2 研修日程概要

#### 【11月13日(日) 結団式(羽田)】

羽田→ミュンヘン(ルフトハンザ航空直通)

#### 【11月14日(月)】基礎学校、市教育委員会訪問

#### 【11月15日(火)】実科学校訪問(全体)

#### 【11月16日(水)】商工会議所訪問(全体)

#### 【11月17日(木)】職業学校/市場訪問(班別)

州立労働衛生局/バイオガス発電農場訪問

#### 【11月18日(金)・19日(土) 解団式(羽田)】

ミュンヘン→フランクフルト→羽田空港

### 3 訪問先の状況(教育内容等)

ドイツの教育制度は、国内16州毎に異なっている。これは第二次大戦後、戦勝国連合が国全体を16州に分割統治したことによる。ドイツが二度と戦争を起こすような大国にならないようにしたためである。訪問したバイエルン州は、戦後米国の統治していたが米国方式の教育システムを拒否し自国の方式を貫いた。そういう歴史的経緯から、プライドも教育レベルも高い水準にあった。

#### (1) 基礎学校(グルンドシューレ、市立学校)

グルンドシューレは1年生から4年生(6歳から10歳)までの4年間の基礎教育を行う学校で、我が国でいう小学校にあたる。参観した4年生の算数では「パスカルの三角形」を使って協働で問題を解くアクティブラーニング型の授業を展開していた。生徒数は24人(1学年3クラス)、自席で問題を解いたり、黒板前に集まって意見を言い合ったりして問題の構造を皆で共有していた。

4年生(10歳)で基礎学校を卒業すると第2次学校であるギムナジウム、実科学校(レアルシューレ)、基幹学校(ミッテルシューレ)のいずれかに進学するが、成績が大きく影響する。

#### (2) 基幹学校(ミッテルシューレ、市立学校)

基幹学校は第2次学校で、5年生から10年生(11歳から17歳)までを担当し、何らかの社会的課題のある子供たちを中心に受け入れている。訪問校は、生徒を社会に出すこと、ニートを作らないことを学校経営の中心に据えていた。現在のドイツはアフリカ、アジア、ヨーロッパ隣国からの「移民に由来する生徒」が多く、訪問校でもまず母語

となるドイツ語教育を重視していた。

### (3) 実科学校（リアルシューレ、市立学校）

実科学校は、5年生～10年生の6年間教育で、将来「マイスター」となる職業人を育てている。ここでも60%の生徒に移民のバックグラウンドがあった。7年生になると職業教育が始まり、進路希望を中心としたクラス替えが実施される。8～9年生では自分で見つけ交渉した企業で1週間実習する。企業は多くの生徒を受け入れ、担当のマイスターの指導によりプログラムが進められる。

### (4) 職業学校（州立学校）

郊外の州立職業学校を訪問した。学科は農業、家庭、馬術の3科があり「デュアルシステム」の学校である。馬術科には隣接して競馬場があった。

農業科の学生は、実科学校からすぐ入学する者もいれば、他の職業について後入学してくる者もいて、1年生で15～23歳の年齢幅があり、学歴も様々であった。さらに授業料や通学費まで州が全額支援してくれることもあり、生徒は皆真剣に授業を受けていた。1年生は週5日間毎日登校し、農業に関する基礎知識を学校で学習する。授業は、細胞・土壌・肥料・栽培・畜産・農業機械・雑草等であり1冊にまとめられた分厚い農業教科書を使っていた。さらに、校内には木工室、電気作業室、農業機械室もあり、農場現場で必要な技能を修得させている。1年次の短期間現場実習では、学校が指定した農場に4名1組で入り、指定されたプログラムに従い播種、肥料、飼料について体得する。2年次からの実習先は自分で探すことになるが、対象農家は州の農林省が認定したマイスターがいる農家に限られ、その指定農家で週4日実習し、残る1日は学校に登校する。同様にして3年生も週4日、養豚、乳牛、肉牛など専門化した現場で実習を行う。生徒の自宅家業はほとんどが農業であるが、経営形態は自営、公営（州立、市立、教会立）など様々である。卒業試験があり卒業式も行われる。卒業後には就農の他、さらに上級学校に進学する生徒もいて、進路先は多様であった。

### (5) 商工会議所（ミュンヘン市）

地域経済の中心的存在で、個人会社から大企業まで36万社が加入している。会社はいろいろな人材を求めており、商工会議所が生徒と企業のマッチングを行い、最終の修了認定面接を行うなど「デュアルシステム」を実動させている。このことから商工会議所がデュアルシステム（二元システム）のセンターであり、同様な組織の構築を行うことが導入の鍵となる。

## 4 ドイツ教育、現状の課題

ドイツにおいて産業教育は国の経済の元として古くより活発で、その分野のマイスターともなればしっかりと社会的地位認められてきた。しかし、近年、基礎学校からのマイスターにつながる実科学校に進む生徒は減少傾向にあるという。その反面、大学進学につながるギムナジウムに進む生徒が5割をこえ、マイスターの社会的地位が多様化している。社会のグローバル化やIT化が大きく影響している。

さらに、基礎学校期間が4年間で、第2次学校への分岐点が10歳である。わずか10歳で人生の進路決定を行わなければならないということで、判断しづらいという。我が国の高校進学は15歳に比べるといささか早いのではと思われる。

## 5 まとめ

「ドイツ＝誇り高き職人を育成する国」の教育に触れる機会を得た。職業教育は学校で理論を、現場で実践をというのがデュアル（二元）システムである。その反面、学校に施設を用意し学校で系統的に教え込むというのが日本型の教育システムである。両者の利点（実践的指導と系統的指導）は明らかであるので、生徒が地元を向け、地元で定着させるために活用することが考えられる。誇り高き職業人を養成することは、人口減少期に入った我が国の「地域再生」の起爆剤であり、過疎を救う教育施策になりうる。



## 第14回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長  
台東区立駒形中学校長 瀬川 眞也

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下のとおりである。

- 1 **主催** 東京都中学校技術・家庭科研究会
- 2 **後援** 東京都教育委員会  
東京都産業教育振興会  
東京都中学校長会
- 3 **日時** 平成28年11月5日(土)  
平成28年10月22日(土) 食部門
- 4 **場所** 台東区立駒形中学校  
女子栄養大学(食部門)
- 5 **対象者** 東京都内中学校に通学する中学生
- 6 **内容**
  - (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選(基礎部門・活用部門・応用部門)
  - (2) 「木工チャレンジコンテスト」東京予選
  - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
  - (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
  - (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
  - (6) 東京都中学校ロボットコンテスト(二足歩行ロボット格闘部門)

### 7 開催へ向けて

創造ものづくりフェア in TOKYO も14回を数え常連校が定着すると同時に新たな参加校もあ

り、裾の広がりを感じる。毎年ながら会場校の校長先生をはじめ先生方には多大なるご理解とご支援をいただいたの開催である。今年度は昨年度まで会場であった中央区立銀座中学校から主開催会場を台東区立駒形中学校として実施された。駒形中学校会場は初めての会場であったが、立地の良さに関係する教員の実績と経験が活かされ、会場への機材搬入等準備を順調に進めることができた。また、作品展の事前搬入や当日の会場準備にも会場校との事前打ち合わせを重ね、スムーズに開催へ向けての準備が進められた。今年度も会場日程調整の結果、食部門と日程を分けての開催となった。

生徒作品コンクールは、各地区で選ばれた作品が会場校へ送られてきている。当日持参分も含め



て各地区相当分の作品は完成度の高い作品が多く見られ、会場を多いに賑わせていた。

なお大会運営は、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部を中心に駒形中学校会場40名、女子栄養大会場で20名の体制で進められた。

### 8 開催結果

今年の参加者は、見学の保護者を含めると両会場併せて550名を超えた。その内訳と各部門の内容は次のとおりである。



< 関東甲信越大会に向けての予選大会 >

○「創造アイデアロボットコンテスト」基礎部門：中学校技術・家庭科の授業においてカム・



リンク機構を利用した歩行型ロボット（キットを改良したロボットでも参加できる）を題材として学習を履修した作品部門ある。授業での取り組みを想定して、モータ2個3Vまで使用したロボットで、制限時間内に与えられた課題を解決する対戦型の競技である。テーマは「はじめてのおつかい」、12チームの生徒達が参加した。活用部門：中学校技術・家庭科で学んだ知識や技能を組み合わせる製作された生徒作品の部門である。モータは4個3Vまで使用でき、制限時間内に自陣エリアにあるアイテム（紙コップ7個）をコート中央にあるスポット（突起）に差し込む競技である。32チームが参加した。応用部門：教科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作されるロボットの部門で、競技内容は今までの応用部門を生かしたルールとなっている。センサなどを利用したロボットによる1対1の対戦型競技で、制限時間内に中央に設置された9本のロープを引き合う。モータは6個6Vまで使用可能である。9チームが参加した。

○当日示された設計図により、決められた大工道具や木工機械を正しく使用し、寸法通り



正確に作品をつくる「木工チャレンジコンテスト」には各地区から選ばれた9名が参加した。

○「生徒作品コンクール」には、各地区で選ばれた技術分野と家庭分野で、授業内・授業外部部門の合計96の作品が参加した。今年度も力作・大作が数多く出品された。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、レポートと写真の応募作品47チームが事前の審

査を経て、当日の本大会は20チームが参加した。

○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール東京地区予選」では事前選考の5校10作品の参加であった。

< 東京都ロボットコンテスト >

◇東京都独自として実施したロボットコンテストは、モータ2個を使った格闘型のロボットで、生徒の関心の最



も高い競技である。この競技は900mm×900mmのリングで2足歩行ロボット同士が相撲をとる競技である。98チームが参加した。

## 9 成果と課題

創造ものづくりフェア in TOKYO 全体としては、参加生徒もここ数年一定数おり、中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関の認識も深められていると捉えている。参加生徒数は全体として昨年度と同程度であり、各校現指導要領下での指導計画・実践も定着してきたものと考察できる。しかし、部門によっては参加校や参加チームが減少しており、今後授業内容をさらに工夫改善して、ものづくりの楽しさや魅力をいかに実感させるかが課題である。来年度のものづくりフェアに向けて、さらに魅力的な事業となるよう授業時数を踏まえたルールや運営方法等を改善することにより、興味・関心・意欲を一層高め参加者を増やしていきたい。開催会場の台東区立駒形中学校、女子栄養大学のご理解、そして東京都教育委員会、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会から表彰状をいただいたことは、フェアの盛り上がりと充実に結びついており感謝申し上げる。





## 平成27年度「キャリア教育優良学校」 文部科学大臣表彰を受賞して

昭和第一学園高等学校キャリア相談室長 柳田 正美

### 1 はじめに

本校は、掲記のように、平成27年度文部科学大臣賞表彰を受賞することが出来ました。

この表彰は、キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた学校等に贈られるものです。

キャリア教育の狙いは、生徒に「自分で自分をプロデュースできる自立した一人の人間として大地をしっかりと踏みしめて力強く生きる力」、「人間力」(森田校長談)を身に付けてもらうことにあります。

キャリア教育に関して、学校のトップの深い洞察力や、強力なバックアップがなければ、このように順調に進むことなど、考えられません。また、先生方のキャリア教育に対する、今までの努力・協力があつたればこそこの受賞だと思っています。

### 2 キャリア教育の取り組みについて

この取り組みについては、文部科学省ホームページ掲載の中から受賞理由を下記に抜粋させていただきます。

#### 【キャリア教育の取り組みについて】

(1) 昭和第一学園高等学校では平成26年度4月より新たに専門のキャリアカウンセラーによるキャリア相談室を開設した。豊富な企業経営や人事採用育成を熟知したキャリア教育専門の相談室長が、生徒の「将来なりたい自分」の発見や夢実現に必要なスキル獲得への助言、そしてまさしく実現のためのロードマップを描けるようになることを目指して生徒と一緒に考えている。月曜～金曜日の昼休み及び放課後6時までを相談時間として、部活終了後の対

応も考慮しながら相談業務を行っており、特色の一つであるキャリア相談者数の多さにつながっている。

- (2) 昭和第一学園高等学校では、普通科・工業科の各コースに合わせて、週に一度、キャリア学習の時間を設けている。情報や知識の不足や生徒の思い込みにより、本当に自分に合った進路を見つけられなかったということがないよう、多角的に自分を振り返り、進路を考え、社会を見つめていけるようなサポートを行っている。また卒業生(大学生)を呼び、「大学生トークライブ〇〇大学生活」の開催や、社会で活躍している人に加えて、保護者の協力を得て講演会なども実施している。
- (3) 特別活動におけるキャリア教育については、文化祭等あらゆる機会を活用している。

### 3 キャリア相談室として

#### <上記2(1) 補足説明>

キャリア相談室には、発足以来、H26年度158名、H27年度203名、累計361名のキャリア相談がありました。ざっと9クラスの生徒が全員相談に来たこととなります。「高等学校では、日本初の専任キャリアカウンセラーを置くことによって実を結んだ学校」と言われていますが、先生方の多大な協力があり、先生方との関係プレーが好結果に繋がったものと思われま

#### 【キャリア相談の内容】

生徒から、大学・専門学校のことや将来の仕事等、一通りの話を聞き、次のようなことを生徒と一緒に作業します。将来の目標を持つことの大切さを話しますが、生徒の中には、目標を持つまで

には至っていない者もかなりいます。多くの進学希望の生徒は大学、専門学校で学問をし、良き友人に巡り会い、多様な経験をし、様々な情報に触れる中で、目標を見つけていきます。そのためにもこのキャリア相談室で自己分析をして、将来の自分の可能性を広げてもらいます。そして今この学校で、将来の目標を見つけた生徒には、だから「どの大学・学部を選ぶのか」「どの専門学校を選ぶのか」を、大学案内、シラバスを見せながら、科目、教授、ゼミの選び方等、詳しく話していきます。AO（面接）入試まで話が及ぶことも多々あります。就職希望の生徒には、「どういう仕事をしたいのか」を考えさせます。もちろん就職面接試験のアドバイスもします。民間企業で、採用面接官や新人教育の責任者の立場にいた室長自身の経験と生の情報を織り交ぜながら、親身になって相談を受けています。森田校長が随所で話している「地に足がついた職業観」を育てることを中心に将来の生き方の話をします。

#### 4 普通科・工業科の各コースに合わせたキャリア学習

< 上記 2 (2) 補足説明 >

**普通科**：希望進路先が大学・短大 70%、専門学校 29%、就職約 1%と進学希望者が圧倒的に多いため、年間に組み込まれた LHR の時間と 1 年次のキャリアの授業を通し、進学を意識した進路指導やキャリア学習を展開しています。年度初めに各学年、コース別の年間キャリア学習計画表を担任に配布します。計画表には、市販の進路ノートに記載された内容（自分史作成、学問研究、学科研究、オープンキャンパス参加、仕事研究等）が学校行事に合わせてアレンジした順番で予め盛り込んであり、計画表の空欄部分は担任が自由にキャリア学習を実践できるように活用することになっています。担任はその自由に使える時間に進路相談室の見学や使い方の指導やキャリア相談室長からの講座を入れる等し、活用しています。また、この自由な

時間では普通科 1 年生全体で保護者を巻き込んだキャリアガイダンスの実施も行っています。

**工業科**：希望進路先は大学・短大進学 60%、専門学校 30%、就職 10%ですが、卒業後すぐの就職にも対応できるよう職業意識を強く意識できる市販の進路冊子をベースにした進路指導、キャリア学習を進めています。基本的には普通科同様に、年度当初に配布する年間計画キャリア学習計画に則って進めていきます。最近では就職希望者が 1 割を切り出し、進学希望者が増えつつあり、専門学校や大学・短大に関する情報も積極的に出し、進路指導を行っています。

#### 5 大学生トークライブと卒業生懇談会

< 上記 2 (2) 補足説明 >

大学や専門学校がどのようなところなのか、本校では、生徒の年齢に近い一流大学の学生や身近な本校の卒業生を招いて、懇談会・講演会を行っています。

大学ではどんな生活や研究をしているのか、専門学校で苦しいこと嬉しいことはどのようなことか、先輩たちの「生」の声に触れて、自分の将来を具体的にイメージできるようにしています。



## 第26回全国産業教育フェア石川大会 さんフェア石川2016

第26回全国産業教育フェア石川大会（さんフェア石川2016）は11月5日（土）、6日（日）の両日、石川県産業展示館及びいしかわ総合スポーツセンター他を会場として開催された。

基本理念としては「技術革新やグローバル化が進展する社会を生き抜く産業人の育成を目指し、産業教育の一層の振興を図る。また、トップシェアの企業が集積し、豊かな自然や文化、歴史が息づく学都石川の地に、産業教育を学ぶ若者が全国から集い、その技能や産業の魅力を全国に発信する。」を、大会テーマとして「(1) 伝統を受け継ぎ未来へ伝えよう (2) 人と人とのつながりをいかそう (3) 新時代に対応した技能を身につけよう」を掲げた。

主会場の石川県産業展示館4号館では兼六園の雪吊をモチーフとしたシンボルオブジェ両側に総合開会式や記念講演が開催されたイベント会場と作品展示や産業体験イベントが行われた展示スペースが配置された。3号館では全国高校デパートが開催された。



シンボルオブジェ

都産振会員校からは作品展示に都立荒川商業高校が「模擬株式会社レガロ工房」、都立芝商業高校が「キッズエキスポオリジナルグッズと夕張キャンプパネル」、都立忍岡高校が「課題研究紹介」を出展した。全国高校デパートには都立荒川商業高校が「香煎茶」を、都立芝商業高校が「いわみちゃんらーめん」等を出展・販売した。また、日本工学院専門学校が専門学校としてブースを開いた。



石川県産業展示館



総合開会式



全国高校デパート



都立芝商業高等学校



都立忍岡高校



都立荒川商業高等学校

## 第58回 全国産業教育振興大会（石川大会）

日時：平成28年11月5日（土）

会場：ホテル金沢

主催：全国産業教育振興連絡協議会  
公益財団法人産業教育振興中央会

### 次 第

- 1 開会のことば  
全国産業教育振興会連絡協議会常務理事  
富岡 逸郎
- 2 国歌斉唱
- 3 挨拶  
全国産業教育振興会連絡協議会副会長  
杉江 和男  
石川県産業教育振興会会長 吉田 國男
- 4 来賓挨拶  
文部科学省初等中等教育局主任視学官  
梶山 正司  
石川県教育委員会教育長 田中 新太郎
- 5 来賓及び出席者紹介
- 6 講演  
演題：「加賀温泉郷の情報発信 ～レディ・カガの取り組み～」  
講師：萬屋 浩幸（よろづや観光株式会社  
代表取締役社長）
- 7 大会決議文協議・採択  
全国産業教育振興会連絡協議会理事長  
西澤 宏繁  
石川県産業教育振興会副会長 佐藤 文夫
- 8 次期開催県挨拶  
秋田県産業教育振興会会長 猿田 五知夫
- 9 閉会のことば  
石川県産業教育振興会副会長 高桑 秀治

2015年北陸新幹線開業に伴い関西と首都圏のシェアが逆転、さらに個人旅行の外国人旅行客が増加して、加賀温泉郷は世界的な観光地になった。



挨拶



講演

### 【講演要旨】

加賀温泉郷は山城、山中、片山津、粟津の四温泉地で古くから「関西の奥座敷」と呼ばれる。2011年東日本大震災の影響で旅行の自粛が続く中、首都圏に向けたPRを計画した。

人に焦点をあてた民間ならではの「レディ・カガ」を立案して動画やポスターで、その注目度を高めた。Youtube、Twitter、Facebookなどに様々なビジュアルを展開した。三か月で動画再生回数が30万回を超え、ネットで話題になり、大手メディアが殺到した。



決議文採択

【大会決議文協議・採択】

新しい時代にふさわしい専門高校、産業教育の一層の充実・振興を期すための下記決議文のとおり、大会決議を行った。この決議文については、文部科学省をはじめ関係する機関等へ提出された。

【大会決議文】

## 決 議

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専門高校」）は、専門的職業人の育成・輩出を通じ、我が国の産業・経済、医療・福祉、地域社会の発展を支える原動力として大きな役割を果たしている。

今日、グローバル化や産業の高度化が進む中、少子高齢化の進行に伴う生産年齢人口の減少、若年世代の大都市圏への流出による地方経済の縮小や深刻な人手不足など、我が国の社会や産業は様々な課題を抱えている。これらを克服し、発展し豊かな社会を築いていくためには、我が国の将来を担う若い人達の力が必要なことは言うまでもない。

専門高校で学ぶ生徒達は、確固とした勤労観と職業観を持ち、職業についての専門的な知識、技術・技能を身に付け、将来のスペシャリスト（専門的職業人）となることを目指しており、これからの我が国の発展には欠かせない重要な人材である。

全国産業教育振興会連絡協議会は、全国の専門高校等の生徒達による「第26回全国産業教育フェア石川大会」にあわせ、産業界と教育界の強い連携の下、「第58回全国産業教育振興大会」を開催し、我が国が力強く成長・発展し、豊かな社会を築くため、専門高校のより一層の充実・発展に全力を傾け、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。同時に、国及び地方公共団体等におかれては、我が国の発展の基盤である専門高校の充実に格段の御理解と御支援をお願いする。

- 一. 社会や産業の進展等に対応した実践的な職業教育を推進する上で不可欠な教育用施設・設備の計画的な整備と充実。
- 一. 教職員定数の改善や専門教育担当教員の養成・採用の拡充、社会人実務経験者の任用、特別免許状の積極的活用及び研修機会の確保など、専門高校における教育実施体制の充実。
- 一. 特色ある教育活動や、資格取得等のための検定試験、各種発表会や競技会など、生徒達が取り組む活動への支援。
- 一. 就職における採用枠の拡大や地元企業等への就職機会の確保、女子採用の促進など、専門高校生徒の就職活動への支援。
- 一. 各種資格や検定等の取得、各種コンクールや就業体験等の活動など、専門高校での学びを積極的に評価した多様な大学入学者選抜の実施及び拡大。専攻科修了生（2年課程以上）の大学編入学の着実な実施と推進。
- 一. 中学校や高等学校等における社会的・職業的自立に向けた職場体験活動やインターンシップ等のキャリア教育の一層の推進と支援。
- 一. 専門高校に就学する生徒をもつ保護者の経済的負担軽減を図る就学支援等の充実及び専攻科生徒に対する奨学金制度の創設。
- 一. 専門高校への理解・啓発を図る「全国産業教育フェア」等への支援と充実。中学生の主体的な進路選択に資するための中学校と専門高校が連携した取組の推進とその支援。

以上決議する。

平成28年11月5日

第58回全国産業教育振興大会（石川大会）

## 報 告

## 平成28年度 総会・講演会 報告

平成28年度総会・講演会を6月16日(木)午後2時から、全商会館3階中会議室において開催しました。

来賓として公益財団法人産業教育振興中央会専務理事富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会副会長の齋藤義弘様(都立農業高等学校長)、東京都中学校長会総務部副部長の江川登様(豊島区立西池袋中学校長)をお迎えし、出席者は39名でした。

開会にあたり、西澤宏繁会長、常任理事の早川剛生都立学校教育部長から挨拶がありました。

続いて、来賓の富岡逸郎様、齋藤義弘様、江川登様からご挨拶を頂きました。

西澤宏繁会長を議長として議事に入り、事務局から次の9件の議案を提案いたしました。

- ・報告事項(1) 平成28年度 会長、副会長の選任について
- ・報告事項(2) 平成28年度教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・第1号議案 会則の改正(案)
- ・第2号議案 平成27年度事業報告(案)
- ・第3号議案 平成27年度決算書(案)
- ・第4号議案 平成27年度監査報告
- ・第5号議案 平成28年度東京都産業教育振興会役員(案)
- ・第6号議案 平成28年度事業計画(案)
- ・第7号議案 平成28年度予算書(案)

審議の結果、各議案とも原案通り承認されました。

総会資料は会員企業、学校等に配布済みです。本年度の役員を紹介いたします。

会 長 西澤 宏繁(留任)  
副会長 金子 昌男(留任)  
同 小林 治彦(留任)  
同 高石 公一(留任)  
(東京都立葛飾商業高等学校長)

理事長 中井 敬三(新任)  
常任理事 早川 剛生(留任)  
同 星 政典(新任)



挨拶する西澤宏繁会長

総会終了後、講演会を開催いたしました。講師は株式会社杉野ゴム化学工業所代表取締役社長の杉野行雄氏で、演題は『「江戸っ子1号」に賭けた夢』でした。41名の参加者があり、熱心に講演に聞き入っていました。(講演要旨は40ページから47ページに掲載)



講演する杉野行雄氏



講演会・講演要旨

「江戸っ子1号」に賭けた夢

講師：杉野 行雄 氏

株式会社杉野ゴム化学工業所代表取締役社長

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました杉野ゴム化学工業所の杉野と申します。今日はこの席にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

私は学生時代、余りいい生徒とは言えなくて、いつも校長先生に叱られたことしか覚えておりません。今日はその前でお話をさせていただけるということは、大変光栄でもありますけれども、何か身が引き締まるような思いで、昔を思い出しながらお話をさせていただきます。

今日の演題は「『江戸っ子1号』に賭けた夢」ということですが、今日は皆さんに夢と希望を持って帰っていただくと考えまして、話を進めさせていただきます。

まずは、演題にある「江戸っ子1号」とは何ぞやということですが、ご存じの方は僅かにおられるかと思うんですけれども、この「江戸っ子1号」というのは、町工場が中心となりまして、地元の信用金庫である東京東信用金庫さん、それから大学として芝浦工業大学さんと東京海洋大学さんの指導、協力を得まして、さらに、専門機関である文部科学省の独立行政法人海洋研究開発機構さんの指導のもとに進めさせていただいた無人海底探査機です。

銚子沖 200 キロに日本海溝という深い海溝があります。これは日本列島が乗っておりますユーラシアプレートに、太平洋から来る太平洋プレート、それとフィリピンのほうから来るフィリピンプレート、この3つがぶつかって日本の下に沈み込んでいるところです。

東日本大震災の地震の発生源にもなったところですが、ここが深く潜り込んでいます。日本から、

たかだか 200 キロ沖に行きますと、日本海溝という幅が 10 キロぐらいある、海溝というより谷というか、かなり幅のある沈み込む場所ですけれども、ここが大体 8,000 から 9,000 メートル、世界的に見ても、こんなに近くにこんな深さがあるということは珍しい立地です。

2013 年 11 月、そこで水深 8,000 メートルを目指して潜水テストを行ったところ、運よく成功することができました。失敗を覚悟していたものですから、1 機じゃ危ないなと思い、3 機もやればそのうち 1 機ぐらいは帰ってくるだろうという不安があって 3 機投入しましたところ、ラッキーだったんでしょうか、全機無事に回収ができて、それぞれの映像を得ることができました。

探査機内に 3D カメラをセットしていたものですから、世界最深部の 3D 映像で魚類の撮影に成功しました。これは後ほど、重要なポイントとなりますので、この魚の話があるということ覚えておいてください。これが皆さんの大変な夢につながるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。



そういうことで、私どもがやったのは、町工場5社が中心となったプロジェクトです。最初にこのプロジェクトを立ち上げた原因としては、今、アベノミクスで景気が大変よくなっているかのように報道されておりますけれども、実際、私ども東京の下町、東京というよりも全国的かと思えますけれども、下町の町工場と呼ばれる零細企業は、仕事がなく大変困っております。

先ほど高石先生からもお話があったとおり、生産拠点の海外への移転、それと産業構造自体も変わってきている。このダブルパンチで、技術と経験は世界に誇るくらいの実力を持ちながら、なかなか仕事にめぐり会えず、年々減っております。

そのおかげで収益が大変悪化し、この悪化で後継者が育たないのです。継いでも食っていけるかどうかわからないものに若い人たちが興味を持ってもらえないのです。大変すばらしい技術でありながら、後継者がなかなか見つからない。技術伝承ができないということに加えて収益が悪い。これはもうやめるしかないかというような思いで、皆さん大変落ち込んでいるといいますか、先が見えない状態で、大変元気がない。

これでは日本を支えていた「ものづくり国家、日本」は沈没してしまうのではないかなという思いで、元気のない小規模零細企業に元気をつけるために何かないかなと考えたところ、海の底には大変な量の資源、鉱物資源からエネルギー資源、水産資源、そういったものがたくさんあるらしいということが聞き伝えにわかりまして、これをうまく探査し、開発できると一儲けできるんじゃないかなと思いました。そうすれば、みんなも豊かになり、元気につながるんじゃないかと勝手に思い込みました。それじゃ、これを探査する探査機を開発してみようじゃないかと思いつきました。

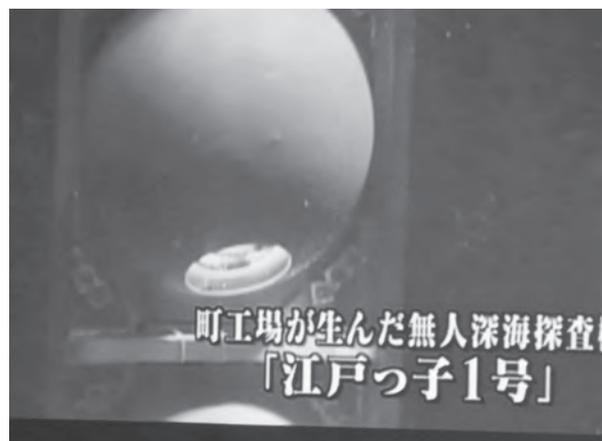
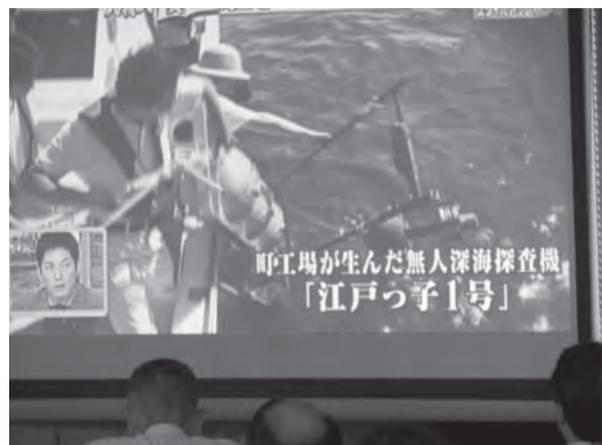
これはただの夢です。はっきり言ってそのときは深海の探査に関して全く知識がなく、ど素人の私が探査機をつくらうなんていうばかげた発想をしたのも、これはある程度知識があったらこんなばかなことは言わなかったかと思いますが、全く

の素人だからこそ、夢に向かってこういう暴挙ができたかと思えます。後ほど詳しくこのいきさつをお話しさせていただきます。

それでは、5分ぐらいですけれども、私どもが開発に挑んだ経緯をテレビ朝日さんがうまくまとめてニュースにさせていただきましたので、ほんの一部ですけれども、ご覧になってからまた話を進めさせていただきます。

では、お願いいたします。

(ビデオ上映)



思っていた以上に長くなりまして、申し訳ございませんでした。「江戸っ子1号」は、今ご覧になっていたちっぽけなものです。今までですと、大体10トンぐらいの、中型トラックぐらいの探査機でないと行けないと思っていたところ、私どもの高さが1.7メートル、幅が50センチ、厚みが50センチ、自重が50キロというものです。ちょうど私をもうちょっとスリムにしたような大きさです。こんなちっぽけなものが、8,000メートル行けると誰も思っていない。それは、今まで深海というのはこうでなくてはいかんといい、固定概念があったために、誰がつくってもみんな大体同じような形になってしまい、莫大な費用がかかります。

先ほどの海洋研究開発機構さんの有人探査機「しんかい6500」は、水深6,500メートルまで潜れる探査機ですけれども、これは約20年近く前に建造されました。そのときの建造費は約125億円です。今までにそれに改良に改良を加えて、200億円ぐらいかかっているそうです。

今、同じようなものをつくるには300億じゃできないだろうと思います。しかも、20年前につくったときの技術者がもう誰もいません。大変残念であり、口惜しいんですけども、その頃、世界でもトップと言われていた溶接技術、これが伝承されないままに終わってしまった。これは町工場がやったんじゃないんです。日本を代表する大手企業がつくっていたにもかかわらず、その後、需要がないということで、その技術が絶えてしまった。またつくるとなると、3、4年は少なくとも養成だけで終わってしまう。

大変みじめな状態ですけれども、この重さは約10トン以上あります。そうしますと、専用のクレーンをつけた母船、いろんな計測装置をつけた母船が必要となります。普通の船ではございません。嵐が来ても、どんなに海が荒れても、同じ場所に10cmもずれないで停止している機能を持った船が必要で、これをつくるには大変な費用が、普通の船の数倍かかるそうです。ですから、

母船として1隻建造するには最低で200億、これから深海探査をしようとする、安く見積もっても500億以上の金額がかかります。

そうすると、民間企業ではなかなか手の出せる探査にはなりません。これをやったからといって、すぐに収益に結びつくとなると、多分10年先、20年先にその成果が出てくるとなると、なかなか巨額な費用を計上しても株主総会で通りません。ということで、日本では民間企業が独自では1社も参入しておりません。

海外で、海底油田ですとか海底資源開発を積極的にやっている国は、ヨーロッパのノルウェーです。先進国です。ノルウェーは海底油田の開発、掘削技術を活用して海底探査をします。日本の何分の1かの人口ですよ。私は行ったことがないのでわからないのですが、産業も余りないと思います。他国が、日本よりもはるかに進んでいるということで、今日、深海探査においては、日本は劣等国です。

お隣、中国は、日本の数十倍のお金を投じて海底を探査し、資源探査をしています。おかげで南沙諸島に人工島をつくってしまったたり、小笠原に来ては、サンゴを無断でとったりということを平気でやっています。

そういう国をお隣にして、日本は何で探査が進まないかといいますと、日本の政府は周りの国の顔色ばかり見て、積極的に海洋資源の開発に力を入れないのです。それはなぜかという、日本が豊かで強大な国になることを周りの国々は望んでないみたいなので、それに遠慮して積極的にやらないのではないかと思います。

個人的な想像ですが日本の同盟国であるアメリカに関しては、世界で一番高額な原油を買ってくれる国が、エネルギー資源を自前で調達できるようになると原油を買わなくなってしまう。そうするとメジャーがドル箱をなくしたくないということで、日本の探査には目には見えない圧力を、水圧をかけてくるのでは。そのためかと思うのですけれども、なかなか探査が進みません。

しかも、宇宙開発、先ほどお話にも出た東大阪の「まいど1号」、あの人工衛星はJAXAから開発資金として10億円出ているそうです。私どもの探査機開発は総理大臣にお願いして助成金をもらえるようにして、大苦勞して4千万円です。10億と4千万、20分の1でしょう。こんなばかなことがまかり通っているのが現実です。

それにも負けず、頑張ってくれた皆様のおかげで私どもは成功させて頂きました、実際に江戸っ子1号が到達した水深7,830メートル、約8,000メートルですが、その世界はどんな世界でしょうか。

ご存じの方はごくまれかと思うので、ここで簡単に説明させていただきますと、ものすごい水圧がかかることはおわかりかと思えます。どのぐらいの水圧かといいますと、皆さんの指先、1センチ掛ける1センチ、1平方センチですよ。これにどのぐらいの水圧がかかるかといいますと、この指先に8,000メートルの水の柱が載っかる状態です。比重を1として計算しますと、この指先に800キロです。800キロかかるんですよ。

ぴんとこないかと思えますのでわかりやすく言うと、この指先に軽自動車、約800キロですけども、あれ1台が載っちゃうんです。私の手はちょっと小ぶりなので、成人男子の手のひらですと、手のひらに200トン、ダンプカー10台です。この手のひらにですよ。ものすごい水圧です。普通のものですとべっちゃんこにつぶれてしまいます。

私が探査機に隠して取りつけた昔懐かしいカップヌードルの容器、昔は発泡スチロールだったのです。その大きさが8,000メートル行って帰ってくるとこんなになってしまうのです。気泡体が全部潰されるために、圧縮されてこんなになってしまうのです。カップヌードルの容器が一杯飲むショットグラスよりも小さくなってしまいます。こんなになってしまうぐらいの水圧がかかります。

水圧だけじゃないのです。海水は光を吸収してしまいます。そのために、どんなに透明度の高い

海といえども、300メートル行きますと真っ暗になっちゃいます。ですから、8,000メートルというと全く光のない暗黒の世界です。

そして、光が来ないということは水温が上がらないのです。海ですから海表は凍りますけれども、海の底は凍りません。そのために常に一定の温度で、春夏秋冬関係なく一年中同じ零度から2℃です。これは、赤道直下に水深8,000メートルの場所があったとしても、日本の近海の日本海溝の8,000メートル、アラスカ沖の8,000メートル、これはみんな同じ零度から2℃です。海底は世界で一番安定した環境下ですけれども、ものすごい水圧で真っ暗、そして冷たいのです。

しかも餌がないのですよ。光が来ませんから植物は何も育たないということで、上から降り注いでくる餌しかないんです。プランクトンの死骸ですとか魚類の死骸、クジラの死骸が沈んでくるのを待っているしかないのです。

ところが、みんな途中で食べられちゃうのです。8,000メートルというと8キロですから、8キロ来る間にみんな途中で食べられてしまう。ごくまれに降り注いでくるものしかないということで、ものすごい水圧、低温、真っ暗、餌がないところで生物が生存できるのかなということで、皆さん、生物学者たちはいろいろ研究を重ねて、その結果、個体数、生物の数は余りないだろうと。しかも餌がない。そして水温が低い状態では余り育たないし、そんなに大きいものはいないだろうという



学説が今まで主流でした。

ところが、おいしい話をこれからします。

ある日本の最高権威の教授の話によると、8,000メートル付近にいる魚の大きさはどのぐらいでしょうか、捕まえてきたいので捕獲機をつくる都合上、大きさを教えて欲しいということでお伺いしたところ、先生いわく体長5センチほどでしょう。しかも個体数が極端に少ないだろうと。行って、数匹撮影できたらラッキーだと。

先生、何で5センチなのですかと聞いたところ、先ほどの劣悪な環境下ですよ。そこで生物が、例えとして魚とします。魚が1年に成長できるのは1ミリぐらいだろうと。環境が安定しているから50年ぐらいは生きるのではないかと。そうすると、1ミリ掛ける50は50ミリ、50ミリは5センチですよ。ということで5センチぐらいだろうと。

それは、権威者の教授のお話ですから真に受けまして、5センチの魚の捕獲機、捕獲機といたって、2リットルのペットボトル、あれを改造しまして、ウナギなどを捕る胴というのがありますよね。入り口が逆さまになって、入りやすいけど出られないものです。あれをつけていきました。

せいぜい20センチぐらいの捕獲機で行ったところ、「物事はやってみなければわからない」、「机の上で幾ら考えていても無駄よ」ということをまざまざと実感させていただきました。行ってみたら、体長が5センチと言われた魚がなんと25センチあるのです。

皆様のお手元にお配りしてあるかと思えますけれども、魚の映像があるかと思えます。何で25センチがわかったかといいますと、先ほどの探査機「江戸っ子1号」の幅は50センチと言いましたけれども、この機体の1号を海底に落とすわけで、その幅50センチの半分以上の大きさ、正確に画像を処理し解析するとわかりますが、目で見てもわかります。25センチはあったのです。しかも100匹ぐらい映っていたのです。

この理由としては、餌が少ないところに、30

センチぐらいの生のサバをくくりつけて餌として持っていったのですから、彼らにしては一生に一度あるかないかのお刺身が来たのですよ。だから、多分、随分遠いところから嗅ぎつけて、そこら辺の魚が集まってしまったのかもわからないのですが、それにしても画面に数十匹、延べで言うと100匹ぐらいはいたであろうと多いのです。先生のお話とは、これだけでも違うでしょう。しかも25センチですよ。先生の理論からすると1年で1ミリの成長ですよ。25センチというのは何ミリになりますか。答えがないようですが、250ミリです。250掛ける1は、250でしょう。あの魚、250歳かもしれないのです。これでは、20センチの捕獲機ではとても捕りようがありません。おかげで捕獲は失敗しました。

この話を、筑波大学の遺伝子の大家、ノーベル賞候補になるのではとされている村上教授にお話ししたところ、それはおもしろいねと、全く眉唾な話じゃないかもしれない、この次行ったら必ずあの魚を捕まえてきてほしい、死んでいてもいいと言われました。遺伝子を解析するときに年齢もわかるそうなのです。それで年齢がはっきりできる。しかも、これを人間にうまく転用できると。人間の寿命、250歳とは言わないですけども、200歳ぐらいにはなる可能性もあるそうです。

皆さんどうですか。織田信長は人生50年、その4倍生きられるのですよ。皆さんまだ若造です。これから夢を持ってばりばり働ける。そんなに遠



い将来ではないかと思えます。今の遺伝子の開発能力からすると、もしかしたら寿命が延びる可能性は大いにあるのではないかと思えます。

ですから、きょうは夢を持ってお帰りになれる一つの条件と、あと幾つか楽しい話があります。

先ほど、江戸っ子1号が到達した7,830メートルで撮った映像のお話しをしましたが、同時に海底の泥の採取をしたかったのです。けれども、これもちょっと私の計算で失敗しました。机上の計算だけではだめなのです。プールでの実験ではうまくいっていたのですが。

というのは、泥を採取するために、スポイトを大型化したものを考えました。いままで世界中で泥の採取といいますと、1メートルぐらいのばかでかいステンレス製の採取機を使っていました。そうしますと、その重量だけでも30キロぐらい。先ほど冒頭にお話しした「江戸っ子1号」のボディは私ぐらいで、機体の重さが50キロです。それに30キロのものをぶら下げたら、どっちが主役だかわからなくなってしまいます。

そのために、世界で一番小型軽量の採取機を考えたところ、スプリングを潰して、スポイトをちょうど潰したような状態を紐で固定。それで海底に到着したら、スプリングをとめている紐を切り離して伸ばします。そうすると、スポイトと同じで海底の泥を吸い上げてくれるという、ごく単純で、一番小型軽量化できるんです。しかも、ゴムですと水中比重は1.1です、1キロあっても水中では100グラムの採取機を考案して行ったのです。

けれども、私がやっぱり素人で浅はかでした。水槽実験で、海の中では金属がゆっくり溶けます。異種の鉄と銅を合わせると鉄が先に溶けます。これは電位差が生じ海中では溶けるのです。これを利用して銅と亜鉛を組み合わせますと、亜鉛が数時間で溶けてしまう。それを利用した切り離し装置を考えました。たった10グラムです。これを取りつけたところ、水流を忘れていたのです。これがくせ者で、3時間の予定が半分以下の時間で溶けてしまった。流れは怖いです。反応を促進し

ます。

そこで、皆さんにお伝えしたいのは、机上の理論よりも実践を重んじたほうが良いということですよ。私は、子供のころ先生によく叱られて大目玉を食らいました、また怒られるような単純なミスで失敗しました。この失敗は次の戒めにつながると思えます。二度としませんから。

今回は、8,000メートルの機体で、これには耐圧容器としてガラス球を使いました。普通ですとチタン製のボディじゃないともたないよと言われていたために、私どもは、ためらいもなくチタン製と思込み機体を設計したところ、材料費で先ほど画面でも出ていたとおり2億円です。これは概算で2億円です。その大半が耐圧容器とそれを浮遊するための浮力体に費やされ、大型、重量、開発技術、費用、全て大難問でした。

そのため、とくに開発費用が町工場では手に負えない開発プロジェクトになりかけていましたが、ひょんなことからガラス球でも耐圧することを知らされて、それこそ目からうろこですね。今までの固定概念、今までの経緯から見て、ただ思い込んでいただけだったのです。実はガラス球があるということに目も向けなかった。気をつけなかった。これは私どもが「江戸っ子1号」で得た一番の成果で考え方、見方に拘りを持たない。

これからも皆さん、教育者として指導していくわけですが、物事を開発でも何かをするときには、皆さん一方向だけしか見ていないことが多くあります。ところが、物、考え方というものは立体です。正面から見ただけで、カップヌードルの容器だとわからないでしょう。上から、下から、後ろから、左右から見て、はっきり立体がわかって物がわかるのに、どちらかという研究者というのは思い込みが多いのです。そのために、一方向からしか見ていないために行き詰まったり、本当の姿を見出せなかったりします。こういうことで失敗している。私どももそのいい例でした。

正直言って皆さん、ガラス球が、耐圧能力が高いということはおわかりになりますか。コップだ

と落っことしたらすぐ割れてしまうような、あんなもろいものが、先ほど、指先に800キロもかかるものに耐えるのです、信じてもらえないだろうと思って、今日はわざわざ「江戸っ子1号」に使ったガラス球の半分、1個持ってくるのは大変なので半分で勘弁してください。これです。



これ、サラダボールじゃないですよ。耐圧容器なのです。これが8,000メートル行ったのです。厚みが12ミリ、1.2センチ。これがチタンですと40ミリから50ミリないと潰れちゃうのです。薄くなって比重が小さいですから、これ自体に浮力があるのです。ですから、これを使うと高額な浮力体も要らなくなる。コンパクトにできる。一石もう何鳥にもなるすぐれものです。

このガラスがなぜもつかといいますと、これは分子構造に大きな要因があります。チタンは結晶体ですよ。結晶体の凝縮力、分子間の吸引、結合力で強度が出るものなのですが、このガラスはアモルファス構造です。つまり、ある応力を加えると自由に形を変えることができる、水と同じようなものです。そのためにこの薄さでも、水深8,000メートルの海底に沈みますと潰れるのです。圧縮されて、微量ですけれども、約2ミリ径が小さく圧縮されます。金属ですとこの2ミリが致命傷で、潰れてしまうということになりますが、この2ミリ変形できるということで応力緩和になり、こんな薄さでもってしまいます。

これは後でわかったことで、最初からわかって

いたらあんなに苦労することはなかったなと思うのですけれども、人間、思い込み、偏見、そういったものが多いんだということに気がつきました。人様を指導するに当たっても、自分の思い込みだけではなくて、いろんな方向、角度から相手を見て、そのよさを知ることが大事かと思えます。

先生方の前でこんな偉そうなことを言って恥ずかしいのですけれども、ぜひそういう目で見ていただくとこれからも役に立つかと思えますし、こんな私が言うことではないかとも思います。

もうそろそろ終わりの時間も近くなりましたので、もう一つ夢のある、皆さんが明るくなるお話を最後にさせていただきます。

というのは、日本の周りには大変海底資源が豊富にあることが今わかりつつあります。しかも、日本は全て海に取り囲まれていますよね。これが日本にとっては大変有利にこれから進むかと思えます。

排他的経済水域、ちょっと勉強不足なので、海岸から300キロか200海里ぐらいまでは、日本がその海域で自由に資源を採取していい。それ以外ですと、国際的な許可、承認が必要なのですが、その範囲内でとったものは全部日本のものという排他的経済水域があります。これが世界で6番目の広さ。6番目ですよ。こんなちっぽけな国が世界で6番目の広さの水域を有している。海洋大国なのです。

しかも、近年、その海底に有効な資源がたくさん眠っていることがわかりつつあります。まだ探査が進んでいないために全様はつかめておりませんが、今わかった時点でも大変な金属鉱脈です。

今、尖閣諸島、なぜあんなに問題になっているか。ここをにわかに中国が主張し始めたというのは、海洋研究開発機構が、今から5年前ぐらいですか、あの近海に黒鉱という、いろんな金属、金やレアメタルなどを含有した大鉱脈を発見しちゃったんです。それを発表した途端に漁船団が押し寄せてきて、中国のものだと言いだしております。あそこには領海、漁業問題の他に大変な金

属鉱脈がありそれを狙っているのではないのでしょうか。

それと、最近、火山があちこちで噴火していますけれども、海の中でも噴火しております。海底火山と言われておりますけれども、これがかなりの数があるらしいのです。その噴出口付近に、熱水鉱床といいまして、マグマから噴出してきたものが急に海水で冷却されるために、金やレアメタルなどが大量に濃縮されて堆積していることがわかり始めております。

この海底火山を全部採取できるようになると、レアメタル、特に皆さんのお持ちの携帯電話、パソコン、電子機器のバッテリーにはなくてはならないリチウム、これは今、中国が寡占状態で仕切っていますけれども、実は日本はそれを上回る埋蔵量になるであろうと言われております。ということは、この採取技術さえ確立できれば中国なんて怖いものじゃないと思います。日本は、産業立国として自前で電子部品をじゃんじゃんつくれる。世界最先端の技術と埋蔵の資源が自前でできる。ですから、日本はこれから深海探査技術と採掘技術、これを確立できると資源大国になります。皆さんの老後は楽になりますよ。

それにエネルギー資源です。メタンガスが水圧と先ほど言った零度から2度という低温のために、水の中に取り込まれたメタンハイドレートというシャーベット状になったものがありますけれども、このCH<sub>4</sub>ですか、低公害です。これを燃やしたとしても炭酸ガスはごくわずか。水と炭酸ガスしか出ないという低公害のエネルギーなのですけれども、これが今、日本が使用している総エネルギー量の200年分です。200年分ですよ。寿命が200歳になったとしても一生ものが近海に眠っているということです。もうアラブの石油もそろそろ底が見えてきたような状態かと思えますけれども、日本にはこれから200年分もあるのです。それだけでも日本の将来は明るいでしょう。

そのために、子どもを立派に育てて世界を股にかける強い日本になれる可能性がいっぱいありま

す。ですから、日本の未来は大変明るいと思えます。アベノミクスよりも、もっといいものがあると思えます。

ただ、今の開発スピードでいくと早くも10年後です。下手すると20年後ぐらいになります。宇宙にあれだけ金を使っているのですから、深海にももうちょっと金を出して欲しいと思えます。今の10倍にすると、多分10年後には豊かな日本が来るので、アベノミクスより早いと思えます。

そうするためには、「海底探査をもっとやれ」と皆さんが声を上げて欲しいと思えます。そういう声が高まることによって、資金的な面でも多量に注ぎ込むことによって皆さんの幸せが早く来ますから、大いに騒いでください。これをお願いして、もう時間も参りましたので、この辺で私の話とさせていただきます。大変雑駁な話で耳障りな面、不適切な表現が多々あったかと思えますけれども、ご清聴ありがとうございました。



## 平成28年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

平成28年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」「専修学校産業教育功労者」に対する表彰式を平成28年11月15日に全商会館3階中会議室で挙行了いたしました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。西澤宏繁会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して初宿和夫教育庁都立学校教育部長から祝辞がありました。続いて公益財団法人産業教育振興中央会専務理事富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会会長上村肇様、東京都中学校長会副会長松丸晴美様の3名の御来賓の方々から御祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立第一商業高等学校戸田勝昭校長から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、「御下賜金記念産業教育功労者」24名中16名、「中学校技術・家庭科教育功労者」9名中8名、「専修学校産業教育功労者」1名の計25名でした。

受賞者は次の方々です（順不同・敬称略）

### I 御下賜金記念産業教育功労者（24名）

東京都立農芸高等学校	主 幹 教 諭	友 光 俊 一
東京都立農芸高等学校	主 任 教 諭	荒 木 雅 彦
東京工業大学附属科学技術高等学校	教 諭	森 安 勝
東京都立総合工科高等学校	非 常 勤 教 員	清 水 昭 弘
東京都立杉並工業高等学校	主 幹 教 諭	遠 藤 正 弘
東京都立工芸高等学校	主 幹 教 諭	島 崎 泉
東京都立工芸高等学校	主 任 教 諭	中 根 順 造
東京都立蔵前工業高等学校	副 校 長	近 藤 安 彦
東京都立足立工業高等学校	副 校 長	瀧 澤 隆 司
東京都立葛西工業高等学校	主 任 教 諭	粉 川 昌 巳
東京都立多摩工業高等学校	教 諭	水 野 直 治
東京都立多摩工業高等学校	専修実習助手	高 野 恵 一
大森学園高等学校	教 諭	梶 山 良 一
東京都立芝商業高等学校	校 長	丸 山 正 二 郎
東京都立第一商業高等学校	校 長	戸 田 勝 昭
東京都立赤羽商業高等学校	主 任 教 諭	長谷川 一 二 三
東京都立第五商業高等学校	主 幹 教 諭	中 島 正
東京都立第五商業高等学校	主 幹 教 諭	山 地 文 雄
東京都立八王子桑志高等学校	主 任 教 諭	矢 板 智 之
東京都立八王子桑志高等学校	主 任 教 諭	山 田 繁 樹
愛国高等学校	教 諭	宮 西 健 治
愛国高等学校	教 諭	濱 口 眞 一
東京都立杉並総合高等学校	校 長	若 林 直 司
東京都立青梅総合高等学校	専修実習助手	松 沼 昭 子

### II 中学校技術・家庭科教育功労者（9名）

江東区立第三亀戸中学校	主 任 教 諭	熊 谷 照 代
渋谷区立松濤中学校	主 幹 教 諭	徳 植 正 喜

中野区立緑野中学校  
板橋区立高島第三中学校  
練馬区立大泉中学校  
足立区立東島根中学校  
足立区立西新井中学校  
瑞穂町立瑞穂第二中学校  
新島村立式根島中学校

主任教諭  
主幹教諭  
副校長  
主幹教諭  
主幹教諭  
主幹教諭  
副校長

井口豊重  
若狭かなみ  
佐野晴子  
酒井利幸  
本村雄二  
米山純雄  
大野正雄

### Ⅲ 専修学校産業教育功労者（1名）

国際理容美容専門学校

副校長

佐谷 肇



## 平成 28 年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の団体に対し後援を行い、状況は以下の通りであった。

	対 象 事 業	開催期間	実 施 場 所	参加者数
1	平成 28 年度日本工業教育経営研究会・日本工業技術教育学会「第 26 回工業教育全国研究大会（東京大会）」	7 月 16 日～7 月 17 日	拓殖大学文京キャンパス	107 人
2	第 1 回全国高等学校農業教育研究協議会環境技術・創造部会 平成 28 年度東京大会	8 月 3 日～8 月 4 日	東京都立農芸高等学校	109 人
3	第 32 回葛飾区産業フェア	① 10 月 16 日～18 日 ② 10 月 23 日～25 日	①テクノプラザかつしか、東京都城東地域中小企業振興センター ②テクノプラザかつしか	87,000 人
4	第 14 回創造ものづくりフェア in TOKYO	① 10 月 5 日 ② 10 月 22 日食部門	①台東区立駒形中学校 ②女子栄養大学駒込キャンパス	約 610 人
5	平成 28 年度第 23 回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会	11 月 19 日	東京都立練馬工業高等学校	約 200 人
6	デュアルシステム科に学んだ卒業生と現役生徒・教職員の成果発表会	12 月 17 日	大田区産業振興協会	154 人
7	第 4 回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会	12 月 17 日	東京都立晴海総合高等学校講堂	350 人
8	第 17 回全国中学生創造ものづくり教育フェア	1 月 21 日～22 日	TOC 有明・女子栄養大学 JK ホールディングスビル	3,000 人

## 平成28年度 産学懇談会（第1回）

平成28年10月6日(木)13:15～17:00  
東京YMCA医療福祉専門学校

産学懇談会は専門高校等の会員校の教育に関する理解を深め、東京における産学連携の発展に寄与することを目的として、平成18年度から開催され、今回で11回目を迎えた。今年度は第1回目を専修学校で、第2回目を高等学校で開催することとした。

専修学校の教育内容は、工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養の8分野に分かれている。今回は東京YMCA医療福祉専門学校を見学し、教育・社会福祉分野の教育に対する理解を深め、産学連携の可能性を探った。参加者は、会場校校長・教職員、本会の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等27名であった。

東京YMCA医療福祉専門学校は、世界最大の非営利団体YMCAの一員、東京YMCAによって1996年に東京都国立市に設立された。「互いに愛しなさい」をカレッジスピリットとし、人間愛に基づいた本物の医療・福祉を実践できるスペシャリストの育成を目指して、介護福祉科（昼間部2年制）と作業療法学科（昼間部3年制）の2学科を設置している。

開会で、西澤宏繁会長、八尾勝校長の挨拶があり、西澤会長からは医療・福祉分野の専修学校の見学は本会としては初めてであり期待しているとの話があった。

また、八尾校長からは社会の要請が大変高く、どちらの学科も卒業生一人当たり100件以上の求人があるが、求人先への人材供給が行き渡っていない、若者の介護離れを背景に入学生が充足していない、などの悩みがあるとの話があった。

開会后、作業療法学科1年生の授業見学と介護福祉科、作業療法学科の施設見学を行った。

見学した授業は「身体障害作業療法評価学実習」で、測定器具を用いて肘の関節の可動域を測定する関節可動域測定法（ROM）の実習であった。

温井恵作業療法学科教員の指導のもと、真剣な態度で演習に取り組む学生の姿が見られ、高度な専門性を身に付けようとする強い意欲を感じた。

### 次 第

- 1 開会  
(1) 主催者挨拶 会長 西澤 宏繁  
(2) 会場校挨拶 校長 八尾 勝  
(3) 日程説明 事務局長 川邊 光洋
- 2 授業参観、校内施設見学
- 3 懇談会  
(1) 会場校より  
(2) 参加者自己紹介  
(3) 懇談・意見交換
- 4 謝辞 副会長 金子 昌男
- 5 事務連絡
- 6 閉会



東京YMCA医療福祉専門学校



八尾勝校長

施設見学では、最新の施設・設備を見学し、医療・福祉分野の施設・設備の進歩に目を見張った。また、廊下には2011年8月から続けられている「東日本大震災被災地支援ボランティア」の様子のパネルが展示されており、東京YMCA医療福祉専門学校の学生が被災地で活躍する姿を目の当たりに見ることができた。このことは在校生にとって学ぶ励みになると思われた。

授業見学、施設見学を行った後、懇談会を行った。まず、八尾校長から、「介護福祉士の誕生から今日まで」という題で、介護福祉士について次のような説明があった。

「社会福祉士及び介護福祉士法が成立した1987年当時は介護福祉士の養成校は全国で約20校であった。学校数はその後増加したが、ピーク時の420校から減少し、現在は378となっている。どこの学校も学生数は充足していない。介護福祉士は養成校卒業と同時に資格を取得できたので、看護師などの他の国家資格に比べて取得が容易であった。現在、管理介護福祉士という介護の要となる新しい国家資格が検討されている。中長期的に見ると、医療系の資格と福祉系の資格の取り方は変わっていくと思われる。介護福祉の仕事は待遇面もよいので、多くの若者に選んで欲しい。」次に、倉持有希子介護福祉科学科長から、①社会が介護福祉士に対して求める役割や資質、②介護福祉科の卒業時到達目標についての説明があった。続いて、温井恵作業療法学科教員から、①作業療法、②作業療法学科の学科目標についての説明があった。いずれの学科も、人がよりよく生きることができるよう、人間の尊厳を支える医療・福祉のスペシャリストの育成を目指しており、コミュニケーション能力や教養も重視していた。

懇談・意見交換では、参加者から次のような感想や意見が述べられた。「専門学校を知る良い機会となった。」「カレッジスピリットが素晴らしい。医療・福祉の分野はYMCAの精神を一番活かせる分野だと思った。」「専門学校では小・中・高の勉強が苦手な学生であっても能力を発揮できる。」「専門学校では専門高校出身者のモチベーションが高い。専門学校という世界は自分を生かせる場ではないか。」「他の学校を見るのは勉強になる。いろいろな分野の見学会を企画して欲しい。」「産学懇談会は産と学が交流できる貴重な機会である。普通科高校の教員も参加できるようにして欲しい。」「高校生に選んでもらうには、分かりやすく伝えること、言語化することが必要である。」

今回、会場を提供してくださった東京YMCA医療福祉専門学校の八尾勝校長先生をはじめ、多くの教職員の皆様に深く感謝申し上げます。



身体障害作業療法評価学実習



施設見学



懇談会

## 平成28年度 産学懇談会（第2回）

平成28年11月29日(火)14:00～17:00

東京都立王子総合高等学校

今年度第二回日の産学懇談会は東京都北区の東京都立王子総合高校を会場に、総合学科高等学校における教育に関する理解を深め、東京における産学連携の推進と産業教育の発展に寄与することを目的として実施した。

参加者は本会役員7名、学校会員として高校4名、中学校4名、専修学校6名、企業会員2名、及び事務局3名の合計26名であった。

最初に懇談会の開会として西澤宏繁会長と宮嶋淳一校長より挨拶が、黒後茂副校長より見学についての説明があった。

宮嶋校長から総合学科高校についての説明がなされた。要点をまとめると、総合学科は普通科、専門学科に続く、第三の学科であり都立では平成8年度開校の晴海総合高校をはじめ、現在、全日制課程では王子総合高校を含めて10校が設置されている。その特徴は、国語や理科などの普通科目から、工業や商業・情報や美術などの専門科目まで、自分の興味・関心や進路希望に応じて幅広く学べる学校であることにある。生徒は入学すると「産業社会と人間」の授業をとおして自己の進路への自覚を深め、ガイダンスをとおして選択科目や進路について決定していく。総合学科では、幾つかの「系列」という、進路希望に沿った科目履修ができ、まとまりのある学習を可能にする、体系的や専門性を考慮した相互に関連する科目によって構成する科目群を設置している。「系列」は将来の職業や進路希望に合わせて、自由に選択することができる。「系列」を超えて、他の「系列」の科目を選択することも可能である。

次に授業参観及び施設見学を行った。最初はビジネス・コミュニケーション系列の総合選択科目「手話」の授業を見学した。生徒が手話について調べ、学んだことを手話の実演をしながら、他の生徒に対して発表している授業だった。

次に伝統文化・工芸系列の総合選択科目「クラフトデザイン」の授業を見学した。生徒がそれぞれにドアの取っ手(ドアノブ)を用途や使い勝手を考慮してデザインしたものを、粘土を使って具体的な形状化を行っていた。これによって実際の使い勝手や意匠性を確認するそうだ。

次にメディア・ネットワーク系列の総合選択科目「コンピュータ制御」の授業を見学した。レゴブロックを教材にして、モーターやセンサーを組み込んだライトレースカーを製作して、その動作をコンピュータによって制御する。そのためプログラミングを行っていた。興味を深めた生徒はライトレースカーの大会にも出場するという。



手話



コンピュータ制御

次に工業・デザイン系列の総合選択科目「ビジュアルデザイン基礎」を見学した。時計のキットを製作する傍ら、時計の文字盤については其々の生徒が個性豊かにデザインして制作する授業である。

最後に主に工業系の施設を見学した。マシニングセンターはあるものの基本的な旋盤は卓上旋盤が数台あるのみで、一般的な工業高校には六尺旋盤が十数台あるのと比べると見劣りがする。総合学科と専門高校の目的の違いを施設・設備の違いからも認識することができた。

懇談会では参加者から感想や質問が述べられた。「専門高校ほどの授業内容に深みが無いが、入学してから進路を考え適性を判断する総合学科の特徴からやむを得ないだろう。」「実業界としては授業のやり方に一考を加え、施設・設備を有効に活用してほしい。」「ものづくりは専門高校への期待が大きいが、総合学科の意味合いが違うことで、良いか悪いか判断が難しい。」「ものづくりは手の細い10代のうちに身につけるべきで、大学では学問だけでも良いのではないか。」

校長からは次のように説明があった。「王子総合高校では5系列が設置され、科目数は全体で200科目近くになる。選択する生徒が少なくても出来る限り開講している。生徒の進路選択としては伝統文化・工芸系列を中心に科目選択した生徒は美術系に進むケースが多いなど、系列と進路選択に相関性がある。生徒は自分の授業の無い“空き時間”にはフリースペースで自発的に自習に励んでいる。」

宮嶋校長が「総合学科は一人一人の生徒を輝かせるために最も適した仕組み」と述べるように、多くの授業で表現力や発信力の育成に適した発表や討論が多く、コミュニケーション能力を育成する授業形態をとっている。それ故、総合学科は従来の教育を変える可能性を持っている。今までの「教え」の場から「学び」の場への転換を目指すという点では、総合学科は大きく評価されるべきであり、さらなる手立てを検討しながら、一層充実させていくべきものと考えさせられた。

最後に会場を提供して下さった王子総合高校宮嶋淳一校長、黒後茂副校長をはじめ多くの教職員の皆様に深く感謝申し上げます。



ビジュアルデザイン基礎



施設見学（工業デザイン系列）



空き時間の生徒



懇談会

# 平成28年度 第27回東京都産業教育振興会作文コンクール

## (1) 入選者一覧

平成28年度の「作文コンクール」の応募作文数は中学校の部では32校119作文、高等学校・専修学校の部では高等学校が21校109作文、専修学校が4校19作品で、全体総数では57校247作文でした。

応募作文はそれぞれの部の選考委員による第一次選考によって中学校の部では30作文(25%)、高等学校・専修学校の部では高等学校が23作文(21%)、専修学校では7作文(37%)に絞られました。

10月下旬に行われた第二次選考によって、中学校の部では18作文(最優秀賞1、優秀賞2、佳作15)、高等学校・専修学校の部では高等学校が17作文(最優秀賞1、優秀賞3、佳作13)、専修学校が3作文(優秀賞1、佳作2)、合計では38作文の入選作文が決定しました。応募作文数に対する入選作文数の割合は中学校の部では15.1%、高等学校・専修学校の部では高等学校が15.6%、専修学校が15.8%で全体としては15.4%でした。

入選作文の題名及び入選者は以下のとおりです。

### 中学校の部

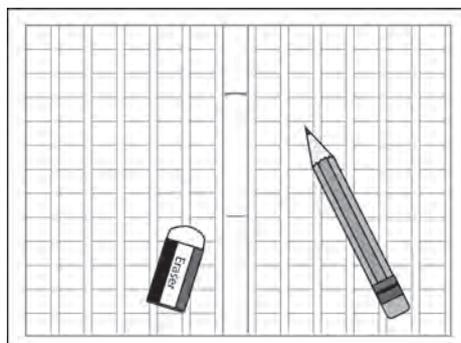
最優秀賞	製品としての価値を考える	大田区立大森第一中学校	2年	大 家 明日菜
優 秀 賞	私と家族をつないでくれる手作りエプロン	大田区立大森第一中学校	2年	燕 昇 司 美 莉
優 秀 賞	学ぶことの喜び	北区立明桜中学校	3年	鈴 木 那 奈
佳 作	技術科の意義	新宿区立西早稲田中学校	3年	真 田 礼 佳
佳 作	職場体験で学んだこと	墨田区立吾嬭立花中学校	3年	石 森 真 梨子
佳 作	職場体験で得たもの	墨田区立吾嬭立花中学校	3年	中 崎 美 希
佳 作	やりがいを感じて働くこと	墨田区立本所中学校	2年	金 内 佳 乃
佳 作	職場体験	墨田区立本所中学校	2年	横 山 華 子
佳 作	レモネード	大田区立大森第六中学校	2年	渡 辺 凜 栞
佳 作	つくることの喜び	世田谷区立烏山中学校	3年	佐 藤 杏 香
佳 作	働くこと	世田谷区立烏山中学校	2年	廣 末 真 寧
佳 作	働くことの喜び	世田谷区立烏山中学校	3年	和 田 奈々穂
佳 作	技術のラジオ作りで学んだこと	北区立滝野川紅葉中学校	3年	古 川 陽 介
佳 作	体験から自分の進路へ	足立区立江南中学校	2年	内 田 杏 菜
佳 作	私の夢	東村山市立東村山第四中学校	3年	寒 河 りまな
佳 作	好きこそ物の上手なれ	東村山市立東村山第四中学校	3年	関 口 遼 祐
佳 作	私の将来の夢	東村山市立東村山第四中学校	3年	細 淵 さくら
佳 作	見えない仕事と感謝の気持ち	東京都立大泉高等学校附属中学校	2年	田 辺 凜

## 高等学校の部

最優秀賞	遠回りした道の先	東京都立墨田工業高等学校	3年	桂	栄	光
優秀賞	私の転換点	東京都立田無工業高等学校	3年	松	永	拓也
優秀賞	拡がれ「福祉の心」	東京都立野津田高等学校	2年	藤	野	実咲
優秀賞	『御馳走様』を『頂きます』	東京都立瑞穂農芸高等学校	2年	尾	嶋	亜水
佳作	将来の夢	愛国高等学校	2年	浅	見	汐里
佳作	調理師になるために	愛国高等学校	3年	遠	藤	祐香
佳作	学んできたこと	愛国高等学校	3年	菅	野	紗矢
佳作	将来の夢	愛国高等学校	3年	高	山	アミー由璃奈
佳作	憧れの存在	愛国高等学校	3年	中	野	希都
佳作	戴帽式を終え実習へ	愛国高等学校	3年	嶺	島	千明
佳作	インターンシップが私に教えた養殖の面白さ	東京都立大島海洋国際高等学校	3年	藤	田	能徳
佳作	学校での勉強とアルバイト	東京都立小金井工業高等学校	2年	橋	本	昂季
佳作	食の洋風化と日本食離れ	東京都立農芸高等学校	3年	佐	藤	美朝
佳作	私達がやらなければならないこと	東京都立農産高等学校	1年	佐	藤	綾乃
佳作	対人援助職のプロになる	東京都立野津田高等学校	2年	小	川	紗奈
佳作	「ありがとう」のありがたさ	東京都立野津田高等学校	2年	丹	野	利玖
佳作	介護職として社会を創る	東京都立野津田高等学校	2年	福	嶋	香穂

## 専修学校の部

優秀賞	私の職業観	青山製図専門学校	1年	門	馬	英人
佳作	働くことの喜び	東京エアトラベル・ホテル専門学校	2年	高	橋	瑛乃
佳作	私の将来の「夢」	マリールイズ美容専門学校	1年	小	松	美樹



## (2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

### 製品としての価値を考える

大田区立大森第一中学校 2年 大家 明日菜

「使いにくそうだね」

この一言は私が“ものづくり”を好きとは言えなくなってしまったきっかけの一言であり、消費者として製品とどう関わっていくか考えるきっかけとなった一言でもある。

“ものづくり”に対して消極的になってしまったのは、小学校低学年のときに、図工で作ったものを見た友だちに「使いにくそうだね」と言われてしまったからです。自分は不器用なんだと思うと同時に、もう“ものづくり”なんてしたくないなぁと思いました。

中学校に入ってもその気持ちは変わりませんでした。二学期の家庭科の授業でエプロンを作ります。手縫いだけでなくミシンを使う作業がほとんどで、機械加工の苦手な私は憂うつでした。友だちが完成したエプロンを前に達成感に満ちあふれた笑顔を浮かべていました。でも、私はその輪の中に入れず、作品展で展示してほしくないなぁという気持ちでした。とは言っても、長い時間掛けて作ったものなので、使ってみたいという気持ちもありました。持ち帰ってすぐに、身につけてみました。鏡の中の自分は達成感に満ちあふれた笑顔を浮かべていました。さっそくこのエプロンで夕飯づくりのお手伝いをしました。実際に動いてみるといくつかの問題点に気がきます。まずは、このエプロンで一番こだわったデザインです。自分の好きな色のオレンジ色の布で作りました。この色が好きなのは、見ていると元気になる色だからです。これを着けて作る料理で家族を笑顔にしたい、そんな思いから選んだ色でしたが、油がはねたときにとても目立つことに気がきました。そのシミを見ていると何だか暗い気持ちになり、これではオレンジ色にした意味がありません。よく考えれば、母にいつも言われていたことです。製品を選ぶときは、汚れが目立たない色にするといいよ。言われたときは聞き流していた一言ですが、実際にエプロンを使ってみて、この言葉の重みに気付くことができました。また、ポケットの大きさにも問題がありました。エプロン全体のバランスばかりを考え、手のひらの大きさを考慮しなかったため、物の出し入れのしにくいポケットになってしまいました。最大の難点は、水に濡れるとエプロンの下の衣服までもが濡れてしまうことです。これでは何のためのエプロンかわかりません。身につけて嬉しかったのはほんの一瞬で、“ものづくり”はやっぱり好きではないという気持ちになりました。

そんな気持ちのまま、技術の授業で木工作品を作ることになりました。これは自分の使いたい作品の構想を練り、設計・製作のどちらも自分でやるというものでした。私はCDラックを作ることにしました。今まで友だちに作ってもらっていたときは、やる前から諦めていた機械加工も、しぶしぶですが自分でやりました。初めて使う機械も使っているうちに、慣れてきました。図工の授業との大きな違いは設計図があることです。設計図通りに作れば、大きな失敗をしないのです。木材をのこぎりで切断したときは曲がってしまい、これだと組み立てができないなぁと心配していましたが、切りしろをとっていたので、その部分をベルトサンダで切削することで、設計図通りの部品が完成しました。今までは、完成したときに「思っていたのと違う」という感情になりましたが、設計図通りの見た目の作品に仕上がったことで、今までに感じたことのない達成感を感じる事が出来ました。

使ってみたいというワクワクした気持ちで持ち帰ると、机の上にピッタリ収まります。使う場所のこ

とを考えて設計したので、当たり前なのですが完成したとき以上に嬉しかったです。このとき、ふとエプロンを持ち帰ったときのことを思い出しました。結局使ってみると、作らなきゃよかったという気持ちになるんだろうなあと。案の定、棚の高さをCDラックの高さぴったりにしてしまったため、出し入れがしにくく、また、時間内に完成させることで頭がいっぱいで研磨の作業が不十分だったため、製作時間についてはもっと検討するべきだったと思いました。でも、不思議なのですが“ものづくり”はやっぱり好きではないという気持ちは起こらなかったのです。それよりも、次に作る時はどういう工夫が必要か考えられたことに対する満足感がありました。

先日、タンスを買いにいったときに、家族にどんなタンスがよいかと尋ねられ、こう答えました。「家全体の配色のバランスを考えたデザインと設置する場所の大きさを考えた方がいいんじゃない。それから、靴下など小物が入る引き出しは小さい方がいいから、大きさの異なる引き出しがついているタンスの方が使いやすいんじゃないかな。」それは、いろいろなタンスを使ってみて、自分にとってどんなタンスが使いやすく、価値のあるものかを考える力が身につけていたからだと思います。

これまでは「使いにくそうだね」の一言は、私が作った製品を全否定する言葉のように感じていました。でも今は「改良するともっと製品としての価値が上がるよ」という意味のように思います。洗濯板が全自動洗濯機へと進化したのも、背景には「使いにくい」の一言があったからではないでしょうか。今回、技術・家庭科の授業を通して、製作者と消費者の立場を考えることができました。私たちの身の回りには、たくさんの製品であふれています。製品を選択するときには、さまざまな視点を持ち合わせていることが大切だと気付きました。そして、どんなに愛着のある製品でもいつかは壊れます。壊れたときにどういう製品に価値があるのか。これから製品と関わる上で、身につけていきたい視点の一つです。皆さんはどのような視点が必要だと思いますか。

\*\*\*\*\*

高等学校の部 最優秀賞

## 遠回りした道の先

東京都立墨田工業高等学校 3年 桂 栄光

私は高校で学ぶようになる前に少し遠回りをしました。中学校の時、勉強に対してあまり興味を持てなかった私は、このまま高校に進学しても意味が無いと思い、好きだったものづくりの道へ進むために職業訓練校に通うことにしたのです。

職業訓練校の機械実習の時、先生から自分の取り組む作業について、「どうしてそういう作業をするのか疑問に思うことがないのか、なぜその理由を考えないのか？」と、声を掛けられました。この時の私は図面通りに品物ができていればそれでよいと思い、先生の言葉の意味を深く考えませんでした。

その後、機械加工の会社に就職した私は、職業訓練校で学んだことができれば仕事も大丈夫と高をくくっていました。しかし実際には、図面通りに作るだけではうまくいかなくなりました。ある日、材料の鋳物を加工する作業を終えて上司の所へ持って行くと元の材料に「巣」と呼ばれる無数に空いた小さな穴が大量にあったことがわかりました。欠陥のある材料をいくら加工しても製品にはなりません。その欠陥を自分で見付けられなかったのがとても悔しかったのを覚えています。

年数を重ねていくうちに一通りの仕事も覚え、会社の人たちからも認められるようになりましたが、それにつれて要求される仕事の難易度は高くなっていきました。それまでは感覚だけで仕事をしてきま

したが、それでは難しくなった仕事に対応することができなくなり、ふと心に「なぜできないのだろうか」という疑問が浮かんできました。「なぜうまく加工できないのか」、「なぜ欠陥がでるのか」など疑問が次々と湧いてきました。この時、職業訓練校の先生に言われた言葉を思い出し、やっとその意味が分かったような気がしました。一步上のレベルで仕事をするためには、ただやみくもにするだけではだめで、しっかりとした理論の裏付けを知ることがぜひ必要だと感じ、「高校で勉強したい。もっと学びたい」と強く思うようになりました。

現在、私は工業高校の定時制、機械コースで学んでいます。授業では、例えば、教室で実習前に数式を使って主軸の回転数を求めたり、どのようにすれば効率よく作業ができるかといった理論を学習します。その後、工場で実習し、毎回必ずその日の内容を振り返り、成功の手応えや失敗の反省、感想などをレポートに具体的に記述してまとめます。そして、実習で身をもって経験したことを教室に持ち帰り、次回の実習へ向けて作業工程の見直しをします。このように授業は、教室の座学で理論を学び、それを工場の実習で実践し、レポートにまとめて振り返る、という三つのステップの繰り返しです。ただ作品を作るだけでなく、どのように作るのか、どうしてその作業をするのか、ということを経験して身につけるのです。

今までの実習で一番印象に残っているものとして、鑄造実習があります。この実習では鑄物を作る一連の作業に取り組みます。砂型を作り、できた型に熱く溶かした金属を流し込んで作るのです。初めてやってみると砂型が崩れたり、溶かした金属を型に流し込んでもうまく型全体に広がらずにいびつになったり、失敗続きでした。しかしそこで、土に含まれる水分量や、金属が溶ける温度などの理論を学ぶことによって、次の実習では作品を完成させることができました。

作品は、理論と実践の両方が合わさることで初めて形になっていきます。座学と実習を繰り返す高校の授業の中で、理論と実践の経験を積み重ねていった先にあるのが、本当の意味での「技術」なのだと思えることができました。

また、このように実際に自分で鑄物を作ってみることでその大変さがよく分かるようになり、人の作ったものを見る眼も変わってきました。以前とは違い、会社で加工する材料の鑄物の「巣」もよく見付けることができるようになってきました。失敗しないための着眼点や、逆に失敗しやすい所も、自分で作ってみることで分かるようになってきたからです。

高校の実習で取り組む課題は、他にも、旋盤、溶接、手仕上げなど多岐にわたります。幅広く、さまざまなものづくりを経験することで、いろいろなことが分かるようになってくると、今までは頭の中でモヤモヤしてばらばらだったものが、まるでジグソーパズルを組み立てるように繋がって、今まで見えていなかった物事の全体像が少しずつ見えてくるようになってきた気がします。周囲が変わって見えるほどの確かな変化を自分の中に感じるようになりました。

いつの間にか、勉強は私にとって苦手なものではなく、「知る」という楽しみに変化していました。ジグソーパズルを完成させるためにもっと勉強して知識を増やし、自分の知恵に変えてゆく、その重要さに気がつくことができるようになりました。少し遠回りしたけれど、いや、だからこそ、高校は自分を成長させてくれる意味のあるものになりました。

そうした変化の中で将来目指していきたいと思うものができてきました。それは、かつての私のように勉強が苦手な嫌いだっただけの人にも「知る」楽しみを実感させてあげられるような教員になりたい、ということです。勉強はもちろんですが、自分の知識や経験を活かして考えることの大事さや、「知る」ということや発見することで人は変わることができる、ということを経験される、そんな先生をぜひ目指していきたいです。

(3) 応募校一覧・応募校の推移・テーマ別応募数等

<中学校の部>

番号	区市名	学校名	応募人数	入選者数
1	中央区	晴海中学校	7	
2	墨田区	寺島中学校	3	
3		両国中学校	2	
4		文花中学校	3	
5		吾嬬立花中学校	3	2
6		本所中学校	7	2
7	大田区	大森第一中学校	2	2
8		大森第六中学校	10	1
9	世田谷区	烏山中学校	10	3
10	中野区	第七中学校	1	
11	北区	稲付中学校	1	
12		滝野川紅葉中学校	2	1
13		明桜中学校	2	1
14	足立区	江南中学校	1	1
15		上沼田中学校	2	
16	葛飾区	常盤中学校	3	
17		堀切中学校	10	
18		奥戸中学校	4	
19		葛美中学校	5	
20	新宿区	西早稲田中学校	1	1
21		牛込第二中学校	5	
22		新宿西戸山中学校	3	
23	目黒区	大島中学校	1	
24	品川区	日野学園	2	
25	杉並区	松溪中学校	10	
26	江戸川区	小松川第三中学校	1	
27	府中市	府中第三中学校	1	
28	東村山市	東村山第四中学校	5	3
29	三宅村	三宅中学校	4	
30	東京都	立川国際中等教育学校	3	
31		大泉高校附属中学校	2	1
32	私立	愛国中学校	3	
計			119	18

<高等学校・専修学校の部>

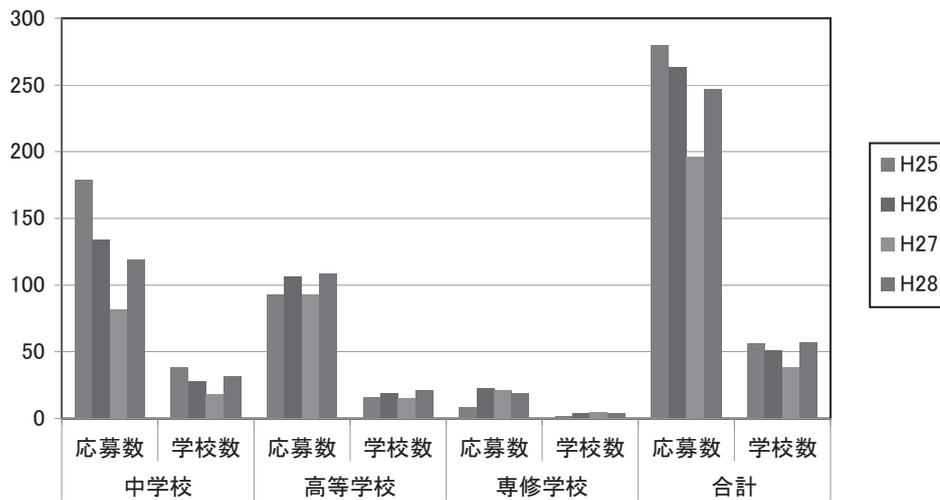
番号	学校名	応募人数	入選者数
1	都立農芸高等学校	11	1
2	都立農業高等学校	7	
3	都立瑞穂農芸高等学校	5	1
4	都立農産高等学校	7	1
5	都立園芸高等学校	1	
6	都立大島高等学校	5	
7	都立田無工業高等学校	1	1
8	都立小金井工業高等学校	1	1
9	都立杉並工業高等学校	1	
10	都立荒川工業高等学校	3	
11	都立墨田工業高等学校	1	1
12	都立赤羽商業高等学校	4	
13	都立忍岡高等学校	10	
14	都立大島海洋国際高等学校	4	1
15	都立野津田高等学校	4	4
16	都立穂が丘高等学校	10	
17	愛国高等学校	9	6
18	村田女子高等学校	1	
19	蒲田女子高等学校	5	
20	日本工業大学駒場高等学校	10	
21	国際理容美容専門学校(高等専修)	9	
計		109	17

番号	学校名	応募人数	入選者数
1	青山製図専門学校	10	1
2	中央工学校	2	
3	東京エアトラベル・ホテル専門学校	6	1
4	マリールイズ美容専門学校	1	1
計		19	3

<まとめ>

番号	区分	応募校数	応募人数	入選数
1	中学校	32	119	18
2	高等学校	21	109	17
3	専修学校	4	19	3
総計		57	247	38

応募数・応募校の推移



	中学校		高等学校		専修学校		合計	
	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数
H25	179	38	93	16	8	2	280	56
H26	134	28	106	19	23	4	263	51
H27	82	18	93	15	21	5	196	38
H28	119	32	109	21	19	4	247	57

応募数の変化(前年度から見た変化)

校種	平成25年度(2013)		平成26年度(2014)		平成27年度(2015)		平成28年度(2016)		平均 応募数
	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	
中学校	159⇒179	13%増	179⇒134	25%減	134⇒82	39%減	82⇒119	45%増	129
高校	94⇒93	1%減	93⇒106	14%増	106⇒93	12%減	93⇒109	17%増	100
専修学校	21⇒8	62%減	8⇒23	183%増	23⇒21	8.7%減	21⇒19	10.5%減	18
総数	274⇒280	2%増	280⇒263	6%減	263⇒196	25%減	196⇒247	26%増	247

作文コンクール 入選数の集計

校種	平成25年度(2013)			平成26年度(2014)			平成27年度(2015)			平成28年度(2016)			平均%
	応募数	入選数	%										
中学校	179	26	15	134	19	14	82	13	16	119	18	15	15
高校	93	14	15	106	16	15	93	14	15	109	17	16	15
専修学校	8	2	25	23	5	22	21	3	14	19	3	16	19
総数	280	42	15	263	40	15	196	30	15	247	38	15	15
参考	選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			—

## 作文のテーマ別応募数一覧

### 【作文の内容】

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- ・ 中学校における技術・家庭科の学習
- ・ 高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- ・ 勤労に関わる体験的な学習

### 【テーマ】

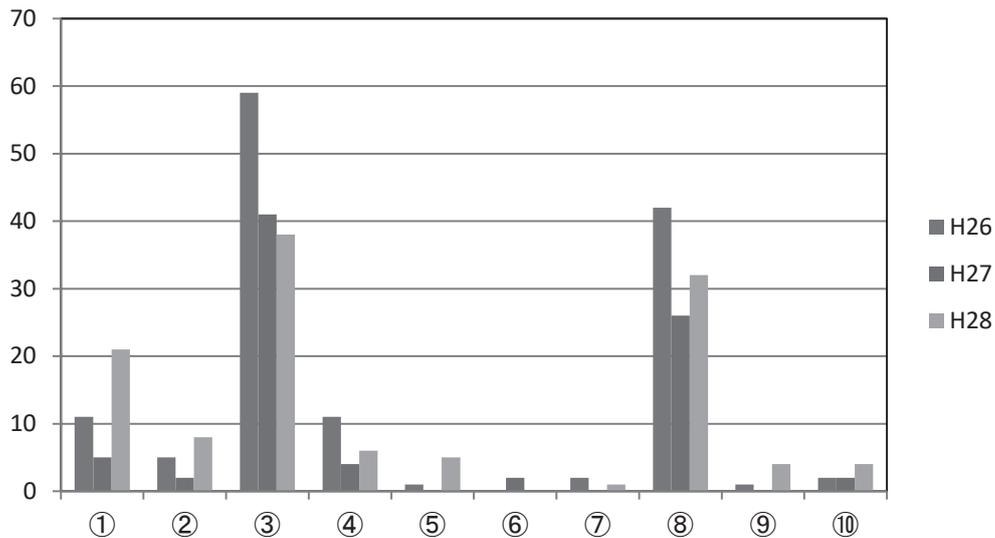
作文の内容について、次のテーマ番号（①～⑩）から関係するものを選択して応募票の欄に記入する。

- ①授業等を通して学び得たこと
- ②インターンシップ（就業体験）や現場実習等によって学び得たこと
- ③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- ④つくることの喜び、ものづくりの喜び
- ⑤働くことの喜び
- ⑥学習に対する心構え
- ⑦私の生きがい
- ⑧私の進路、将来の夢
- ⑨私の職業観
- ⑩その他

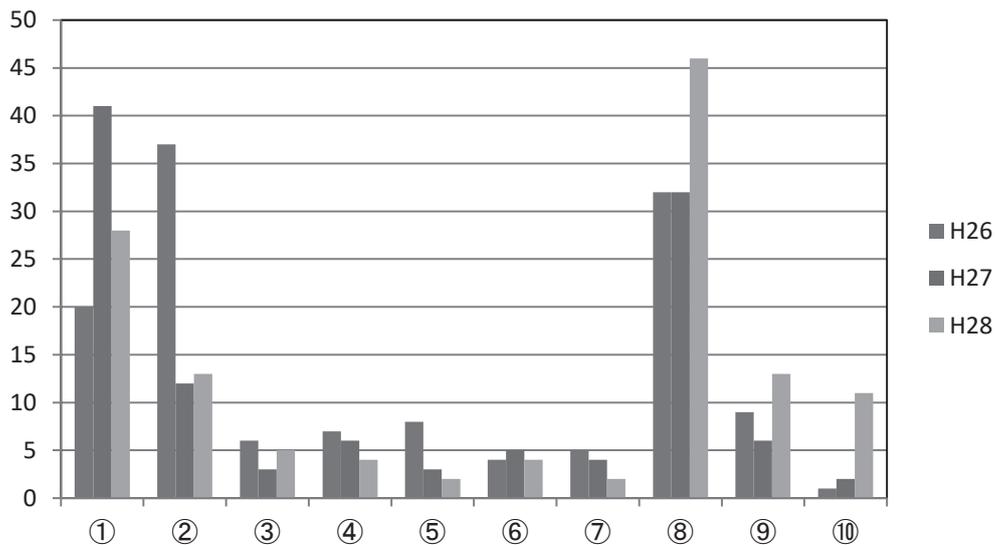
### テーマ別選択数とその割合

テーマ 番号	中学校の部						高等学校・専修学校の部					
	H26		H27		H28		H26		H27		H28	
	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合
①	11	8%	5	6%	21	18%	20	16%	41	36%	28	22%
②	5	4%	2	2%	8	7%	37	29%	12	11%	13	10%
③	59	44%	41	50%	38	32%	6	5%	3	3%	5	4%
④	11	8%	4	5%	6	5%	7	5%	6	5%	4	3%
⑤	1	1%	0	0%	5	4%	8	6%	3	3%	2	2%
⑥	0	0%	2	2%	0	0%	4	3%	5	4%	4	3%
⑦	2	1%	0	0%	1	1%	5	4%	4	4%	2	2%
⑧	42	31%	26	32%	32	27%	32	25%	32	28%	46	36%
⑨	1	1%	0	0%	4	3%	9	7%	6	5%	13	10%
⑩	2	1%	2	2%	4	3%	1	1%	2	2%	11	9%
合計	134	100%	82	100%	119	100%	129	100%	114	100%	128	100%

テーマ別選択割合【中学校】



テーマ別選択割合【高校・専修学校】



中学校の部ではテーマ別選択割合において、昨年度と同様に今年度も「③職場体験やボランティア活動によって学び得たこと」と「⑧私の進路、将来の夢」が全体の大半を占め、テーマ選択の傾向に変わりは見られなかった。

これに対して高等学校・専修学校の部では「⑧私の進路、将来の夢」を選択する生徒の割合が大きく増加した。次いで「①授業等を通して学び得たこと」を選択する生徒が多かった。「②インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと」を選択した生徒の割合が昨年と同様に一昨年度に比べて減少した。

## 本会の概要

# 平成28年度 事業経過報告

(平成29年2月20日現在)

## 1 会計監査

4月15日(金) 午後3時から、都庁第一本庁舎33階特別会議室S4を会場として常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査を実施(本会事務局長立会い)

## 2 理事会

5月13日(金) 午後2時から、全商会館4階401会議室で開催

## 3 総会・講演会

6月16日(木) 午後2時から、全商会館3階中会議室で開催

- 講演 演題 『江戸っ子1号』に賭けた夢  
講師 株式会社杉野ゴム化学工業所代表取締役社長 杉野 行雄 氏

※ 総会・講演会の報告は本誌に掲載しております。(本誌 p.39～47)

## 4 委員会

(1) 企画推進委員会 6月28日(火) 都庁第一本庁舎33階33階会議室で開催

(2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会

9月16日(金) 都庁第一本庁舎42階特別会議室Cで開催

(3) 作文選考委員会 5月19日(木) 全体会 都庁第一本庁舎33階教育庁作業スペース調整室で開催

10月25日(火) 分科会(高等学校・専修学校の部)

都庁第一本庁舎39階教育庁会議室で開催

10月27日(木) 分科会(中学校の部)

都庁第一本庁舎39階宮繕課会議室で開催

## 5 振興奨励事業

(1) 教育功労者表彰:御下賜金記念産業教育功労者(24名)、中学校技術・家庭科教育功労者(9名)、専修学校産業教育功労者(1名)の表彰式を、11月15日(火)午後3時から全商会館3階中会議室において挙行了。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。(本誌 p.48～49)

(2) 研究団体助成:産業教育関係の教育団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(3) 作文コンクール:中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は247点であった。その中から最優秀賞2名(中学校1名、高校1名)、優秀賞6名(中学校2名、高校3名、専修学校1名)、佳作30名(中学校15名、高校13名、専修学校2名)計38名の入選者を選定した。(本誌 p.54～62)

12月16日(金) 都議会議事堂1階都民ホールにおいて「作文コンクール表彰式」を行い、入選者に賞状と賞品を授与した。また、入選者以外の応募者全員及び「明日に生きる 第27号 作文コンクール入選作品集」の表紙デザイン作成者に賞状と記念品を贈呈した。

(4) 優良卒業生選奨:優良卒業生に対し、各学校の校長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○東京都産業教育振興会会長表彰

中学校	842名	中等教育学校（前期課程）	13名	
高等学校	216名	専修学校	54名	
高専・短大	14名			計 1,139名

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校				計 112名
--------------	--	--	--	--------

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は8団体、8事業に対して後援名義の使用を承認した。（本誌 p.49）

## 6 産学交流事業

- (1) 産学懇談会（第1回）を10月6日（木）（午後1時～5時）に東京YMCA医療福祉専門学校を会場として行った。介護福祉科・作業療法学科の授業、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合い、有意義な懇談会であった。参加者は、会場校校長・教員及び産業界・公立高校・公立中学校・専修学校の管理職等、教員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等27名であった。また、懇談会后、JR南武線谷保駅近くで自由参加（13名）による教育懇親会を持った。（本誌 p.50～51）
- (2) 産学懇談会（第2回）を11月29日（火）（午後2時～5時）に都立王子総合高等学校を会場として行った。総合学科の授業、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合い、有意義な懇談会であった。参加者は、会場校校長・副校長および産業界・公立高校・公立中学校・専修学校の管理職等、教育庁指導部・都立学校教育部職員等27名であった。また、懇談会后、地下鉄都営三田線西巣鴨駅近くで自由参加（17名）による教育懇親会を持った。（本誌 p.52～53）

## 7 情報連絡事業

- (1) 本年度は、会報「東京の産業と教育」を年2回、第150号を7月15日に、第151号を12月1日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第54号を3月上旬に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第27号は入選作品38編を掲載して、3月上旬に発行し、入選者及び全会員・関係諸機関に配布する。
- (4) 全国産業教育振興連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議が、5月26日（木）に東京の工業教育会館で開催された。本会より会長、副会長、事務局長、学校代表委員が出席した。
- (5) 文部科学省・石川県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他主催の、第58回全国産業教育振興大会・第26回全国産業教育フェア石川大会が、11月5日（土）～11月6日（日）、石川県金沢市内の会場を中心に開催され、本会から会長と事務局員及び会員数名が参加した。
- (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月一回更新した。
- (7) 公益財団法人産業教育振興中央会が実施する「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」に6名、「専門高等学校教員の特別研究助成」に1名、本会から応募があった。また、同会主催の「教員海外産業教育事情研修派遣」に本会から1名が参加した。（本誌 p.30～31）

## 8 会員の増加運動の推進

今年度末までに産業界会員3、学校会員2（私立高等学校2）、個人会員1が退会した。一方、年間を通じて会員増加運動に取り組んだ結果、新たに産業界会員7、学校会員5（公立中学校1、私立中学校1、私立高等学校1、専修学校2）、個人会員2が入会した。

## 平成27年度 決算

総収入額 ¥2,830,446  
 総支出額 ¥2,285,820  
 差引額 ¥544,626

[収入の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要
会 費	2,198,000	2,235,000	37,000	1 学校関係 円 校数・口数 1,490,000
				① 国公私立中学校 2,000 409 校 818,000
				② 都立高校 全 6,000 53 校 318,000
				定 3,000 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 6,000 18 校 108,000
				通 3,000 1 校 3,000
				④ 高専・短大 6,000 3 校 18,000
				⑤ 専修学校 21校 6,000 22 口 132,000
				2 産業界関係 円 口数 745,000
				① 企 業 46社 10,000 70.5 口 705,000
② 個 人 16名 2,000 20 口 40,000				
利子収入	691	137	△ 554	預金利息
雑収入	165,000	195,000	30,000	会誌広告料
繰越金	400,309	400,309	0	前年度繰越
合 計	2,764,000	2,830,446	66,446	

[支出の部]

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差額	摘 要	
事務費	380,000	294,150	85,850		
項 目	需用費	70,000	14,284	55,716	総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費
	役務費	300,000	279,866	20,134	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
	旅 費	10,000	0	10,000	全国産業教育フェア(三重大会)
会議費	70,000	3,672	66,328	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費	2,228,000	1,922,998	305,002		
項 目	振 興 奨励費	930,000	782,974	147,026	①教育功労者表彰 194,858
					②研究奨励助成 122,000
					③作文表彰等 299,685
					④永年会員表彰 0
					⑤表彰状印刷等 142,041
					⑥表彰状筆耕料 24,390
	情 報 連絡費	1,288,000	1,140,024	147,976	①会報発行(2回分) 186,624
②会誌第53号発行 411,264					
③作文集第26号発行 323,136					
④HP更新費 194,400					
⑤全産協参加費 3,000					
⑥中央会図書費 0					
⑦作文集・会誌合本費 21,600					
産学交流費	10,000	0	10,000	産学懇談会	
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	21,000	0	21,000	緊急対応	
合 計	2,764,000	2,285,820	478,180		

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

企業会員の0.5口分は、年度途中で退会したため、半年間の会費を納めていただいた。

## 平成28年度 予算

総収入額 ¥2,980,000

総支出額 ¥2,980,000

差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,270,000	2,198,000	72,000	1 学校関係 円 校数・口数 1,500,000
				① 国公立中学校 2,000 408 校 816,000
				② 都立高校 全 6,000 53 校 318,000
				定 3,000 31 校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 6,000 18 校 108,000
				通 3,000 1 校 3,000
				④ 高専・短大 6,000 3 校 18,000
				⑤ 専修学校 23 校 6,000 24 口 144,000
				2 産業界関係 円 口数 770,000
				① 企 業 48 社 10,000 73 口 730,000
② 個 人 16 名 2,000 20 口 40,000				
利子収入	374	691	△ 317	預金利息等
雑収入	165,000	165,000	0	会誌広告料
繰越金	544,626	400,309	144,317	前年度繰越
合 計	2,980,000	2,764,000	216,000	

[支出の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要	
事務費	410,000	380,000	30,000		
項 目	需用費	20,000	70,000	△ 50,000	消耗品費等、資料管理費
	役務費	360,000	300,000	60,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費
	旅 費	30,000	10,000	20,000	全国産業教育フェア（石川大会）
会議費	70,000	70,000	0	理事会、総会、講演会、各種委員会	
事業費	2,372,000	2,228,000	144,000		
項 目	振 興 奨励費	1,020,000	930,000	90,000	①教育功労者表彰 210,000
					②研究奨励助成 130,000
					③作文表彰等 450,000
					④永年会員表彰 30,000
					⑤表彰状印刷 160,000
					⑥表彰状筆耕料 40,000
	情 報 連絡費	1,322,000	1,288,000	34,000	①会報発行(2回分) 240,000
②会誌第54号発行 440,000					
③作文集第27号発行 400,000					
④HP更新費 200,000					
⑤全産協参加費 6,000					
⑥中央会図書費 2,000					
⑦PRチラシ 34,000					
産学交流費	30,000	10,000	20,000	産学懇談会	
分担金	65,000	65,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	63,000	21,000	42,000	緊急対応	
合 計	2,980,000	2,764,000	216,000		

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成 28 年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

(☆印：新任)

平成 28 年 7 月 1 日現在

会 長	日本リスク・データ・バンク株式会社 顧問 (前・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長)	西 澤 宏 繁
副 会 長	株式会社カナック企画相談役	金 子 昌 男
〃	東京商工会議所理事・産業政策第二部長	小 林 治 彦
〃	東京都立葛飾商業高等学校	高 石 公 一
理 事 長	東京都教育委員会教育長	中 井 敬 三
常 任 理 事	☆ 東京都教育庁都立学校教育部長	初 宿 和 夫
〃	☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	星 政 典
理 事	公益社団法人経済同友会執行役	藤 卷 正 志
〃	☆ 東京経営者協会労働・研修部担当部長	白 井 啓 能
〃	信川化学工業株式会社取締役社長	信 川 仁 道
〃	株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長	井 水 治 博
〃	三和電気工業株式会社代表取締役社長	石 井 卓 爾
〃	墨田区教育委員会教育長	加 藤 裕 之
〃	江東区教育委員会教育長	岩 佐 哲 男
〃	武蔵野市教育委員会教育長	宮 崎 活 志
〃	☆ 新宿区教育委員会学校運営課長	山 本 誠 一
〃	☆ 荒川区教育委員会学務課長	相 川 隆 史
〃	東京誠心調理師専門学校長	廣 瀬 道
〃	岩倉高等学校長	浅 井 千 英
〃	安部学院高等学校長	安 部 元 彦
〃	東京都立農芸高等学校長	岡 本 利 隆
〃	東京都立六郷工科高等学校長	佐々木 哲
〃	東京都立葛飾商業高等学校長	高 石 公 一
〃	東京都立忍岡高等学校長	岡 島 まどか
〃	☆ 東京都立杉並総合高等学校長	若 林 直 司
〃	武蔵野市立第六中学校長	田 極 政一郎
〃	☆ 足立区立第七中学校長	佐 藤 秀 直
〃	☆ 東京都教育庁指導部長	出 張 吉 訓
〃	☆ 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	藤 井 大 輔
〃	☆ 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)	堀 川 勝 史
〃	☆ 東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長	小 町 高 幹
理事・事務局長	☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (計画担当)	川 邊 光 洋
常 任 監 事	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (管理担当)	森 田 明 夫
監 事	有限会社飯吉製作所代表取締役	飯 吉 修一呂
〃	☆ 中野区立第四中学校長	柄 澤 茂 之

平成28年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

東京都立園芸高等学校長	徳田安伸
東京都立工芸高等学校長	鳥屋尾史郎
東京都立赤羽商業高等学校長	昼間一雄
東京都立足立西高等学校長	宮川隆史
東京都立若葉総合高等学校長	根本浩太郎
東京実業高等学校長	知念義裕
安部学院高等学校長	安部元彦
マリールイズ美容専門学校長	江原美規子
東京都立産業技術高等専門学校副校長	渡辺和人
台東区立駒形中学校長	瀬川眞也
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	鈴木誠
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	馬場一平

作文選考委員会

東京都立鷺宮高等学校長 (高校・専修学校の部委員長)	石坂敦子
東京都立農業高等学校長	齋藤義弘
東京都立杉並工業高等学校長	高幹明
東京都立荒川商業高等学校長	長江誠
東京都立町田総合高等学校長	濱田准一
日本工業大学駒場高等学校教諭	竹内真
安部学院高等学校長	安部元彦
学校法人中央工学校広報センター長	高橋隆泰
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	宮川麻衣子
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課課長代理 (課務担当)	坂口雄一
立川市立第七中学校長 (中学校の部委員長)	大神田佳明
中央区立日本橋中学校長	平松功治
小平市立小平第十五小学校長	熊井久乃
葛飾区立葛美中学校長	志村昌孝
葛飾区立一之台中学校長	入山賢一
足立区立江南中学校長	宮下みどり
中野区立第七中学校副校長	深井明美
新宿区立新宿養護学校長	寺島京子
荒川区立赤土小学校副校長	出井玲子
八王子市立上柚木中学校長	坂詰悦子
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	吉川泰弘
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事	馬場一平

# 東京都産業教育振興会会則

## 第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会といふ事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿 2-8-1）内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

## 第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

## 第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長代理（管理担当）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長代理（管理担当）の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

#### 第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

#### 第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

#### 第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

##### (1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

##### イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

#### 第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

#### 第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

#### 第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度、27年度、28年度

産 業 界 会 員 名 簿

50 音順

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
1	(株)秋月電子通商	世田谷区	—	電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販売。世界各国の最新機器の日本への紹介。
2	浅地事務所	港区	—	経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他
3	(有)飯吉製作所	葛飾区	—	金属プレス加工業を昭和24年創業、昭和37年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャストを開発、製造販売を始め、現在に至る。
4	(株)エイコー	葛飾区	(○) 高校卒	昭和35年にビルメンテナンス業を創業。 平成13年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
5	エス・イー・シーエレベーター(株)	台東区	(○) 高校卒 (○) 専門学校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	エレベーター・エスカレータの保守点検、新設・リニューアル工事・LED・サイネージ・太陽光事業等を行っております。
6	エンゼルフーズ(株)	北区	(○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	1965年創業、「永遠に未完成の給食づくり」を起業理念として、未来を担う子供たちの健康と幸せのためのサポートをさせて頂いております。幼稚園給食のリーディングカンパニーとして日本一の生産食数を誇っており、東京、神奈川、埼玉、千葉の一都三県において、一日5万食を提供しております。
7	(株)カナック企画	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカーAV (Audio Visual) 機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディングメーカーです。ISO9001・14001・22301を取得して品質を重視し、環境に配慮した商品の開発を行っております。
8	亀有信用金庫	葛飾区	(○) 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に23店舗を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。
9	(株)川邑研究所	目黒区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売
10	(株)キクチ	品川区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。設備管理サービス。電気計装工事。内装・補修工事。省エネソリューションビジネス。
11	(株)キトウ	千代田区	(○) 四大卒	中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。
12	恵雅堂出版(株)	新宿区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	卒業アルバム及び一般書籍の出版。
13	(株)小葉印刷所	中央区	—	創業85年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。
14	(株)興銀不動産開発	葛飾区	(○) 四大卒	平成2年創業以来26年、地元を根を下ろし不動産に精通したスタッフが信用第一をモットーに営業活動しております。尚若い力を注入して活気ある会社運営を目指します。
15	国光施設工業(株)	大田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	創立100周年を目指し、顧客の施設（電気・計装・空調・通信・太陽光発電）を計画段階から建設、メンテ及び施設の取壊しまで長期に渡り担当するエンジニアリング集団です。
16	三和電気計器(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	1941年創業、従業員70名の現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。
17	実教出版(株)	千代田区	(○) 四大卒	高等学校用教科書・教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。
18	(株)昭和理化	豊島区	(○) 高校卒	消防用設備（自動火災報知設備、消火設備、避難設備）、弱電設備（インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯）の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。
19	城北礦油(株)	北区	—	免震構造の13階建の賃貸住宅を経営（部屋数56室） 1階はコンビニエンスストア

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
20	(株)鈴木塗装工務店	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	全国主要都市に支店・営業所を有し、ビル・マンション・工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO9001:2008 認証取得により品質管理を徹底しております。
21	(株)スマイル	練馬区	—	消防設備点検・建築設備点検・特定建築物調査等お住まいの方々に笑顔になって頂けるよう、建物の維持管理業務にご協力させて頂きたいと思っております。御見積もり作成から点検まで最短でご準備させて頂きますのでよろしくお願い致します。
22	青和信用組合	葛飾区	(○) 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される皆様と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しております。
23	千住金属工業(株)	足立区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	スマートフォンを始めエレクトロニクス製品には欠かせない「はんだ」で世界のトップメーカーです。半導体世界最大手のインテルコーポレーションより2015年度も最優秀納入業者として表彰されました(世界で8社)。海外拠点も28箇所あります。
24	第一科学(株)	文京区	(○) 高校卒	高校、大学、官公庁(都内)への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売
25	(株)第一成和事務所	中央区	(○) 四大卒	1957年創業以来保険代理店として、お客様に適切な保険の提供を通して「安心と安全」な生活と経営の実現に貢献することを目指しています。皆様に安心してキャリア形成いただけるよう「インターンシップ・ボランティア等体験活動保険」を提供させていただいております。
26	太平観光(株)	練馬区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	昭和38年創業。学校関係主体の旅行業者。資本金5,000万円、従業員28名(役員4、正社員17、パート6)。年商11億。学校関係70%、海外旅行10%、国内募集旅行10%、個人一般旅行10%。
27	(株)竹尾	千代田区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	1899年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙(ファインペーパー)の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約320銘柄、8,500種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。
28	(株)チバダイス	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。
29	(株)ツバサ・翼学院グループ	葛飾区	(○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	学習障がい、不登校、非行歴のある子など約400名の塾生が在籍(青砥駅前校、高砂校、水元校、東水元)、当塾から都立高、私立中高、大学へと巣立っていきます。児童発達支援・放課後等デイサービスつばさクラブを併設して生活訓練や、社会との関わりに関する訓練も行っています。また全国初のNHK学園高等学校の連携教育相談センターとして高校卒業のサポートを行っています。「学校でさじをなげた子を何とかしてくれる機関」として文部科学省や各地域の教育委員会からの視察、著書やメディアからの取材も多数あります。「第7回「日本でいちばん大切にしたい会社」実行委員会特別賞。平成28年東京都経営革新特別賞受」
30	鉄道機器(株)	中央区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に北陸新幹線、北海道新幹線用の高速分岐器を納入致しました。
31	東京ガス(株)	港区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	東京ガスグループは、1885年の創立以来、130年余にわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客さまの豊かな暮らしや社会の発展を支えてまいりました。今後も「豊かで潤いのある暮らし、活力に溢れ競争力のある産業、環境に優しい安心できる社会」の実現に貢献してまいります。
32	東京商工会議所	千代田区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	東京商工会議所は東京23区内の会員(商工業者)で構成される民間の総合経済団体です。1878年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、経営支援活動、政策活動、地域振興活動の3つを柱として活動しています。
33	東京書籍(株)	北区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	1909(明治42)年の創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小・中・高校教科書発行部数は業界首位。学習教材・指導用教材・学習参考書も発行。デジタル教科書などのデジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・辞典等の出版に加え、日本語検定関連業務も行っている。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
34	東京スマイル農業協同組合	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	東京スマイル農業協同組合 (JA 東京スマイル) は平成 13 年、江東三区にある足立農業協同組合、葛飾農業協同組合、江戸川区農業協同組合の 3 農協が合併し誕生しました。当組合は「地域社会への貢献」と「健全経営」を目指し、お客様のニーズに応えるべく、経営体制の構築を図っており、地域の農業を活性化させることを使命に、営農指導をはじめ、信用(金融)事業、共済(保険)事業、購買事業、販売事業(直売所)、宅地等供給事業、遺言信託事業、利用(葬儀)事業など、さまざまな事業を展開しています。
35	公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会	渋谷区	—	東京都内の専修学校各種学校を代表する唯一の団体です。会員校の連携、協力のもと専修・各種学校教育の改善発展に貢献し、職業教育の振興普及を図ることを目的としています。1961 年に設立され 2012 年に公益法人認定を受けました。会員校数は 339 校 (2017 年 1 月現在)
36	(株)東京都民銀行	港区	(○) 四大卒	昭和 26 年の創立以来、金融サービスを通じ、地元東京と中小企業の発展、個人の豊かなライフステージの実現のために、東京の頑張る人を応援している地方銀行です。平成 26 年 10 月に八千代銀行と経営統合し、持株会社「東京 TY フィナンシャルグループ」を設立。平成 28 年 4 月には新銀行東京が同グループに加わりました。また、首都圏においてお客さまから真に愛される地域 1 の地方銀行グループとなるために、平成 30 年 5 月に持株会社傘下の 3 行を「きらぼし銀行」とし合併を行う予定です。「思いを預かる。思いをつなぐ。」をスローガンに、皆さまの思いをお預かりし、たくさんの思いを大切に育み、お客さまの一番そばにいて頼られる金融機関を目指してまいります。
37	(有)東京プリンテック	世田谷区	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
38	(株)日刊工業新聞社	中央区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	「モノづくり立国」「技術立国」「中小企業振興」を理念とするわが国唯一の産業総合紙。創刊は 1915 年(大正 4)。72 年にベストセラーとなる田中角栄著「日本列島改造論」を出版した。2015 年に創刊 100 周年を向え、現在は新・産業革命をもたらす IoT (モノのインターネット) や AI (人工知能)、ロボット、ビッグデータの取材に力を入れる。国際ロボット展をはじめとするイベント事業も大きく展開する。
39	(株)日本化薬東京	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして (3つの CSQE)、即ち「コストダウン」「コンプライアンス」「コミュニティ」「セーフティ」「クオリティ」「エコロジー」を掲げ、高機能都市型工場を目指しております。
40	日本広告(株)	豊島区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	昭和 20 年創業。以来、電柱広告、交通広告をはじめとする屋外広告物の販売代理店として、永年にわたり地域の病院、質店、各種企業、商店等、幅広い業種の皆様の宣伝、誘導案内のお手伝いをしてきた会社です。
41	日本自動ドア(株)	中野区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
42	信川化学工業(株)	葛飾区	—	超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、JA 機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機 2,700t、2,200t、1,600t × 2、1,200t、850t × 4、650t × 2 他計 21 台。クレーン 20t、10t 他。
43	(株)箸勝本店	千代田区	—	明治 43 年創業の割箸専門店です。国内、海外へ業務用から家庭用、粗品用を含め 300 種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和 25 年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。
44	(株)ハチオウ	墨田区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	産業廃棄物処理業として多品種の廃液や化学薬品の特殊な廃棄物の処理を行っています。これらの廃棄物処理は化学的知識や専門性を必要とします。都内では処理業者の数が少なく、各種研究機関や大学、民間企業の工場より評価・受注を頂いております。
45	日野自動車(株)	日野市	(○) 中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地域の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。
46	ベストワールド(株)	千代田区	(○) 四大卒	海外視察・研修旅行をお世話して 50 年。各教職員派遣をはじめ、業界別視察旅行、中高生対象の英語研修・ホームステイ、企業の社員旅行等を多数主催しております。また、オーダーメイド旅行も承ります。
47	山崎教育システム(株)	東村山市	(○) 専修卒 (○) 四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売(全国代理店 500 社)。
48	ヤマ産業(株)	文京区	—	教育備品を販売して 50 年。学校よりの信用を得て、安定している。

49	読売新聞東京本社	中央区	(○)四大卒 (○)大学院卒	「読売新聞」は1874年(明治7年)11月の創刊。全国紙として成長し、1994年に発行1000万部を達成した。発行部数は世界一。2011年に「読売 KODOMO 新聞」、2014年に「読売中高生新聞」を創刊した。
----	----------	-----	----------------	--

## 学校会員名簿

50音順

学校名	所在地	課程	平成29年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
-----	-----	----	----------------------	----------

## 私立高校

1	愛国高等学校	江戸川区	全 普通科(240) 商業科(120) 家政科(80) 衛生看護科(40) 衛生看護専攻科(40)	昭和13年創立以来、「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。普通科はA(一般教養)・B(進学)の2コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の2コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科(上級2年課程)は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学(人間文化学部)・短期大学(家政科栄養教諭免許・栄養士資格)・保育専門学校(幼児教育科幼稚園教諭免許・保育士資格)がある。
2	安部学院高等学校	北区	全 商業科(200)	1940年(昭和15年)に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩み続け、昨年、満76年を迎えました。在校生には、「5つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2年次よりコース制になり、簿記1級の取得を目指す「会計コース」と、パソコン等の実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の2コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、就職希望者よりも進学希望者が多く占めています。
3	岩倉高等学校	台東区	全 普通科(300) 運輸科(150)	我が国最初の鉄道学校として明治30年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。また、近年、就職のみならず大学進学希望者が増加していることに伴い、普通科にS特コースを設置するなど、進学教育にも注力している。平成26年度の入学から「男女共学化」、「普通科・運輸科の2科システム」を実施し、学校の変革を進めている。平成21年4月に完成した新校舎など充実した環境の中で、特色ある教育内容や新コースの設置等、生徒の夢を具現化するカリキュラムで学力の向上に取り組んでいる。
4	大森学園高等学校	大田区	全 普通科(240) 特進コース(40) 進学コース(80) 普通科(120) 工業科(120) 機械技術コース 電気技術コース 情報技術コース	【創立】昭和14年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】創立70周年(平成21)にむけて「学校改革」始まる。平成16年、新校舎建築に着手。平成17年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第1期生をむかえる。平成19年校舎建築完了、普通科を共学化。平成21年4月、創立70周年記念式典を挙行政した。
5	科学技術学園高等学校	世田谷区	定 普通科(160)  通 普通科(2,750) 電気科(900) 機械科(600)	昭和39年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和50年普通科設置、昭和52年現行名に変更する。昭和53年昼間定時制課程を設置し、単位制総合高等学校として様々な生徒のニーズに対応できる教育環境を整えている。通信制課程では集団(企業・専修学校等)を対象とした技能連携コース(全国に28校)と個人を対象とした単位制コースを持ち、単位制コースには「通学コース」、週に1~4日通う「登校コース」、インターネットで学習する「eラーニングコース」と生徒個々の学習環境に合わせたコースを設置している。昼間定時制課程(男子のみ募集)は、生徒が積極的に学習に取り組むよう、ICT機器を導入した参加型授業を実践している。また2~3年次には総合選択コース制、修学旅行をはじめとした学校行事にも大幅に選択制を取り入れ、生徒の多様化に対応している。
6	蒲田女子高等学校	大田区	全 普通科: 幼児教育・保育コース(80) キャリアデザインコース(170)	【創立】漢学者・教育者である学祖簡野道明の「子どもの教育にとって最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である」・「人間生活を律する根本の筋金は道徳なり」との教育理念に基づき、昭和16年に蒲田高等女学校として創立。 【2コース制】併設の蒲田保育専門学校・幼稚園・保育園がバックアップする実践的な教育環境の『幼児教育・保育コース』と、体験学習を通じて、将来を見据えた進路設計の力を磨く『キャリアデザインコース』の2コース制を展開し、日本文化を尊重しながら、時代の変化に主体的に取り組み、社会に貢献する女性の育成に努めている。
7	京華商業高等学校	文京区	全 商業科(150)	生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたきめこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、キャリア教育にも力を入れている。
8	昭和第一学園高等学校	立川市	全 普通科(336) 工学科(240) 総合工学コース 機械コース 電子情報コース 建築デザインコース	普通科:特進コース、総合進学コース(2年次より文・理選抜)。 工学科:1年次共通の科目を学ぶ。2年次から4つのコースに分かれる。 総合工学コース、(進学向けのコース)、機械コース、電子情報コース、建築デザインコースで専門科目を学ぶ。
9	昭和鉄道高等学校	豊島区	全 鉄道科(215)	校名に「鉄道」を冠した、日本で唯一の高校である。昭和3年(1928年)創立、以来一貫して、鉄道・交通を中心とする産業教育をすすめて、現在まで19,000名以上の卒業生を鉄道界を中心に送り出している。社会情勢に鑑み、平成16年(2004年)に男女共学とした。鉄道科のみを設置している。
10	大成高等学校	三鷹市	全 普通科: 特別進学コース(75) 文理進学コース(290) 情報進学コース(40)	校名の由来である「大器晩成」を教育理念とし、生徒の能力が大きく開花するように、学力や人間力を身につけさせます。特進コースはもちろん文理コースでの進学実績も向上しています。また、情報コースでは全員が情報処理検定1級に合格することをめざして専門技術と理論の習得に力を入れています。
11	中央学院大学 中央高等学校	江東区	全 普通科(35) 商業科(65)	創立以来110年を超える歴史と伝統の中で、建学の精神の下「倫理観」を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施しています。生徒一人ひとりの興味・関心・能力を見極め、秘めた可能性を引き出すことに力を注いだ教育活動に励んでいます。さらに、平成29年度からICT(タブレット)を活用した先進的な教育環境を整えます。進学も中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。

	学校名	所在地	課程	平成 29 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
12	東京学園 高等学校	目黒区	全	募集停止	男子に特化した多様な教育によって、生徒一人ひとりの強みを引き出し、自信を持って生きていける知力・気力・体力と他者を尊重する心を養い、優れた学力と逞しい人間力を育成します。また、平成 18 年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内に目黒区の災害用防災倉庫を設置し、地域の方々にも貢献する事が出来る態勢を整えています。
13	東京実業 高等学校	大田区	全	機械科 (135) 電気科： 電機コース (45) ゲーム IT コース (45) 普通科： ビジネスコース (180) 文理コース (90)	全科男女共学。週 5 日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3 年間で各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定に役立てます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との間に交換留学制度があります。 電気科ゲーム IT コースは平成 22 年度より、文理コースと共に土曜日は特別授業。
14	日本工業大学 駒場高等学校	目黒区	全	普通科： 特進コース (30) 理数特進コース (30) 総合進学コース (170) 工業科： 理数工学科 (120) 創造工学科 (80) 機械コース・建築 コース・電子情報 システムコース	生徒一人ひとりの希望進路の実現を目指す普通科 (3 コース・共学) と多様な進路選択ができる工学科 (理数工学科・共学) と (創造工学科・男子) 3 コースをもつ創立 110 年の学園です。平成 29 年度募集より学科の再編成を致しました。普通科 3 コースは変わりありませんが、工学科は創造工学科を新設し機械・建築・電子情報システムの 3 コースを括り募集します。入学後一年間普通教科のほかに工学の学科を総合的に学習して 2 年生進級段階でコースを選ぶことができます。
15	NHK 学園 高等学校	国立市	通	普通科 (3480)	昭和 38 年 (1963 年) にわが国で初めての広域通信制高等学校として開校しました。学習に放送 (NHK 高校講座) を全面的に取り入れ、どこでも学べる学校として多様な生徒への学びを提供しています。不登校傾向の生徒に向けた登校回数の少ないコースから、週 3 日登校のコースまで生徒の個に応じた学び方を用意しています。
16	八王子実践 高等学校	八王子市	全	普通科： 特進コース (40) 文理コース (160) 普通コース (280)	建学の精神は「自重・自愛・自制・自立」、そして伝統的教育理念である「実践」を根幹として「知育・徳育・体育」の調和のとれた全人教育を目標に 90 年の歴史を歩んでいます。普通科は特進コース、文理コース、普通コースの 3 コースを設け、進学や就職など、多様な進路選択ができるよう学習指導を行っています。調理科は募集を停止しております。
17	村田女子 高等学校	文京区	全	普通科 (80) 商業科 (82)	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。 村田は二科五コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。 その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。
18	日野工業 高等学園	日野市	通	(60)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダの育成を目指す企業内高校です。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。

都立高校

▽農業に関する学科

1	都立園芸 高等学校	世田谷区	全	園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35)	1908 年 (明治 41 年) に創立し 110 周年を迎える。全国農業系高校の中心校である。100 年前に日本からの桜寄贈のお礼に米国から頂いた「百年ハナミズキ」が我が国で唯一現存しており、27 年 4 月にはケネディ米国大使、農林水産副大臣、都教育長が来校され記念式典を行った。さらに、三代将軍徳川家光公遺愛の松の盆栽など歴史的財産が校内随所にある。 園芸科、食品科、動物科があり生徒の多様な進路に込んでいる。 定時制園芸科では大人を対象とした園芸技術専修生制度もあり、夜間 2 年間の専門学習で卒業ができる。
			定	園芸科 (30)	
2	都立農業 高等学校	府中市	全	都市園芸科 (35) 緑地計学科 (35) 食品科学科 (35) 服飾科 (35) 食物科 (35)	1909 年 (明治 42 年) に創立された多摩地区で長い伝統と歴史をもつ専門高校です。108 年にわたり常に社会の変化に対応した先進的な取組を行い、農業及び家庭に関する専門教育とそれを支える普通教育を両輪として 21 世紀を担う人材を育成しています。全日制では、「自分の未来は自分でつくる」をテーマに、①手の仕事の面白さ、②本物体験で心を豊かに、③普通教科の学習は一生の基礎、④チームワークで協調性、⑤発表力や表現力を磨く、⑥プロ講師の授業という 6 つの学びの特色を生かして、本校でしか学べない学習内容を生徒が熱心に取り組んでいます。 定時制では、教育目標「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」を達成するため、普通科及び農業科としての特色ある教育活動を展開し、きめ細かい指導を通じて生徒一人一人の進路希望の実現を目指しています。
			定	食品化学科 (30)	
3	都立農芸 高等学校	杉並区	全	園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35)	創立 1900 年 (明治 33 年) の歴史と伝統のある専門高校である。全日制に園芸科学科、食品科学科、緑地環境科の 3 学科 4 学級、定時制に農芸科 1 学科を設置している。都心にありながらも緑に囲まれた校舎、実習棟や農場などあわせて 73,304m <sup>2</sup> という広い敷地を持ち最新の施設や設備が導入されている。JR「阿佐ヶ谷」駅前の花壇作り、小学生を本校に招いての豆腐作り教室等、地域貢献活動を推進し、学校の教育機能を積極的に地域社会に提供している。また、環境教育実践宣言校として、自然環境都市環境の創造に加え、日々、ゴミ減量・節電に取り組み、環境にやさしい農業高校を目指している。なお、都立高校唯一の馬術部を設置し馬場馬術競技の練習に励んでいる。
			定	農芸科 (30)	

	学校名	所在地	課程	平成29年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
4	都立農産 高等学校	葛飾区	全	園芸デザイン科 (70) 食品科 (70)	東京都東部にある唯一の農業高校で、「食と緑と農を創造する学校」として地域に根ざした教育活動が行われている。 全日制では、2学科4類型を設置している。園芸デザイン科では、草花や野菜の栽培、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、造園など、食品科では食品の原材料の栽培から加工・流通、食品化学実験、食品デザインまで幅広く関連分野を体験・体感しながら学んでいる。 定時制は、農産科として園芸系と食品系の両方を学ぶことができる農業高校として、生徒は落ち着いた環境の中で生き生きと学習や部活動に取り組んでいる。 全日制・定時制ともに、キャリア教育の充実や農業の6次産業化を踏まえた実践的な経営学習、学校農業クラブ活動の充実、FFJ検定の実施、アグリマイスター顕彰制度への取り組みなどをとおして自己の可能性を伸長させるとともに、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開している。
			定	農産科 (30)	
5	都立瑞穂農芸 高等学校	西多摩郡 瑞穂町	全	畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70)	「生命(いのち)に学ぶ学校」として設置する全日制4学科、定時制1学科のすべてで「生命」に係りながら学習している。「生命(いのち)に学び夢を叶える～Learn about life and realize your dreams～」をキャッチフレーズとし全日制では「わかる」「できる」「つかう」、定時制では「知る」「わかる」「できる」「つかう」のステップで学習をすすめている。 都内唯一の畜産科学科では、大動物の飼育・管理が学習できる。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。日本獣医生命科学大学と連携協定を結び大学の施設を使用しての学習が体験できる。 さらに、キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育て、進学から就職まで幅広い進路希望に対応している。定時制は規模が小さいが、きめ細かな指導が行われ、園芸、食品、畜産の幅広い分野について学習でき、大変落ち着いた学習環境である。
			定	併合科(普通・農業) (30)	

▽工業に関する学科

6	都立足立工業 高等学校	足立区	全	総合技術科 (175)	機械・電気系の総合技術科。1年は機械、電気の基礎を共通履修、2年から機械系か電気系を選択、選択科目で得意分野を伸ばす。第二種電気工事士を中心に資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、2学年全員のインターンシップ実施や小中学校や地域連携を積極的に推進している。施設・設備拠点校に指定され、施設・設備が充実している。
7	都立荒川工業 高等学校	荒川区	全	電気科 (70) 電子科 (35) 情報技術科 (70)	本校は、都立の高等学校の中で、唯一電気系の学科のみで構成される工業高等学校で、ものづくりと資格取得を特色としている。将来の電気系の技術者・技能者として、特に産業社会を支える人材の育成を目指し、ものづくりに関する技術・技能、社会人としての常識やマナーを確実に身に付ける取組を行っている。資格取得では、電気工事士をはじめとして、工事担当者、特殊無線技士等の国家資格取得を目指し、早朝や放課後に補習や講習が行われている。キャリア教育では、様々な取り組み、個別指導の充実を図り、就職希望者の内定率は、例年ほぼ100%である。部活動は活発で、平成28年度体力気力鍛錬道場指定校でもある。例えば柔道部(定時制課程)では、全日制課程と定時制課程で合同練習を行い、平成28年度全国大会の団体及び個人の部で、3位の成績を取っている。
			定	電気・電子科 (30)	
8	都立葛西工業 高等学校	江戸川区	全	機械科 (70) 電子科 (35) 建築科 (70)	都教委指定のデュアルシステム導入校(平成23年度入学生～) 施設が充実しており、設備拠点校実習を行なっている。 地域産業界、小中学校と連携し、ものづくりを担う人材を育成。 地域と協働し、実践力ある生徒を育てる。
9	都立北豊島工業 高等学校	板橋区	全	総合技術科 (175)	全日制課程大正9年に創立され、現在96年の歴史を刻みつつ、社会に有用な人材育成を図り、約2万名の卒業生を社会に送り出している。機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を広く学び、社会に貢献できる人材育成に取り組み、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者などの社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り、就職決定100%を保持している。東京都教育委員会より、デュアルシステム推進校として指定を受け、企業と高校が連携した新しい職業教育システムであるデュアルシステムを取り入れた教育課程を編成して、日本のものづくりの後継者の育成を目指している。また、工業実習の設備拠点校としての指定を受け、施設設備が整え、近隣の工業高校と連携し、ものづくりの技術・技能の習得と継承に力を入れている。 定時制課程機械科の単科の定時制課程である。各学年一学級30人定員で、ものづくりの加工技術・技能を習得し、確かな進路実現を目指し、人材育成に取り組んでいる。就職希望者の内定率100%を維持している。部活動を通じて心身ともに成長を促し、資格取得指導の充実により、より確かな進路実現への力を培っている。
			定	機械科 (30)	
10	都立蔵前工業 高等学校	台東区	全	機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35)	創立90年を超える伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。 ○全日制 東京都教育委員会より、ものづくり人材育成教育プログラムに関する「特定分野推進校」指定を受け、都立工業高校を牽引する役割を担い、スペシャリストの育成を目指したものづくり人材育成教育を実践している。さらに、「部活動推進指定校」として、部活動の活性化を図っている。進路指導では、就職希望者は、高度な技術・技能と資格取得により企業で即戦力となる人材、進学希望者は、理工系大学へ進学する学力を確実に身に付ける指導を実践している。 ○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。学修方法によっては、3年間で卒業も可能。学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
11	都立工芸 高等学校	文京区	全	マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科 (35)	本校は、100年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only One のものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。 また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学の割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。
			定	マシクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科 (30)	

学校会員名簿

	学校名	所在地	課程	平成 29 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
12	都立小金井工業 高等学校	小金井市	定	機械科 (30) 電気科・電子科 (30)	平成 22 年 3 月に全日制課程が閉課程となり、平成 22 年度から定時制単独校になる。施設・設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。校舎の改築・改修工事が進み、新校舎が平成 23 年 8 月に完成した。平成 23 年 9 月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは改修した新しい実験・実習棟で行っている。
13	都立杉並工業 高等学校	杉並区	全	機械科 (70) 電子科 (70) 理工環境科 (35)	本校は、昭和 38 年に開校し、教育目標として(1)勤労と責任を重んじる誠実な人をつくる、(2)個性を伸ばし、自主的にして協調性のある人をつくる、(3)豊かな教養を備えた地球環境に配慮できる技術者をつくる、ことを掲げています。東京都 No.1 の資格取得を目指して朝講習などや期末考査後に様々な講習会を行い、生徒を全面的に応援しています。また、部活動を通じて、顧問や友人同士の絆を深める取組みや近隣の小中学校生に対してものづくり体験の機会を提供するなど、地域との連携を通じて多くのことを学ばせています。
14	都立墨田工業 高等学校	江東区	全	機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35)	全日制は、4 学科をもつ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率 100% を維持している。創立 117 年を迎える歴史と伝統があり、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。 定時制においても全日制と同じく進路希望達成率 100% を実現しており、生徒一人一人に応じた実践的教育に取り組んでいる。
			定	総合技術科 (30)	
15	都立総合工科 高等学校	世田谷区	全	機械・自動車科 (70) 電気・情報デザイン科 (70) 建築・都市工学科 (70)	平成 18 年 4 月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校した。全日制では、理工系大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、約 40 科目の自由選択科目を設定することで、さまざまな進路希望に対応している。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図っている。 定時制では、資格取得を中心に、2 年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの 3 コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3 年間で卒業が可能な三修制を実施している。
			定	総合技術科 (30)	
16	都立田無工業 高等学校	西東京市	全	機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35)	本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は、全国でも数少ない学科であり、建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの学科も地域に根差した技術者の育成を目標としている。また、デュアルシステムを導入し、3 年間を通してキャリア教育を推進している。
17	都立多摩工業 高等学校	福生市	全	機械科 (70) 電気科 (70) 環境化学科 (35)	・昭和 38 年、西多摩地域に唯一の工業高校として開校、平成 24 年度に 50 周年を迎えた。平成 13 年度、時代とともに進展する生徒の多様化、産業社会のニーズ等に対応するため、工業化学科を都立高校で唯一の環境化学科に学科改編した。 ・さらに、地域産業を担う人材の育成、生徒個々の進路希望に応えるために、学科ごとに類型コース制を導入し、合わせて教育課程の改編を行った。 ・全校をあげての環境教育、環境活動が環境省の提唱する「エコアクション 21 環境経営システム・環境活動ガイドライン」の要求事項に適合するという事で平成 19 年 3 月「エコアクション 21」に認証・登録された。
18	都立中野工業 高等学校	中野区	全	総合技術科 (175)	本校では、総合技術科の特色を生かして、一人一人の自己実現を応援する教育を行う、都内で唯一食品工業が学べる工業高校です。平成 30 年度より工業高校として 2 校目のエンカレッジスクール（キャリア技術科）としてスタートします。学び直しからはじめ職業・勤労観の育成を図るため多様な体験学習を展開します。定時制課程では、1 学年後半から、機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深めています。
			定	総合技術科 (30)	
19	都立練馬工業 高等学校	練馬区	全	キャリア技術科 (175)	平成 18 年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3 年生では 6 系列（機械加工技術、オートメカニク技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP 技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。
20	都立府中工業 高等学校	府中市	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	・「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け旋盤技能士、電気工事士などの各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。 ・インターハイおよび国体出場をはたした陸上競技部をはじめ、硬式野球部、バスケットボール部、軽音楽部など活発に活動し、実績を上げている。
21	都立本所工業 高等学校	葛飾区	定	総合技術科 (30)	・総合技術科として、一学年では工業の基礎的・基本的な技術を学び、二学年からは、機械・電気・電子の各類型に分かれて、専門知識や技術を学習する。 ・生徒主体の学校行事を通して、「やる気・根気・本気」を引き出し、日々の授業では、少人数指導の特色を生かし、きめ細かい・わかりやすい指導を実践している。 ・「面倒見の良い学校」として、基礎学力向上や技能・資格取得の指導を充実させることにより、生徒一人ひとりの進路実現を図っている。
22	都立町田工業 高等学校	町田市	全	総合情報科 (175)	本校は、充実した施設・設備、きめ細かな指導体制など優れた学習環境を備えた都立で唯一の「総合情報科」の工業高校です。「情報デザイン」、「アプリケーション」、「情報システム」、「電気システム」、「機械システム」の 5 つの系列があり、1 学年では全員が同じ内容（5 系列すべてに関する工業の基礎科目）を学習し、それぞれの興味・関心、進路希望に基づき 1 つの系列を選択します。2・3 学年では系列別のクラスに分かれて専門性を深めるとともに多彩な選択科目で自分に適した学習を進め、「進路実現」、「力をつけて卒業」を目指しています

学校名	所在地	課程	平成29年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
-----	-----	----	----------------------	----------

▽工業に関する学科（単位制）

23	都立六郷工科 高等学校	大田区	全	プロダクト工学科 (70) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (35)	平成16年4月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。全日制課程には、機械系のプロダクト工学科、自動車3級整備士資格取得可能なオートモビル工学科、電気電子情報系のシステム工学科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン工学科の4科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も1学年と2学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大20単位卒業の単位として認めている。定時制には、単位制と3修制を取り入れた生産工学科と普通科の2科がある。
			定	普通科 1学年 (30) 生産工学科 1学年 (30)	

▽科学技術科

24	都立科学技術 高等学校	江東区	全	科学技術科 (210)	平成13年に都立高校で初めて「科学技術科」を設置した新しいタイプの進学型専門高校です。開校以来、科学技術教育を通じて、創造性、問題解決能力、コミュニケーション能力を養い、将来の科学技術者・研究者として工学系、理学系、農学系、薬学系、医療系などの分野で活躍できる人材の育成を目指しています。材料・流体・力学系、電子・情報系、化学・バイオ系などの科学技術の基礎的な知識や基本的な技能に関する幅広い学習と、理系大学進学に必要な数学、英語、理科などの普通教科の学習、自ら深く考え他者と対話しながらまとめ外部に発表する力を身に付ける特色ある教育活動に力を入れています。
25	都立多摩科学 技術高等学校	小金井市	全	科学技術科 (210)	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高める。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。

▽商業に関する学科

26	都立赤羽商業 高等学校	北区	全	商業科 (210)	《チャレンジ赤商2016》を合言葉に、商業の専門学校としての伝統を引き継ぎつつ、新たなことにチャレンジしています。今年度は、『体力気力鍛錬道場』『コーディネーショントレーニング地域拠点校』『NIE教育実践校』の3つの指定をいただきました。スポーツ科学センターや赤羽自然観察公園など「西が丘」の恵まれた環境、近隣自治会や商店街、地元消防署との連携など、地域に育てられ、地域とともに歩む学校です。社会で自立できる生徒の育成を目標に、就職や進学などの多様な進路実現を支援しています。
27	都立足立 高等学校	足立区	定	普通科 (90) 商業科 (30)	学級数15、在籍生徒数約300名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は4学級ある。英語科で習熟度別授業を実施するとともに、芸術科では2名の専任教諭により豊かな情操を育てている。定時制のコンピュータ教室は26年度最新機種に更新された。学校規模を生かし文化祭やスポーツ大会など数多くの学校行事が行われる一方、部活動もさかんである。
28	都立荒川商業 高等学校	足立区	全	総合ビジネス科 (210)	平成18年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定(3年間)され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会のPRフラッグのデザインを考案(年4回更新)したり、生徒のデザインによるラッピング都電(外装塗装)を、平成18年より22年3月まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。平成21年度創立50周年を迎えた。
			定	商業科 (30)	
29	都立五日市 高等学校	あきる野 市	全	普通科： 「ことばと情報」の コース (80) 商業科 (70)	本校は四季折々に変化する五日市の山なみに囲まれた静かな五日市に位置しています。普通科は平成17年度より「ことばと情報コース」に改編しました。このコースではコミュニケーション能力の修得を柱とし3年間で「ことばの力」を身につけます。商業科では2年次に「簿記コース」と「情報コース」に分れ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。平成29年度は「都立高校生の社会的自立を目指す進路支援事業」と「学力向上研究校」「規範意識向上推進校」の指定を受け、中途退学の未然防止や基礎学力の定着、生活指導の一層の充実を図っています。入学者選抜では、女子バスケットボール部に普通科及び商業科でそれぞれ1名の文化・スポーツ特別推薦を実施しています。定時制は面倒見が良い指導で定評があります。全日制・定時制ともに進路実現100%を目指しています。
			定	併合科(普通・商業) (30)	
30	都立葛飾商業 高等学校	葛飾区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	全日制は、平成23年4月に創立50周年を迎え地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、資格取得の向上や地域産業界との連携を図り、生徒ひとりひとりの進路実現に取組んでいる。健全育成に努め、社会に貢献できる人材育成を目指している。22・23・24年度部活動推進、23・24・25年度言語能力向上推進の各指定、25年度規範意識向上先行実施校、26・27年度規範意識向上推進モデル校の指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門の部活動が盛んで、生徒の活躍が学校全体の活力になっている。
			定	普通科 (30) 商業科 (30)	
31	都立江東商業 高等学校	江東区	全	総合ビジネス科 (175)	ビジネス三言語 (IT、会計、英語) に重点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。
32	都立芝商業 高等学校	港区	全	商業科 (210)	実社会で活躍する目的を持って学ぶ東京都における商業高校の拠点校です。目標を明確に持つ学びのため、実社会を知る全員インターンシップやオリンピックを控えた竹芝地区まちづくりへの参画ほか地域社会との連携に取り組み、商業で学んだ知識・技能を実践的に学ぶ高校生開発商品アンテナショップ経営も推進している。各自の目標達成に必要な資格取得や就職・進学・マナー指導に定評ある教育を展開している活気ある高校です。ビジネスと観光の拠点、JR浜松町駅、東京メトロ大門駅から徒歩5分という、ビジネス学習には最適な環境にある都心の伝統校です。

	学校名	所在地	課程	平成 29 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
33	都立第一商業 高等学校	渋谷区	全	商業科 (210)	東京都の商業高校のリーダーとして、生徒に愛され、地域に愛され、都民の皆様に信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動をすすめている。 高度な資格取得、大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導を充実させており、大学進学では指定校や公募推薦等で現役合格している。 ソフトボール部や女子バレー部及び簿記部・軽音楽部など部活動も盛んであり、地域連携では、学校開放事業、地域の行事への参加、公開講座や出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。
34	都立第三商業 高等学校	江東区	全	商業科 (210)	全日制課程、定時制課程ともに、多くの卒業生がわが国の実業界や経済界の中核で活躍しています。まさに校歌に謳われるように「日本の富を担う」学校です。「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN 商』というコンセプトに基づき、生徒の思いや願いを実現するため、次の Mission Statement (ミッション・ステートメント：使命宣言) を約束します。①充実した商業科目の学習により、将来に役立つ資格取得を応援します。②習熟度別による丁寧な指導により、国語・数学・英語の基礎学力を向上させます。③卒業後の進路実現 100%を目指します。④地域と連携し、地域から愛される学校を目指します。
			定	商業科 (30)	
35	都立第四商業 高等学校	練馬区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	一マナーの四商、資格の四商、社会人基礎力を養成する学校— 昭和 15 年の開設から今日に至るまで、70 年を越える伝統と歴史の中で一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。 商店会等と連携した Web ページ・ポスター作成等の体験的授業の実施や IT パスポート試験合格など着実に力をつけています。 部活動も盛んで、アーチェリー部は関東大会出場、他にも硬式野球部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、吹奏楽部なども学校として力を入れています。
36	都立第五商業 高等学校	国立市	全	商業科 (210)	全日制課程は、「資格の五商」「部活の五商」といわれる伝統校です。特に「IT パスポート試験」や「日商簿記検定」など、高度資格取得に実績があります。都立高校屈指の就職実績と独自の大学進学指導計画「白き翼」により大学進学指導にも力を入れています。定時制課程は、「基礎・基本の学習を徹底」「楽しい行事」「部活動がさかん」「夢が実現する進路」「充実した施設設備」を特色とする伝統校です。平成 28 年度から標準服を制定しました。パソコン部がワープロ全商全国大会に出場します。
			定	商業科 (30)	

▽ビジネスコミュニケーション科

37	都立千早 高等学校	豊島区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	・英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 ・「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ (1 年)、海外修学旅行 (2 年) と行事で実践。 ・新しいビジネス教育分野に NPO/NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。
38	都立大田桜台 高等学校	大田区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	「本当に英語を使える人」を育てるために 10,000 冊の英書を活用した「英語多読」の授業や「アメリカン・キャンプ (1 年生)」「キャリア・アップ修学旅行 (2 年生)」などの学校行事を通し国際理解を深めます。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「プレゼンテーション技術」「ファイナンス」「ビジネスモデル研究」など多様な学校設定科目により充実したビジネス教育を行います。

▽家庭に関する学科

39	都立忍岡 高等学校	台東区	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	平成 18 年度に、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。 学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。 単位制を活用した多様な選択科目を設置するとともに、習熟度別授業、少人数授業による基礎的・基本的な学力と向上に努めている。また、大学・専門学校と連携した専門性の高い授業も実施すると共に、茶道、華道、将棋などの「日本の伝統文化」を自由選択科目として第 7 限に設置している。
----	--------------	-----	---	-------------------------	---

▽福祉に関する学科

40	都立野津田 高等学校	町田市	全	福祉科 (35)	平成 8 年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成 18 年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。
----	---------------	-----	---	----------	--

▽国際関係に関する学科

41	都立大島海洋 国際高等学校	大島町	全	海洋国際科 (80)	「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21 世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、逞しさをもつ国際人を育成します。2 年生からは「国際系」と「海洋系」に分かれ、前者は国際的な視野を持ち 4 年制大学を目指し、後者は海洋系大学進学向けに海洋のスペシャリストを目指します。また、都立高校唯一の実習船大島丸による航海学習、海外語学研修を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、学習サイクルと「宅習 3 時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。
----	------------------	-----	---	------------	--

▽併合科

42	都立大島 高等学校	大島町	全	普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35)	併合科の農林と家政では、専門科目の基礎から応用まで発達段階に応じた実習を多く取り入れて実践力を身に付けます。農林では産学公連携を拡大して、野菜・畜産・草花・森林分野の地域産業振興を重視して学びます。島の特産であるツバキに関しては、世界水準の学校椿園 (平成 28 年 2 月 26 日に ICS 優秀つばき園認定) での研究も可能です。家政はスペシャリストの育成に向けて、技能オリンピックメダリストの招聘において、教科書にはない専門技術、知識を習得できるようにしています。その他、グローバル化や地域社会貢献に向けた体験的活動や奉仕活動もあり、恵まれた大島の自然環境においてジオパーク等の調査、地元産業の研究などの世界水準のプレ研究を可能にしています。
			定	普通科 (30)	

	学校名	所在地	課程	平成29年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
43	都立八丈 高等学校	八丈町	全	普通科 (120) 併合科 (園芸・家政) (35)	八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。 敷地面積は約 63,000 m <sup>2</sup> を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している (昨年度進路実績 96%)。部活動が大変盛んで、生徒の約 80% が所属している。 定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。島のほぼ中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、羽田空港から空路約 50 分、1日3便就航。大変至便な学校である。
			定	普通科 (30)	
44	都立三宅 高等学校	三宅村	全	普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。

▽産業科

45	都立橘 高等学校	墨田区	全	産業科 (210)	「ものづくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、将来、地域社会・産業界を担う人材と起業家を育成します。「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、上級学校への進学を視野に入れた好ましい勤労観・職業観を身につけるキャリア教育を実践します。
			定	産業科 (60)	
46	都立八王子桑志 高等学校	八王子市	全	産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野 (35) ：ビジネス情報分野 (70)	本校は IT 特区 & 学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を発展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって時代の要請に応える「未来の産業人」の育成です。

▽情報科 (単位制)

47	都立新宿山吹 高等学校	新宿区	定	普通科 (100) 情報科 (65)	各自が興味・関心・進路等に基づき科目を選び幅広く、深く、学習するので、基本的に一人一人時間割が異なります (単位制)。定時制 (普通科・情報科) と通信制 (普通科) があり、どちらも、努力次第で3年間で卒業ができます (三修制)。定時制は、朝から夜まで、1部から4部の四つの部に分かれます (4部制)。情報科は、都立唯一の普通教科情報科の専門学科です。通信制は、平日は自宅でレポート作成を行い、土曜日はスクーリングで本校に登校し授業を受けます。 教員相互の授業見学を全教員で行い授業力を高め、本校教員による夏期講習等も行っています。昨年度は、国立大学や、早慶上智・GMARCH 理科大等の難関私大に現役で 42 名の合格者を出しました。
			通	普通科 (50)	

▽総合学科

48	都立青梅総合 高等学校	青梅市	全	総合学科 (240)	平成 18 年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。豊かな自然に恵まれ、都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を活用して食・農・環境等の様々な体験活動を通して学ぶ特色ある総合学科高校である。全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の 5 系列を、定時制課程は生命・自然、生活・福祉の 2 系列を設けている。
			定	総合学科 (90)	
49	都立葛飾総合 高等学校	葛飾区	全	総合学科 (240)	平成 19 年度に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。 国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、環境サイエンス、情報メディア、メカトロニクスの 6 系列を配置している。ゼミナールと同様の講座を開講して課題研究に取組ませ、卒業生全員に 2 万字の論文作成を課している。生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目から「自分だけの時間割」を作成させる指導など系統的なキャリア教育により、社会で有用となる基礎的汎用的能力を育成し、生徒個々の進路実現を目指している。
50	都立杉並総合 高等学校	杉並区	全	総合学科 (240)	平成 16 年 4 月に、東京都で 3 番目の総合学科高校として開校。学校のキャッチフレーズは、「志を世界に繋ごう 自己実現・国際人・生涯学習」国際理解教育に特に力を注いでおり、第二外国語の必修化 (1 年次で中国語かハンガール)、台湾修学旅行、姉妹校交流 (オーストラリアのフォートストリート高校、台湾の内思高級職業高等学校)、年間 5 回程度の海外訪問団受け入れ、年間 10 名程度の留学生の受け入れ、交換留学 (オーストラリアとフランス) 等の実施のほかに、トビタテ留学ジャパンで 2 年連続 10 名以上を海外に派遣。また、平成 28 年度は次世代リーダー育成道場で 4 人が 1 年間の海外留学をした。個人で留学する生徒は年々増えている「人間・社会、科学・環境、メディア・文化、ビジネス、国際コミュニケーション」の 6 系列を持つ。
51	都立世田谷総合 高等学校	世田谷区	全	総合学科 (240)	○平成 20 年 4 月開校 ○幅広い 6 系列 (社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり) に魅力ある様々な選択科目を配置し、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー (身だしなみ、頭髪等) を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視
52	都立つばさ総合 高等学校	大田区	全	総合学科 (240)	平成 14 年に新規開校した都立 2 校目の総合学科高校である。美術・デザイン系列、科学・技術系列、国際・コミュニケーション系列、スポーツ・健康系列、生活・福祉系列の 5 系列を配備し、生徒が自身の適性・能力・興味・関心・進路希望等に応じて独自の時間割を編成し学習を進め、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001 (国際環境認証) を取得し、環境教育に力を入れ、平成 19 年度「環境大臣賞」、平成 21 年度「文部科学大臣賞」、27 年度「米国環境保護局 EPA 表彰盾」を受賞している。豊かな施設・設備の下、部活動も盛んであるとともに、様々な地域連携活動を展開し、地域に愛され親しまれている学校である。
53	都立晴海総合 高等学校	中央区	全	総合学科 (280)	東京都の総合学科高校のバイオニア校として平成 8 年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会・経済の 6 系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。「青い海 潮風の中 自分探しの旅に出よう！」のキャッチフレーズのとおり、「自分だけの時間割」を作成しながら夢の実現方法を学んでいる。

	学校名	所在地	課程	平成 29 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
54	都立東久留米 総合高等学校	東久留米 市	全 定	総合学科 (240) 総合学科 (60)	本校は、平成 19 年 4 月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。 全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力選択や先進的な進路指導により大学などへの 希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・ 福祉、美術・デザインの 6 系列を設置。 定時制では、教養、情報・ファイナンスの 2 系列を設置するとともに、三修制を実施。
55	都立若葉総合 高等学校	稲城市	全	総合学科 (240)	平成 17 年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」 と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・ 芸術表現・伝統継承・情報交流の 4 系列を持つ。教育目標のコンセプト “TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE” *大志を抱き (AMBITIOUS)、生き生きと活動し (ACTIVE)、 魅力あふれた (ATTRACTIVE) 若者を育てる学校
56	都立町田総合 高等学校	町田市	全	総合学科 (240)	○平成 22 年度 4 月開校、全日制総合学科高等学校 ○社会での生き方を視野に捉えた「キャリア教育」を教育活動の根幹とした学校 ○校訓「創」;「自分創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○基本的な学力を養うとともに、生徒一人ひとりが自己実現のための科目を自ら選択す る。自分で創る自分自身のための時間割 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の 4 つの系列・自らを磨く「日本文化」の授業・社 会と連携し、体験を重視した教育活動・自主・自立・自律の部活動 a
57	都立王子総合 高等学校	北区	全	総合学科 (240)	平成 23 年度開校、全日制総合学科高等学校。 ○「Design Your Dream」(自己の生き方を真剣に考え将来を切り拓く力をつける学校) をキャッチフレーズとしている。自己の進路へ自覚を深め自ら夢を描き、その実現に 向かって意欲的に計画し実行する行動力と態度を育てていきます。 ○「メディア・ネットワーク」「ビジネス・コミュニケーション」「工業・デザイン」「伝 統文化・工芸」「スポーツ・健康」の 5 つの系列があります。

▽総合学科 (チャレンジスクール)

58	都立大江戸 高等学校	江東区	定	総合学科 (150)	平成 16 年 4 月開校の三部制総合学科 (単位制、定時制) 高校。「伝統・文化」「情報・ビ ジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。 体験学習や実習を重視し、少人数の授業で一人一人が分かるまで指導します。「一人一 人の学びを実現する学校」「一人一人のチャレンジを支援する学校」「地域に支えられ育 てられる学校」
59	都立桐ヶ丘 高等学校	北区	定	総合学科 (150)	平成 12 年度に開校した、最初のチャレンジスクール (総合学科、単位制、昼夜間開講 三部制の定時制) です。 『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の 3 系 列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化 ④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。
60	都立世田谷泉 高等学校	世田谷区	定	総合学科 (180)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる 総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「製作・技術」「生活・福祉」 「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
61	都立稔ヶ丘 高等学校	中野区	定	総合学科 (210)	平成 19 年 4 月に開校したチャレンジスクール (三部制定時制、総合学科、単位制) です。 各学年 7 学級で、校服(制服)があり静かな学習環境です。心理学に裏づけされた授業「コー ピング」があり、「対人関係力、学習スキル」を向上させていきます。「強い (つよい) 心」 「自立した未来」のもとたくさんの選択科目や少人数授業、体験学習を行っています。
62	都立六本木 高等学校	港区	定	総合学科 (150)	平成 28 年度に創立 12 年目を迎えたチャレンジスクール。小中学校において不登校を経 験した生徒、高校を中退した生徒、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった 生徒が自分の夢に向かってチャレンジしています。教育目標は“見つけて 磨いて 未来を拓く”です。基礎力を身に付けさせる普通科目と 3 つの系列に属する特色のある 学校設定科目で生徒の見つけて磨く力をサポートしています。丁寧な進路指導により生 徒の未来を拓く力を伸ばし、進路実現を図っています。

▽普通教育を主とする学科 (単位制)

63	都立浅草 高等学校	台東区	定	普通科 (240)	平成 18 年 4 月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三 部制、普通科の単位制高校である。9 階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタ イプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直してから大学受験まで対応 するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。
----	--------------	-----	---	-----------	--

国立高校

1	東京工業大学 附属 科学技術 高等学校	港区	全	科学・技術科 (推薦 60、一般 140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学 技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来 る授業を展開している。2 年次から、材料科学・環境科学・バイオ技術、情報・コンピュ ータサイエンス、システムデザイン・ロボット、エレクトロニクス・エネルギー・通信、 立体造形・デジタルデザインの 5 分野に分かれる。
---	------------------------------	----	---	--------------------------	--

高等専門学校

1	都立産業技術 高等専門学校	品川区 荒川区	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	平成 18 年度に都立工業高等専門学校 (工業高専) と都立航空工業高等専門学校 (航空高専) の再編統合を行い、本科の“ものづくり工学科”に 8 つの教育コースを設置した東京都立 産業技術高等専門学校を開校しました。本校では「首都東京の産業振興や課題解決に貢献 するものづくりスペシャリストの育成」を目指しており、平成 28 年からは「情報セキュリ ティ技術者育成プログラム」「航空技術者育成プログラム」を新設し、首都東京が抱える 課題解決に貢献しています。更に、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対 応できる、より高度な総合的実践的技術者を育成することを目指し、本科 5 年の上 2 年 の専攻科課程“創造工学専攻”を設置しています。平成 20 年 4 月には、公立大学法人首 都大学東京に移管し、同法人の首都大学東京及び産業技術大学院大学との連携を推進して います。
---	------------------	------------	---	-------------------------------	---

学校名	所在地	課程	平成29年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
-----	-----	----	----------------------	----------

**専修学校**

1	愛国学園保育 専門学校	江戸川区	昼 幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (募集停止中)	本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得でき、介護福祉士専攻科は、卒業と同時に介護福祉士資格が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を得ている。
2	青山製図 専門学校	渋谷区	昼 建築工学科 (30) 建築設計デザイン科 (60) 住宅設計デザイン科 (30) 建築インテリア工学科 (30) 商空間デザイン科 (30) 建築インテリアデザイン科 (40) 建築設計研究科 (80)	昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の8学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
			夜 建築科 (50) インテリア工学科 (30)	
3	香川調理製菓 専門学校	豊島区	昼 調理マスター科 (40) 調理師科 (120) 製菓科 (120)	女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部を併設する香川調理製菓専門学校は1959年、調理師学校として東京都で最初に認可を受けた伝統校です。校内には、一般のお客様を対象とした営業店を設置し実際の現場で実際のお客様を対象に仕事を学ぶという独自のカリキュラムに取り入れている。調理マスター科は職業実践専門課程の認定を受けました。
4	国際デュアル ビジネス専門 学校 (新校名)	台東区	昼 国際観光学科4月生 (30) 国際ホテル学科4月生 (120) 医療・医薬学科4月生 (40)	『実践教育』実現のため、座学と企業実習を組み合わせた、日本版デュアルシステムを取り入れている。 平成28年に国際ホテル学科について、職業実践専門課程の認定を受けた。
	国際観光専門 学校 (旧校名)			
5	国際理容美容 専門学校	荒川区	昼 職業実践専門課程⇒ 理容科 (80) 美容科 (120) ビジネス美容科 (80) 【修業年限2年】 専門課程⇒ ビューティアーティスト科(40) 【修業年限1年】 高等課程⇒美容高等科(60) 【修業年限3年】	専門的な知識・技術と共に、心からお客様に尽くす為に自らを磨き続けることのできる人間を育て、「匠」の教育を目標としている。また、生活文化の向上による顧客の多様なニーズに応え、今後の時代の変化に対応できる人材および業界の向上と発展を担う人間性と教養豊かな資質の高い職業人の育成を目指している。
			通 理容科 (40)、美容科 (80) 【修業年限3年】	
6	中央工学校	北区	昼 建築学科、建築工学科、 建築設計科、木造建築 科、建築設備設計科、建 築室内設計科 (260) インテリアデザイン科、 インテリア科 (40) エンターテインメント 設営科 (20) 土木建設科、造園デザイ ン科、測量科、地理空間 情報科 (160) 機械学科、メカニカルデ ザイン科、3D-CAD科 (50) スポーツ健康学科 (30)	中央工学校は1909年(明治42年)に創設し、2009年10月21日創立100周年を迎えた。伝統と歴史を誇る専門学校で、社会に送り出した卒業生は10万5,000人を超え日本の国づくりをリードしています。教育理念を『厳しい実務教育』『人間涵養教育』『楽しい学校生活』『誇りの持てる学校』とし、時代の変化やニーズに対応した教育内容と実習施設・設備を完備し、本格派の技術者を育成しています。学習面においては、クラス担任制できめ細やかな指導を行い、教師陣も技術革新の時代にふさわしい内容で備えています。学生寮なども充実しており、地方からの進学者にも安心して学べる環境となっています。資格についても建築系の全ての学科で卒業と同時に2級建築士の受験資格、土木・測量系学科では国家資格の測量士補が卒業と同時に無試験取得できる学科などプロフェッショナルになるためのカリキュラムを整えており、また、資格取得のバックアップ体制も整えています。就職指導においては、全国に広がった卒業生とのネットワークを活かしてクラス担任と就職指導の担当職員が連携を取り、学生の希望職種に就職できるようにしっかりとサポートしています。毎年ほとんどの学生が自分の目指す職業に内定を決めています。『中央工学校＝就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。
			夜 建築科 (80) 土木科・測量科 (30)	
7	東京エアトラベル・ ホテル専門学校	小金井市	昼 エアライン科 (60) エアポートサービス科(40) 英語キャリア科 (30) ホテル科 (60) ブライダル科 (60) ビジネスマナー・秘書科(30) ファッションビジネス科(30) 観光旅行科 (30) 鉄道交通科 (40) 研究科 (20)	昭和48年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、鉄道の各分野に優秀な人材を送り出している。少人数制で仕事に直結した豊富な実習やインターンシップ実習での現場を体験、ことば遣いや礼儀作法などのホスピタリティ教育、英語の他にも近年需要が高まっている中国語や韓国語などの語学教育など充実したカリキュラムで、社会で通用する品格のある人材を育成。こうした教育内容が評価され、現在は、アジアナスタッフサービス(株)や中国東方航空の採用指定校となっています。

	学校名	所在地	課程	平成 29 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
8	専門学校東京工科 自動車大学校	中野区	昼	1級自動車整備科 (4年・50名) 自動車整備科 (2年・100名) エンジンメンテナンス科 (2年・80名)	日本の基幹産業である自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した特徴ある学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。 一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラムと安心して学べる独自の授業システムにより「解る・出来る・取れる」教育をしています。 二級課程は短大卒と同等の専門士、一級課程は四大卒と同等の高度専門士の称号が付与され、大学院入学資格も与えられます。企業からの信頼も厚く、就職は毎年ほぼ 100%を達成。 平成 26 年度より「職業実践専門課程」の文部科学省大臣認定を受けている学校です。
9	東京工学院 専門学校	小金井市	昼	コンサート・イベント科 (60) 音響芸術科 (40) ミュージック科 (20) 放送芸術科 (30) 声優・ 演劇科 (40) ゲームクリ エーター科 (40) CG ク リエーター科 (30) Web クリエイター科 (30) マ ンガ科 (40) アニメーシ ョン科 (30) グラフィック デザイン科 (30) スポー ツビジネス科 (60) 幼児 教育学科 (40) こども学 科 (40) 教育専攻科 (40) 公務員科 (30) 建築学科 (40) インテリアデザイ ン科 (20) 情報システム 科 (40) 電気主任技術者 専攻科 (20) 航空学科 (20) 法律情報科 (30) 経営 情報科 (30) 大学併修学 科 (40) 研究科 (20)	昭和 34 年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を 50 年以上社会に送りだしている。 25 学科 59 コースもの多彩な専門分野から構成される総合学院であり、各専門分野の知識や技能を修得するのみならず、他の専門分野との学科間、コース間を越えた学びも可能。それぞれの専門分野が協力して成り立っている社会という形を学校内に再現することと、学生たちにとっては貴重な経験となっている。一つのキャンパスで様々な専門分野を学ぶ学生同士が交流できることで、新たな価値観に触れ視野を広げ、コミュニケーション能力を鍛えられるのも特長の一つ。各学科は少人数制なので、学生一人ひとりの個性や適性に合わせた丁寧な指導を実施。また、中央大学、産業能率大学、日本大学、姫路大学、星槎大学との 4 年制大学通信教育課程と連携した W スクールシステムにより、「専門士」と「学士」の両方の学位の取得も可能。 ビジネスの最先端で求められる力を身につけたスペシャリストの育成を目指している。
10	東京誠心調理師 専門学校	大田区	専門 [調理技術・福祉調理]	調理師科 2 年制 (120) シェフパティシエ科 2 年制 (40) 調理師科 1 年制 (40)	1970 年創立。2007 年 8 月急蒲田駅西口すぐそばに HACCP や ISO22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。 調理師科 2 年制には、学内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができます。 この他、毎年 2 月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。 2012 年からは、週 3 日制の夜間部 2 年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学し易い学科を設立。
			高等	調理師科夜間部 2 年制 (40)	
11	東京デザインテク ノロジーセンター 専門学校	新宿区	昼	スーパー IT 科 (80) IT・デザイン科 (80)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。 学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。
12	東京美容 専門学校	新宿区	昼	美容総合科ヘアスタイリ ストコース (80)(専門課程) 美容総合科トータルビュー ティーコース (40)(専門課程) エステティック科 (16)(専門課程) メイク・ネイル科 (40)(一般課程)	本校は 1947 年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に 70 年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約 80 店舗のヘア & ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。 また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
			通	美容通信科 (通信)(80) エステティック通信講座(16)	
13	東京 YMCA 医療福祉 専門学校	国立市	昼	社会福祉専門課程 介護福祉科 (2 年)(80) 医療専門課程 作業療法学科(3 年)(30)	世界の YMCA に共通の精神である「平和で優しい社会の実現に貢献する」に基づいて、学校法人東京 YMCA によって 1996 年に設立されました。 学生一人ひとりに合わせた指導で「人に向き合い、人を支える専門家」として豊かな人間性を持つスペシャリストを養成し業界に送り出しています。

	学校名	所在地	課程	平成29年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
14	日本ウェルネス スポーツ専門学校	練馬区	昼	アスレティックトレーナー科 (40) 健康スポーツ科(40) チャイルドスポーツ科(37) ウェルネスIT科A (4月入学)(30) ウェルネスIT科B (10月入学)(30)	日本ウェルネススポーツ専門学校は、1998年(平成10年)4月に開校された体育スポーツ・健康づくり及び、情報技術に関する知識・技能を修得するための専門教育を行い、その分野における指導並びに社会活動に対応し得る人材を育成する専門学校です。本校はオリンピック出場、世界選手権優勝、国際大会優勝等、数々の実績を残しているスポーツ専門学校の名門です。 競技スポーツを中心としたアスリート(硬式野球・サッカー・陸上など多数のスポーツ)の他、スポーツトレーナー(トップアスリート、スポーツクラブ、学生のトレーナー)、スポーツインストラクター、保育士、幼稚園教諭、幼児体育指導者のスペシャリストを養成します。 学校主導の徹底した就職支援による高い就職率と、たくさんの専門資格を取得できることが特色です。 本校グループでは、スポーツ業界初の「専門学校・大学連携の内部推薦制度」が誕生しました。本校の卒業生は内部推薦により、「日本ウェルネススポーツ大学」の3年次に編入学できます。3年次編入の際、本校での取得単位が大学の単位として読替えされるので、編入後無理なく2年間で大学を卒業できます。 また、日本ウェルネススポーツ大学では「保健体育教員免許」の取得が可能です。 本校卒業後、大学にて学位を取得し、職業に直結した実践力を深めたい方には、この内部推薦制度による編入学はお勧めです。
			夜	アスリート研究科(40) 保育科(40)	
15	日本工学院 専門学校	大田区	昼	放送芸術科(160)、声優・ 演劇科(160)、演劇ス タッフ科(80)、マンガ・ アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメ ション科(200)、ゲー ムクリエイター科四年制 (80)、ゲームクリエイ ター科(80)、CG映像 科(80)、グラフィック デザイン科(40)、Web クリエイター科(40)、 インテリアデザイン科 (40)、プロダクトデザイ ン科(40)、ミュージッ クアーティスト科(80)、 コンサート・イベント科 (320)、音響芸術科(80)、 ダンスパフォーマンス科 (80)、ITスペシャリス ト科(80)、情報処理科 (160)、パソコン・ネッ トワーク科(40)、情報 ビジネス科(40)、電子・ 電気科(120)、環境・バ イオ科(40)、建築学科 (40)、建築設計科(80)、 機械設計科(40)、医療 事務科(40)、臨床工学 専攻科一年制(80)平成 29年度実績	本校は、1947年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来創造に寄与する」をミッションとし、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりもの実績と自負しております。 多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制 長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するために、カレッジ制を導入。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。 「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」の6つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。 より充実した教育を提供する「教育設計図」 本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。

	学校名	所在地	課程	学校の概要・特色
16	日本工学院 八王子専門学校	八王子市	<p>平成 29 年度募集 学科及び募集人数</p> <p>放送芸術科 (80)、声優・演劇科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメーション科 (120)、ゲームクリエイター科四年制 (80)、ゲームクリエイター科 (40)、CG 映像科 (80)、グラフィックデザイン科 (40)、Web クリエイター科 (40)、インテリアデザイン科 (40)、プロダクトデザイン科 (40)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (120)、音響芸術科 (40)、IT スペシャリスト科 (40)、情報処理科 (120)、パソコン・ネットワーク科 (40)、情報ビジネス科 (40)、ロボット科 (40)、電子・電気科 (120)、一般自動車整備科 (100)、自動車整備科 (40)、建築学科 (40)、建築設計科 (120)、土木造園科 (80)、機械設計科 (40)、スポーツトレーナー科三年制 (40)、スポーツトレーナー科 (40)、スポーツ健康学科三年制 (40)、スポーツ健康学科 (120)、医療事務科 (40)、鍼灸科 (60)、柔道整復科 (60)、こども学科 (80) 平成 29 年度実績</p>	<p>学校の概要・特色</p> <p>本校は、1947 年に東京都大田区西蒲田に創立した創美学園を起源とし、1987 年に八王子市に開校しました。「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、約 38 万㎡の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を機能的にレイアウト。充実した学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、それぞれが各分野の第一線で活躍していることが、本校の教育の何よりももの実績と自負しております。</p> <p>多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制</p> <p>長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウと、グレードの高い専門教育を実現するため、カレッジ制を導入。総合専門学校のメリットはそのままに、これまでの学科を発展させ、より専門性を追求する学習環境を実現。「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わりました。</p> <p>「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」「スポーツ」の 7 つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造を実現しています。</p> <p>より充実した教育を提供する「教育設計図」</p> <p>本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結集・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。すべての学生にこの「教育設計図」に基づいた「専門力」教育を行うとともに、社会人として必要不可欠となる「人間力」の育成にも力を入れ、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。</p>
17	日本電子 専門学校	新宿区	<p>コンピュータグラフィックス科 (160)、コンピュータグラフィックス研究科 (40)、CG 映像制作科 (40)、ゲーム制作科 (150)、ゲーム制作研究科 (120)、ゲーム企画科 (80)、アニメーション科 (80)、アニメーション研究科 (40)、Web デザイン科 (80)、グラフィックデザイン科 (80)、ケータイ・アプリケーション科 (40)、ネットワークセキュリティ科 (80) 情報処理科 (120)、情報システム開発科 (80)、高度情報処理科 (80)、電子応用工学科 (40)、電気工学科 (50)、高度電気工学科 (30)、電気工事技術科 (50)</p> <p>夜</p> <p>ネットワークセキュリティ科 (40)、情報処理科 (40)、電気工学科 (50)、電気工事士科 (50)</p>	<p>「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生かせる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。</p>

	学校名	所在地	課程	平成29年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
18	二葉栄養 専門学校	武蔵野市	昼	管理栄養士学科 (40) 栄養士科 (120) 調理師科 (76) 調理実践科 (76)	本校は開校以来数多く調理師、栄養士を養成してまいりました。平成14年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に開設し、平成27年には第10期生の90.6%を管理栄養士国家試験合格として輩出いたしました。栄養士科においては2つのコースを2年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により、就職希望者に対する就職率100%を実現しています。また、調理師科においては基礎衛生知識と、食の安全を中心に学習、調理実習時間は300時間を設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応できる人材を育成しています。2年制の調理実践科を新設し調理実習授業のさらなる充実とフードサービス全般の知識と技術の習得をします。
19	二葉ファッション アカデミー	武蔵野市	昼 夜	ファッション総合学科(100) ファッション専攻科 (10) 高等 ファッションデザイン科(40) ファッション本科 (40) ファッション技術科 (40)	1937年の創立以来、ファッションデザイナーの森英恵先生をはじめとする、多くのファッションスペシャリストを産業界に送り出してきました。「涵養の精神と職業人としての自立」という建学の理念のもと、学内ブランドを有し、「東京コレクション」に参加する等、常に産業界と連携した教育活動を展開しています。
20	マリールイズ 美容専門学校	新宿区	昼	美容本科 (40) ・プライダグアルアーティスト コース ・国際スタイリストコース	105年を迎えるマリールイズ美容専門学校は、「日本の美容の歴史は、常にマリールイズと共にありました。」歴史を踏まえ「1に人格・2に技術」を教育の根幹に捉え、「1学年40人」少人数による指導の下で、一人ひとりの学生と向き合い「美容のプロ」を本気で育てたいと日々授業に取り組んでいます。その結果、美容師免許合格率100%の実績を積み重ね、未来の「夢実現」に卒業生を輩出しています。求人件数も約700社・就職について手厚くサポートします。授業内容は、入学後の6カ月間はカットやメイクの美容の基礎を学び、その後は、自らの個性を重視し、希望する「将来像」に合わせたコース選択を行っており、専門知識と技術を学ぶことができます。インターンシップを重視し、複数のサロンを経験します。さらに、卒業後の進路選択コースに合わせ、(株)美容マリールイズ企業連携、卒業生の経営するサロン提携等を結び、職業人として実習を通して、実践的なカリキュラムを編成、特色化を図っています。
21	町田・デザイン 専門学校	町田市	昼 通	建築デザイン科 (60)、 インテリアデザイン科 (40)、雑貨・プロダク トデザイン科 (40)、グ ラフィックデザイン科 (40)、イラストレーシ ョン科 (40)、Web・CG アニメーション科 (35)、 まんが科 (40)、コミッ クイラスト科 (60) 二級建築士受験科 (30) 建築デザイン科 (20)	創立38年の総合デザイン系専門学校です。 4学群(建築学群・ビジュアル学群・コミック学群・ライフ学群)・8学科38専攻で、3年制2学科(グラフィックデザイン科、Web・CGアニメーション科)2年制6学科で編成されています。独自のステップアップ方式とpeer.Cを特徴にした就職内定率95.8%、デビュー率66.6%の「就職・デビューに強い」デザインの専門学校です。 東京都初の通信制の学科を設置しています。最短2年で二級建築士の受験資格を取得する二級建築士受験科と二級建築士の受験資格と専門士を同時に取得する3年制の建築デザイン科を設置しています。両学科とも、eラーニングを使用しながら「いつでも、どこでも」学習が可能で、学費も昼間学科の1/3程度で学ぶことができます。
22	武蔵野東 高等専修学校	武蔵野市	昼	総合キャリア学科 (75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間の成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。
23	早稲田速記 医療福祉専門学校	豊島区	昼	医療秘書科 (120)、医療 マネジメント科 (80)、診 療情報管理専攻科 (30)、 医師事務技術専攻科(30)、 くすり・調剤事務科 (40)、 介護福祉科 (30)、鍼灸医 療科 (30)、看護科 (35)	1935年に創立し、1972年に日本で初めて医療秘書科をスタートさせました。いつも時代の先を読み、社会の変化に対応するスペシャリストを育てています。専門的な学びのほかに、マナーやコミュニケーション能力などの社会性を身につけることで、長く社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。正職員就職率が高いことも本校の特徴の一つです。

短期大学

1	愛国学園 短期大学	江戸川区	全	家政科： 家政専攻 (50) 食物栄養専攻 (50)	「経済的に独立し、家庭の幸福の源泉となれる女性の育成」の建学の精神の下、豊かな教養とともに、家政専攻では、家政学の幅広い知識と技術を身につけ、目指す将来に応じた実践力を養います。同専攻では中学校教諭二種免許(家庭)、医療事務管理士をはじめ、医・食・住・介護・福祉に関わる様々な資格が取得可能です。また、食物栄養専攻では、栄養士として、食・栄養の専門知識と技術に加え、思考力、実践力と問題解決力を養います。栄養士資格とともに、栄養教諭二種免許やフードスペシャリストの資格も取得できます。両専攻とともに卒業と同時に社会福祉主事任用資格が取得できます。また、所定の単位を取得することによりフードコーディネーター3級の資格を取得できます。他にも秘書技能、簿記、アロマセラピーなど様々な検定資格取得の支援科目や、アスリートフードマイスター3級、介護職員初任者研修終了資格を得るための講座も設けられています。
2	東京家政大学 短期大学部	板橋区	全	保育科 (120) 栄養科 (80)	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。保育科は保育士、幼稚園教諭二種の資格・免許が取得でき、90%が専門職に進路を決定。公立の保育士合格者多数。栄養科は栄養士、中学校教諭二種(家庭)、栄養教諭二種の免許、フードスペシャリスト(受験資格)が取得でき、栄養士には約40%、その他食品関連企業を中心に一般企業に進路を決定。

## 平成28年度 会 員 中 学 校

公立中学校

	学校数		学校数		学校数		学校数		学校数
千代田区	2	墨田区	10	渋谷区	8	練馬区	34	調布市	8
中央区	4	江東区	23	中野区	11	足立区	36	東村山市	1
港区	10	品川区	9	杉並区	23	葛飾区	24	狛江市	4
新宿区	10	目黒区	9	豊島区	8	江戸川区	33	東大和市	5
文京区	10	大田区	28	北区	12	武蔵野市	6	羽村市	3
台東区	7	世田谷区	29	荒川区	10	府中市	11	三宅村	1
合 計									389

区立中等教育学校
千代田区立九段中等教育学校
区立義務教育学校
品川区立日野学園
品川区立伊藤学園
品川区立八潮学園
品川区立荏原平塚学園
品川区立品川学園
品川区立豊葉の杜学園

都立中学校
東京都立白鷗高等学校附属中学校
東京都立両国高等学校附属中学校
東京都立武蔵高等学校附属中学校
東京都立富士高等学校附属中学校
東京都立大泉高等学校附属中学校
都立中等教育学校
東京都立小石川中等教育学校
東京都立桜修館中等教育学校
東京都立立川国際中等教育学校
東京都立南多摩中等教育学校
東京都立三鷹中等教育学校

私立中学校
愛国中学校
武蔵野東中学校
恵泉女学園中学校
国立大学法人
筑波大学附属中学校

## 個 人 会 員

- |           |           |           |           |           |          |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1. 堀居 英治  | 2. 齋藤 武捷  | 3. 倉持 俊義  | 4. 梶谷 正義  | 5. 末松 茂孝  | 6. 内川 武雄 | 7. 中村 浩   |
| 8. 小島 勤   | 9. 松井 章朗  | 10. 花野 耕一 | 11. 富岡 逸郎 | 12. 曾根 敏邦 | 13. 森 健  | 14. 福島 正幸 |
| 15. 佐々木健一 | 16. 石曾根栄人 | 17. 佐藤 航一 |           |           |          |           |

## 本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与すること」を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で入会希望の方または新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1  
東京都新宿区教育庁都立学校教育部高等学校教育課内  
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内  
東京都産業教育振興会事務局  
TEL 03-5320-6729 FAX 03-5388-1727

## 編集後記

昨年度は東京都産業教育振興会が設立されて60年を迎えたことから、会誌第53号を「60周年記念特別号」とし、特集テーマを「東京都産業教育 この10年の歩み、そして提言」といたしました。

時代や社会が大きく変化しつつある中、本年度は、新たな10年の1年目に当たります。そこで、会誌第54号の特集テーマを「特色ある産業教育を目指して—各校・各学科の取組—」とし、現在、特色ある産業教育に積極的に取り組んでいる会員校の優れた実践から学ぶことといたしました。

ご多用中にも拘わらず、玉稿をご執筆いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後も本会への更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

産業界と教育界、行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン (平成24年度本誌第50号記念表紙デザインコンクール最優秀作品)  
製作者 川口彩花さん (東京都立工芸高等学校 グラフィックアーツ科3年:当時)

### 東京の産業教育 第54号

発行 平成29年(2017年)3月1日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729 FAX 03(5388)1727

印刷 株式会社小葉印刷所

再生紙を使用しています

## 広告 目次

1	株式会社カナック企画	表表紙 内 側
2	昭和第一学園高等学校	90
3	ヤマ産業株式会社	91
4	株式会社ツバサ	92
5	株式会社小薬印刷所	93
6	恵雅堂出版株式会社	94
7	東京美容専門学校	95
8	愛国中学校・高等学校	96
9	中央工学校	97
10	ベストワールド株式会社	98
11	東京 YMCA 医療福祉専門学校	99
12	株式会社第一成和事務所	100
13	マリールイズ美容専門学校	101
14	(公社) 東京都専修学校各種学校協会	102
15	学校法人誠心学園	裏表紙 内 側
16	エス・イー・シーエレベーター株式会社	裏表紙



# 昭和第一学園高等学校

Showa Daiichi Gakuen High School

普通科・工学科の総合学園

+  
One  
Step!

動き出す。  
未来は  
ココから

<教育目標>

確かな学力と豊かな人間性に支えられた人間力の育成



新しい

# 工学科

が始まります

2017年4月スタート!

これまでの機械・電子情報・建築デザインの  
3つのコースを統合し  
専門分野の垣根を取り払い  
「ものづくり」に関する  
総合的な知識と技術を学習できるように  
自分の進みたい分野を  
自分で創っていくことで  
理工系大学進学  
専門学校への進学、就職と  
多様な進路選択が可能となります。



〒190-0003 東京都立川市栄町2-45-8 TEL.042-536-1611 FAX.042-537-6880

<http://www.sdg.ed.jp>

昭和第一学園

検索

教育備品総合商社

# ヤマ産業株式会社

学びの場づくりの一翼をになつて、  
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

- スチール・木製家具
- 各種特別教室
- 黒板・スクリーン
- 学校用品
- 室内装飾
- 図書館設備
- 視聴覚設備
- OA事務機器



〒112-0015

東京都文京区目白台3-26-8

TEL : 03 (3941) 7258

FAX : 03 (3943) 3826

東京都経営革新奨励賞受賞



# 翼学院グループ

学習困難な児童・生徒のための進学・補習塾 **翼学院**

NHK総合・朝日学生新聞等メディアで話題  
芦澤式学習法が本になりました!

学院長が開発した対話と定式化の“芦澤式”指導法。  
学習が苦手でも学力が飛躍的にのびます。  
その実績が話題となり「学校では何ともしてくれない小中高生を  
何とかしてくれる塾」「他に例をみない塾」など多数のマスコミで  
紹介されています。

東京都指定  
児童発達支援・放課後等デイサービス **つばさクラブ**

対人関係など苦手感のあるお子さんのソーシャルスキルトレー  
ニングや学習のベースとなる復習を行っています。また、常勤の養護  
教諭(保健師・看護師、埼玉県立大学院で保健医療福祉研究)がメン  
タルケアやご家族からの相談を受けています。

NHK学園高等学校連携教育相談センター  
第一薬科大学付属高校連携センター **翼学院高等部**

「翼学院高等部」は生涯の生きる力を育む高校卒業サポート校です。  
主要5科目から実技科目まで教員免許所持の専門性の高い講師が  
指導。進学指導はもちろん、都立高での面接指導や全国ランキング  
No1就活本の執筆と当学院は“キャリア教育”に自信があります。地域  
企業と連携した就業体験で、自分の夢探しを行います。教員が同伴し、  
体験後に一緒に振り返ることで生徒の“夢”が見つかります。

落ちこぼれ  
でも  
大丈夫!  
**1か月で  
偏差値20伸ばす  
芦澤式学習法**

成績オール1、学校嫌い、学習障がいでも  
「学力と心を豊かに育める」指導法書えます!

NHK総合テレビ「おはよう日本」で  
独自の指導法を紹介!

「ウチの子、どうしよう……」  
とお悩みの親御さんも必ず解決できます!!

全国ランキングNo.1就活本を執筆!  
翼学院はキャリア教育に自信あり!!

2018  
年刊 **サクセス!**  
**一般常識  
最新時事**  
翼学院・芦澤唯志  
同じ問題  
が出た!  
売上実績  
No.1  
注目ニュースも  
業界のトレンドも  
まるわかり!!



「地域の皆様からのご支援に感謝し、これからも一筋に歩んでいきます!」

学院長 **芦澤 唯志**

公益財団法人 産業教育振興中央会 理事  
東京商工会議所 本部 生産性向上委員  
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員



(株)ツバサ  
**翼学院**

高砂校

青砥駅前校

水元校

東水元校

お問い合わせはこちらまで!

合格 ツバサ

☎03-5699-5283

翼学院

検索

# 印刷とともに85年

学会誌、社内報、教科書・教材、研究会報、講演会録、  
同窓会報、自費出版、少部数印刷等 ※事務局代行も承っております。

85年にわたり培ってきた信用が当社の  
財産です。安心してお問合せ下さい。



Since 1930



Small but Excellent

株會 小藥印刷所  
式社

〒104-0042 東京都中央区入船2-7-4

TEL (03) 3551-1222 FAX (03) 3551-3447

E-Mail [kogusuri@blue.ocn.ne.jp](mailto:kogusuri@blue.ocn.ne.jp)



KEIGADO PUBLISHING Co., Ltd

# 感動をカタチに、 想いを明日へ

- 卒業アルバム制作と出版活動を通じて培ったノウハウを土台に、一般企業や個人の皆様からも、様々な「思い出」にかかわる印刷物のご注文をいただいております。
  - 弊社は出版社ですので、一般への流通を希望される場合は、書店からの注文に応じることも可能です。
- 「思い出」の制作には、経験とアイデアと「想い」が必要です。何かを残そうと思いついたら、ぜひ下記の弊社企画室までご相談ください。

- 卒業アルバム
- 学校案内・会社案内
- 文集・記念誌
- 各種リーフレット
- ポスター制作
- 記念 CD・DVD 制作
- 自費出版制作
- 同窓会誌・広報誌
- 講演記録作成・聞き書き
- 出張取材・出張撮影



恵雅堂出版株式会社

〒162-0053 東京都新宿区原町 1-28  
TEL 03-3203-4754 企画室 8:30 ~ 17:30 土日祭除く



あらゆる美の感性を磨く。  
それは喜びと感動のはじまり。

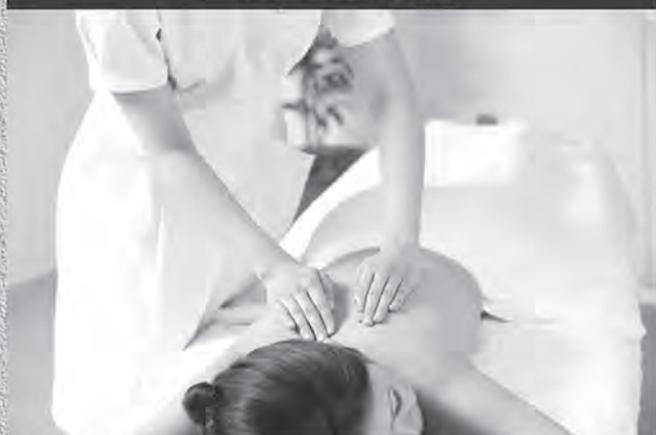
美容総合科 ヘアスタイリストコース



美容総合科 トータルビューティーコース



エステティック科



メイク・ネイル科



美容通信科

エステティック通信講座

## 体験入学

体験実習(選べる2コース)&個別説明  
土・日は毎週開催  
午前の部:10時~12時30分(先着4名)  
午後の部:14時~16時30分(先着4名)

ご予約はコチラ

☎0120-344276  
<http://www.tahb.ac.jp/nyugaku/taiken.html>

カット&スタイリングコース・フェイシャル&ネイルアートコース  
※希望のコースと土曜日が日曜日の午前か午後をお選びください。



携帯QRコード  
からお申込み

**tahb**\*

Tokyo Academy of Hairdressing & Beauty

学校法人 田中芸術学園  
**東京美容専門学校**

# 学校法人 愛国学園

愛国中学校 募集人員

60名

愛国高等学校 募集人員

普通科 160名

(一般教養コース・進学コース)

商業科 80名

(会計コース・情報処理コース)

家政科 80名

卒業と同時に無試験で

調理師免許取得

衛生看護科 40名

准看護師試験受験資格取得

資格試験 100%合格実績

創立79年

伝統ある中高一貫女子教育

愛国中学校・愛国高等学校

TEL.03-3658-4111 FAX.03-5668-1717

〒133-8585 東京都江戸川区西小岩5-7-1

中学校 <http://www.aikokugakuen.ac.jp/junior-high/>

高等学校 <http://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/>

京成小岩駅下車徒歩3分・JR小岩駅北口下車徒歩10分・北総線新柴又駅下車徒歩13分・JR金町駅よりバス12分

## 優先入学できる上級併設学校

愛国学園大学 人間文化学部



仕事や生活に直結する  
専門的知識や技能を修得

取得できる資格  
○認定心理士  
○上級秘書士  
○上級情報処理士  
○社会福祉主事任用資格  
など

愛国学園短期大学 家政科 (家政専攻・食物栄養専攻)



食と健康に関する  
広範囲な知識を修得

取得できる資格  
○栄養士免許  
○中学校教諭二種免許(家庭)  
○栄養教諭二種免許  
など

愛国学園保育専門学校 幼児教育科 (2年制)



人間性豊かな保育士、  
幼稚園教諭へ

取得できる資格  
○幼稚園教諭二種免許  
○保育士

愛国高等学校衛生看護専攻科 (全日制2年過程)



看護師として必要な知識、  
技術を修得する

取得できる資格  
○看護師国家試験受験資格  
※衛生看護専攻科受験資格  
高等学校卒業かつ  
准看護師資格所有

愛国学園は皆さんの夢を応援しています

Feel Next Stage

Since 1909

# 中央工学校

108年を超える伝統と実績！  
あなたの夢《未来》を勝ち取る！



## 建築・木造・設備

- 建築学科 (4年) ■建築設備設計科 (2年)
- 建築工学科 (3年) ■建築室内設計科 (2年)
- 建築設計科 (2年) ■夜間 建築科 (2年)
- 木造建築科 (2年)

### 《建築関連学科》

— 平成28年1級建築士試験 専門学校トップの合格者数 —  
平成28年1級建築士試験「設計製図の試験」学校別合格者一覧が発表され、専門学校では連続トップの成績を収めました。  
(平成28年12月15日、公益財団法人建築技術教育普及センター発表)



## 室内・インテリア・家具

- インテリアデザイン科 (3年)
- インテリア科 (2年)

### 《インテリア関連学科》

住空間・商業空間のインテリアデザインから、施工方法まで学び、さらに家具デザイン・家具制作技術などを身につけた、インテリアデザイナーを目指します。



## 舞台美術・イベント設営

- エンターテインメント設営科 (2年)

### 《エンターテインメント設営科》

TVや野外ステージなどの設営に必要な設計技術(舞台造形・空間装飾デザインなど)から、仮設足場を計画し、イベント設営物の制作・設営技術まで習得します。



## 土木・測量・造園

- 土木建設科 (2年) ■造園デザイン科(2年)
  - 測量科 (1年) ■夜間 土木科 (2年)
  - 地理空間情報科(1年) ■夜間 測量科 (2年)
- 《測量士補取得者対象》

### 《土木・測量関連学科》 ※造園デザイン科を除く

Point 1	Point 2	Point 3
卒業と同時に測量士補を無試験取得※	2年の実務で測量士を無試験取得※	地理空間情報科を卒業すると測量士を無試験取得



## 機械・CAD

- 機械学科 (4年)
- メカニカルデザイン科 (2年)
- 3D-CAD科 (2年)

### 《機械・CAD関連学科》

身の回りの工業製品などの、設計技術を作品制作を通して、習得します。  
また、最先端のCAD技術を短期間に習得できます。



## スポーツ《ビジネス・トレーナー・インストラクター》

- スポーツ健康学科 (2年)
- ・スポーツビジネスコース
- ・チャイルドスポーツコース
- ・スポーツインストラクターコース
- ・福祉スポーツコース
- ・スポーツトレーナーコース
- ・競技スポーツコース

### 《スポーツ健康学科》

スポーツの専門知識や技術はもちろん身に付きますが、PC・流通・簿記会計のビジネス教育も学び、スポーツ業界で幅広く活躍できるスペシャリストを育成します。

- 〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目26-17
- TEL: 03-3905-1511 (入学相談室) ☎0120-79-1511
- PC: <http://chuoko.ac.jp> (携帯からもアクセス可)
- Mail: [info@chuoko.ac.jp](mailto:info@chuoko.ac.jp)



オフィシャルサイトにアクセスできます。  
(資料請求や学校説明会・体験入学の申込可能)





ベストワールド株式会社



〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-7-4  
TEL: 03-3295-4111 FAX: 03-3295-4118

当社は昭和 44 年創業以来、約 50 年に亘り旅行業を営んでまいりました。

顧みますと、無事今日を迎えることが出来ましたのは、社員一同の弛まぬ刻苦精励によることはもとよりですが、何と申しましても創業以来、数限りない多くの方々から絶大なるご支援とご愛顧を賜り、今日に至っております。

おかげさまで創業以来、借入金は皆無で、常に好成績を維持して参り、各方面から、当業界の中でも、特に優れた健全な経営であると賛辞を賜っております。

旅行業に携わる私共としまして多くの方々と一緒に、旅のお供が出来ましたことは、何物にも代え難い感動であります。

社訓は下記三条項であります、これは創業時の精神であります。

- 世のお役に立つ
- 顧客の喜びをわが喜びとする
- 顧客との出会いを尊び、ご縁を大切に

昨今の厳しい環境と予測も困難な変化の渦中に在っては、創業の精神を想起し、向上発展を志すことこそ、最も肝要であると確信いたしております。

これを機に、心を一新して、社業発展に邁進の覚悟であります。

#### 【主な業務内容】

##### 1. 海外旅行業務

- 海外団体旅行の企画、主催、諸手配、添乗
- ホームステイによる英語研修、海外留学の企画
- 海外業界視察、研修、親善旅行等の企画、主催、並びに業界訪問の予約業務等
- 修学旅行・国内旅行
- ジャパンフェスティバル

##### 2. IATA 公認代理店業務

- IATA 加盟の航空各社の航空機の予約と発券

##### 3. 海外オペレーター業務

##### 4. 旅行附随業務

- 旅行傷害保険代理店
- 海外旅行用品の販売
- 海外イベント、フェスティバル、国際見本市等の情報収集並びに手配

##### 5. 国内旅行

- 国内旅行全般の斡旋並びに手配

##### 6. 輸入販売業務



# YMCA 東京 YMCA 医療福祉専門学校

厚生労働大臣指定 介護福祉士養成施設・作業療法士養成施設 職業実践専門課程認定校

## 介護福祉科

昼間部 2年制・男女80名

卒業時、介護福祉士国家試験受験資格取得

## 作業療法学科

昼間部 3年制・男女30名

卒業時、作業療法士国家試験受験資格取得



「互いに愛し合いなさい」これが私たちのカレッジスピリットです。  
私たちが忘れてはならない優しさや思いやり、それはそのまま医療・福祉の原点でもあります。  
生きるために他人の手を必要とする人々を、直接支える介護福祉士・作業療法士には、専門知識  
や技術だけでなく、常に笑顔と優しさを持って人と接することができる豊かな人間性が求められ  
ています。人間愛に基づいた本物の医療・福祉を実践できるスペシャリストになっていただきたい  
と、私たちは心から願っています。  
一人ひとりを大切に育てる個別指導、ぜひ皆さんの目を見て、本校の雰囲気を感じてください。

### ◎オープンキャンパス 13:30~16:00 ☆10:00~12:30

2017年 4月22日(土)・5月6日(土)・6月10日(土)・6月24日(土)  
7月9日(日)※ [10~14:00]・7月29日(土)・☆8月6日(日)  
8月17日(木)・☆8月27日(日)・9月9日(土)・☆9月24日(日)  
10月15日(日)・11月5日(日)  
2018年 1月14日(日)・3月18日(日)

### ◎夜のオープンキャンパス 19:00~20:00

2017年 8月3日(木)・10月27日(金)・11月20日(月)

### ◎夏祭り(学園祭) 10:00~14:00

2017年 7月9日(日)〔オープンキャンパスも同日開催です〕

〒186-0003 東京都国立市富士見台2-35-11

TEL: 042-577-5521 FAX: 042-577-5506

email: ifs@tokyo.ymca.ac.jp URL: <http://tokyo.ymca.ac.jp/ifs/>



# インターンシップ・ボランティア等体験活動保険

キャリア教育  
補償制度

職場体験・就業体験・奉仕活動中の賠償事故・ケガに対応

低額の保険料で  
高い補償

賠償責任保険  
→250円  
(年間)

傷害保険  
→30円から  
(1日あたり)

## 対象となる活動

学校が教育活動の一環とするキャリア教育（職場体験等）、インターンシップ（就業体験等）、ボランティア（奉仕活動）

詳しくは産業教育振興中央会  
ホームページをご参照ください。

<http://www.sansinchuoukai.or.jp>

※2008年度の制度改定により、対象となる活動を勤労観、職業観育成のための上記の活動に限定しておりますのでご注意ください。

## 補償の対象者

学校教育法に定める小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校（盲、聾、養護学校）、高等専門学校の児童・生徒・学生（専攻科生徒・学生を含みます。）

## 保険金のお支払い事例

### 賠償責任保険

<p>ボランティア活動 (奉仕活動)</p> 	<p>インターンシップ (就業体験)</p> 	<p>介護体験等</p> 
--	--	--

### 傷害保険

<p>①ボランティア活動に参加する途中で自動車にはねられた。</p> 	<p>②インターンシップ体験中にケガをした。</p> 	<p>③介護体験中にケガをした。</p> 
--	--	--

活動内容 (場所)	事故内容	賠償金額	活動内容 (場所)	事故内容	賠償金額 (治療日数)
職場体験活動 (インターンシップ先)	農作業の実習中にローダー操作を誤り牛舎を破損。	306,600円	就業体験活動 (インターンシップ先)	精肉加工コーナーで肉を切っていた時に誤って指を切る。	32,000円 (通院16日)
就業体験往復途上 (帰宅途上)	自転車で帰宅中に十字路で出会い頭に衝突し、他人にケガを負わせる。	838,720円	就業体験往復途上 (帰宅途上)	自転車で帰宅中、見通しの悪い下り坂で車と正面衝突し負傷。	18,000円 (入院3日・ 通院3日)
ボランティア活動中 (ボランティア先)	除草作業中に誤ってガラス窓を破損。	42,000円	ボランティア活動中 (ボランティア先)	草むしりをしていたところ、ミツバチに指を刺された。	2,000円 (通院1日)

※実際のお支払いはご加入の内容やおケガの状態により異なります。

# 伝承される技術と心。

The beauty training school which was established by The principal Marie Louise at 1912. By keeping the history and tradition for 104 years, it have been become The Marie Louise Beauty Special School. We have philosophy that of `1st personality, and technique`. We educate students who will be able to produce the beauty and the happiness. We create originality by absorbing from the leading fashion, yet inheriting from the tradition. Yes! We, Marie Louise Beauty Special School, will send out many `professionals` to the world.



## マリールイズ美容専門学校が新たな歴史を歩み始めました。

初代校長マリールイズが創設した美容講習所は、  
104年の歴史を経て現在のマリールイズ美容専門学校に至っています。  
「一に人格、二に技術」という理念のもと、美と幸せをプロデュースする人材を育成。  
伝統を受け継ぎながらも、時代の最先端をゆく美容を取り入れ、  
オリジナリティを大切にした教育方針で、「プロフェッショナル」を送り出しています。

### ■国際ヘアスタイリストコース

海外経験豊かな教員の指導のもと、語学、技術ともに将来グローバルに活躍する美容師育成に力を入れています。

### ■ブライダルアーティストコース

マリールイズグループで婚礼美容業務に携わっている教員の指導のもと、着付けはもとより、ヘアセット、アップ、メイクまで丁寧に教育しています。

●一学年 40 名の少人数体制 ●美容師免許取得可能 ●充実したサロン実習

「学校見学 & 体験入学」随時受付中！ ※詳しくはお電話又はホームページにてお問い合わせください。



学校法人 マリールイズ学園 厚生労働大臣指定

マリールイズ美容専門学校

<お問い合わせ>

TEL:03-3357-8015 [www.marie-louise.ac.jp](http://www.marie-louise.ac.jp)



いいかも！  
高等専修学校！

## 中学校のみなさまへ

- 高等専修学校で「総合的な学習の時間」の授業プログラムの実施
- 中学校生徒の高等専修学校訪問の受け入れ
- 高等専修学校から中学校の「総合的な学習の時間」授業への講師派遣

## 高等学校のみなさまへ

- キャリア教育における講師派遣
- 大学・短期大学・専門学校への進学
  - 分野別の教育内容、取得資格、就職指導など
  - 学納金、奨学金について
  - 体験学習、卒業生や在校生の体験談など



やっぱり  
専門学校だっ！

「わたしの進路が見えてきた！」をお手伝い

# 〈キャリア教育〉を スペシャリストが サポート

キャリア教育のあり方が模索されているいま、東京都専修学校各種学校協会では、キャリア教育のスペシャリストによる出張授業や講演、また上位学校の訪問などの提案やコーディネートを実施し、子どもや若者が「自立して生きていくために必要な能力や人間性を育てる教育」（中央教育審議会）のお手伝いをしています。

上記のほかにもさまざまなテーマやご要望に応じたアレンジをご提案。現場の先生がたより「生徒たちは、将来についての考えをいっそう深めることができました」「インターネットや本からは得られない実感的な手応えをつかんだようです」とご好評をいただいています。

お問い合わせ、資料のご請求：

**公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会**

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-58-1 石山ビル 6階 TEL 03-3378-9601 / FAX 03-3378-9625

info@tsk.or.jp <http://www.tsk.or.jp/>

充実のガイドブックを  
無料でお送りしています！

協会ウェブサイトよりお申し込みください。



東京都高等専修学校概要



東京都専門学校概要



東専各

検索

〈出版物のご案内と申込〉



〈協会出版物〉